

**(仮称)**

**第6次沖縄市地域保健福祉(活動)計画に関する  
市民アンケート調査  
調査結果報告書**

**令和2年度**

**令和3年3月**

**沖縄市**



# もくじ

第1章	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	回答状況	1
5	報告書の見方	3
第2章	調査結果	5
1	あなた（宛名の方）の性別・年齢・ご家族などについて	7
(1)	性別	7
(2)	年齢	7
(3)	世帯構成	8
(4)	雇用形態	9
(5)	住んでいる自治会	10
(6)	在住年数	10
(7)	付き合いのある人	11
(8)	「地域における助け合い」への関心	11
2	沖縄市からの情報入手について	12
(1)	市役所からの情報の入手方法	12
(2)	市役所からの情報の入手方法の希望	13
3	地域生活について	14
(1)	「地域」の範囲	14
(2)	居住地域への愛着	15
(3)	近所つきあいの程度	17
(4)	近所の人との関わり	18
(5)	自治会への加入	19
(6)	地域に支えられたことの有無	20
(7)	地域における問題	21
(8)	困ったとき、地域で何をして欲しいか	22
(9)	困っている人や世帯に、どのような手助けができるか	23
4	悩みや相談先について	24
(1)	日常生活の中の悩みや不安	24
(2)	悩みや不安の相談先	25
5	地域活動・ボランティア活動について	27
(1)	地域活動・ボランティア活動への参加状況	27
(2)	地域活動・ボランティア活動への参加意向	29
(3)	行いたい地域活動・ボランティア	30
(4)	地域での福祉に関する講習会・研修会等への参加意向	31

(5) 助け合い、支え合い活動の活発化に重要なこと.....	32
<b>6 認知度について .....</b>	<b>33</b>
(1) 市の福祉サービスや福祉施設などの認知状況.....	33
(2) 福祉関連の人、団体、窓口の認知度.....	34
(3) 社会福祉協議会の活動の認知度.....	35
(4) 社会福祉協議会に期待すること.....	37
(5) 民生委員・児童委員に期待すること.....	38
<b>7 災害時における助け合いについて .....</b>	<b>39</b>
(1) 避難場所 .....	39
(2) 避難のためにたよりにする人 .....	40
(3) 避難時の不安、困りごと .....	41
(4) 災害時に生活面でたよりにする人.....	42
(5) 災害時の生活面の不安、困りごと.....	42
(6) 避難行動要支援者避難支援事業（災害時あんしん避難支援事業） .....	43
(7) 災害時要支援者への登録 .....	44
(8) 避難時の誘導・支援 .....	45
(9) 災害時の備え .....	46
<b>8 福祉への意識・関心について .....</b>	<b>47</b>
(1) 福祉の推進のために必要なこと.....	47
<b>9 生活困窮者の自立支援について .....</b>	<b>48</b>
(1) 生活困窮者の状況 .....	48
(2) 生活困窮者への支援 .....	49
(3) 市が行うべき生活困窮者への支援.....	50
<b>10 健康づくりについて .....</b>	<b>51</b>
(1) 健康状態 .....	51
(2) 健康づくりの取組 .....	52
(3) 健診の受診状況 .....	54
(4) 健康づくりのために実施してほしいこと.....	54
(5) 生きがい .....	55
<b>11 沖縄市の地域福祉について .....</b>	<b>56</b>
(1) 沖縄市の保健福祉施策の評価 .....	56
<b>自由回答.....</b>	<b>57</b>
<b>資料編.....</b>	<b>93</b>
<b>1. 沖縄市の地域福祉を取り巻く状況 .....</b>	<b>95</b>
1. 人口や世帯の状況 .....	95
2. 出生、婚姻、離婚の動向 .....	103
3. 就労の状況 .....	106

# 第1章 調査概要



## 1 調査目的

---

本調査は、(仮称)第6次沖縄市地域保健福祉(活動)計画の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

## 2 調査対象

---

沖縄市在住の20歳以上85歳未満の住民の方から調査対象者を無作為に抽出し、調査を実施しました。

## 3 調査期間

---

令和2年11月28日～令和2年12月25日

(ただし、令和3年1月28日まで提出された調査票を有効回答とし、集計しました。)

## 4 回答状況

---

調査対象者	配布数	有効回答数	有効回答率
沖縄市在住の20歳以上85歳未満の住民	6,000件	1,689件	28.1%

### 【自治会別】

自治会名	配布数	有効回答数	有効回答率
池原	119件	35件	29.4%
登川	239件	65件	27.2%
知花	241件	66件	27.4%
松本	165件	59件	35.8%
明道	86件	13件	15.1%
美里	536件	166件	31.0%
宮里	259件	82件	31.7%

自治会名	配布数	有効回答数	有効回答率
東	79 件	24 件	30.4%
越来	99 件	23 件	23.2%
城前	43 件	11 件	25.6%
吉原	19 件	2 件	10.5%
照屋	199 件	54 件	27.1%
安慶田	210 件	58 件	27.6%
室川	71 件	22 件	31.0%
住吉	54 件	12 件	22.2%
嘉間良	61 件	20 件	32.8%
古謝	286 件	75 件	26.2%
東桃原	33 件	23 件	69.7%
大里	192 件	39 件	20.3%
海邦町	120 件	34 件	28.3%
泡瀬第一	127 件	16 件	12.6%
泡瀬第二	42 件	10 件	23.8%
泡瀬第三	112 件	42 件	37.5%
泡瀬	418 件	104 件	24.9%
高原	346 件	93 件	26.9%
比屋根	280 件	73 件	26.1%
与儀	156 件	38 件	24.4%
八重島	19 件	3 件	15.8%
センター	119 件	31 件	26.1%
胡屋	281 件	81 件	28.8%

自治会名	配布数	有効回答数	有効回答率
園田	50 件	24 件	48.0%
中の町	171 件	54 件	31.6%
諸見里	214 件	46 件	21.5%
山里	121 件	46 件	38.0%
山内	154 件	46 件	29.9%
久保田	91 件	18 件	19.8%
南桃原	188 件	61 件	32.4%

## 5 報告書の見方

---

- (1) 調査結果の数値は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で表記しています。ただし、年代別や経年変化などの母数が異なるものを比較する場合は、割合の差（ポイント）で表記しています。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、回答比率の合計が、100.0%にならない場合があります。また、複数回答可の質問では、回答者数（n）に対する回答比率のため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには0.0%と表記しています。
- (4) 本報告書では、なるべく調査票そのままの表現を用いていますが、スペース等の関係から一部省略した表現としている箇所があります。
- (5) 回答者数が少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考値として示すにとどめている場合があります。



## 第2章 調査結果



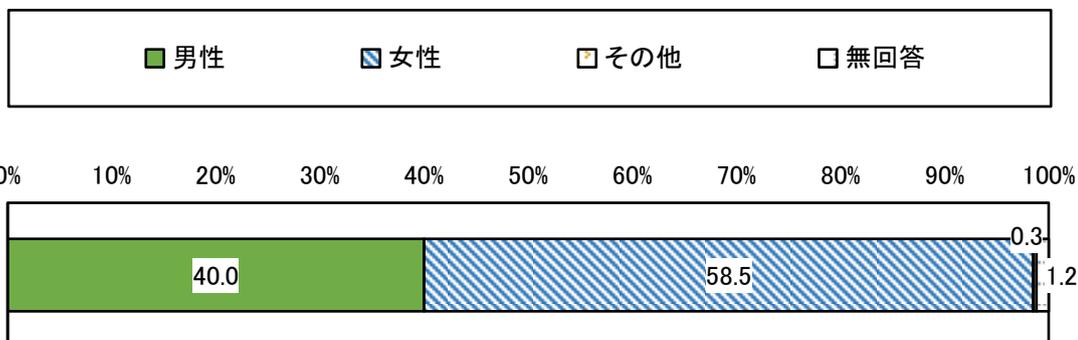
# 1 あなた(宛名の方)の性別・年齢・ご家族などについて

## (1) 性別

問1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

性別について、「男性」が40.0%、「女性」が58.5%などとなっています。

(n=1,727)

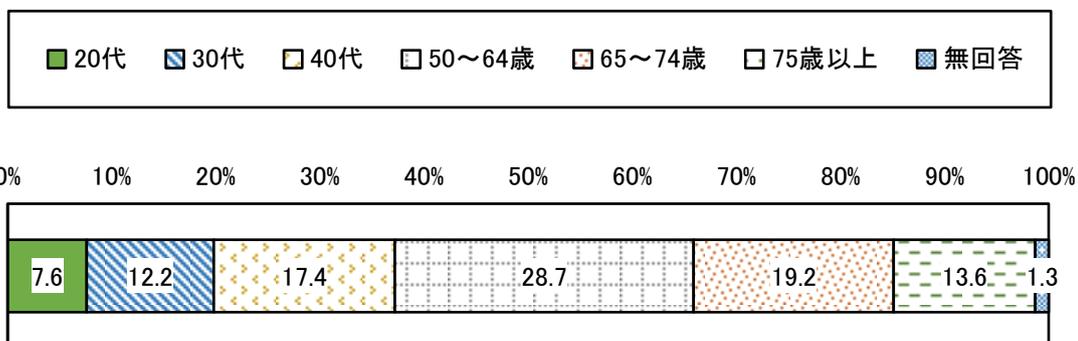


## (2) 年齢

問2 あなたの年齢は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

年齢について、「50～64歳」が28.7%で最も多く、次いで「65～74歳」が19.2%、「40代」が17.4%、「75歳以上」が13.6%、「30代」が12.2%などとなっています。

(n=1,727)



### (3) 世帯構成

問3 あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

世帯構成について、「夫婦のみ(事実婚を含む)」が22.5%で最も多く、次いで「両親と年齢がすべて18歳未満の子」が16.2%、「1人で暮らしている」が15.5%、「両親と年齢がすべて18歳～40歳未満の子」が11.5%などとなっています。

年齢別に世帯構成をみると、年齢が上がるにしたがって「1人で暮らしている」の割合が高くなっています。(20代：8.3%、30代：9.5%、40代：10.0%、50～64歳：15.4%、65～74歳：23.3%、75歳以上：21.7%)

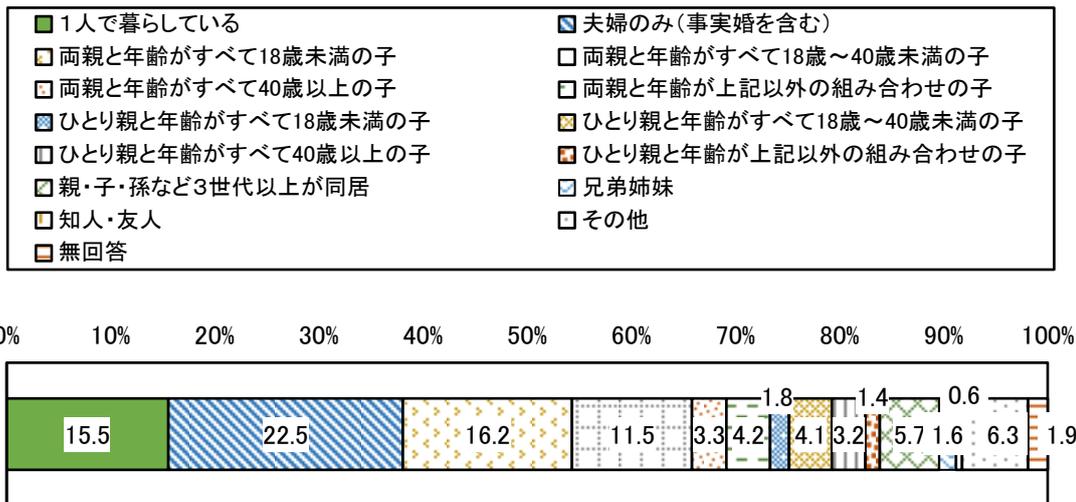
地区別にみると、

「1人で暮らしている」と答えた方が最も多い地区は【西部北】地区(23.3%)、「夫婦のみ」が最も多い地区が【中部南】地区(27.1%)でした。

また、「両親と年齢がすべて18歳未満の子」、「両親と年齢がすべて18歳～40歳未満の子」、「両親と年齢がすべて40歳以上の子」、「両親と年齢が上記以外の組み合わせの子」を合わせた「両親と子」が最も多い地区は【東部南】地区(44.0%)。

「ひとり親と年齢がすべて18歳未満の子」、「ひとり親と年齢がすべて18歳～40歳未満の子」、「ひとり親と年齢がすべて40歳以上の子」、「ひとり親と年齢が上記以外の組み合わせの子」を合わせた「ひとり親と子」が最も多い地区は【中部南】地区(15.6%)となっています。

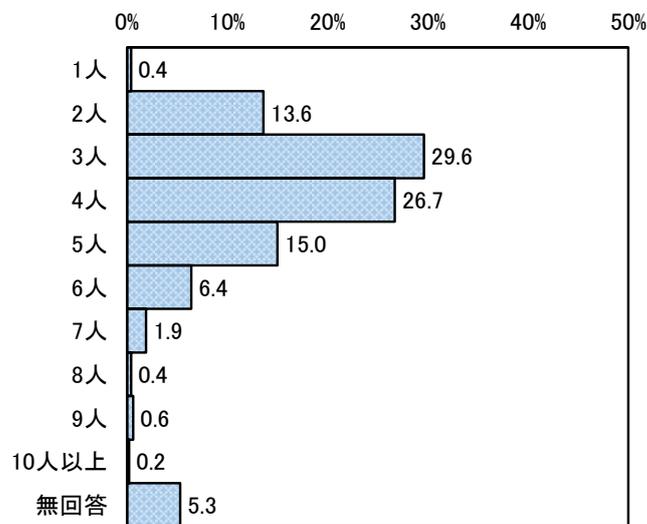
(n=1,727)



問3-1 問 3 で「3～14」を選択した方におたずねします。あなたの世帯人数は何人ですか。

世帯人数は、「3人」が29.6%で最も多く、次いで「4人」が26.7%、「5人」が15.0%、「2人」が13.6%などとなっています。

(n=1,039)



(4) 雇用形態

問4 あなたの雇用形態(働き方)などをおたずねします。次のどれにあたりますか。(○は1つ)

雇用形態について、「正社員・正規職員」が31.8%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が14.5%、「専業主婦・専業主夫」が11.9%、「準社員・臨時職員・派遣社員」が6.9%となっています。また、「無職」が19.7%となっています。

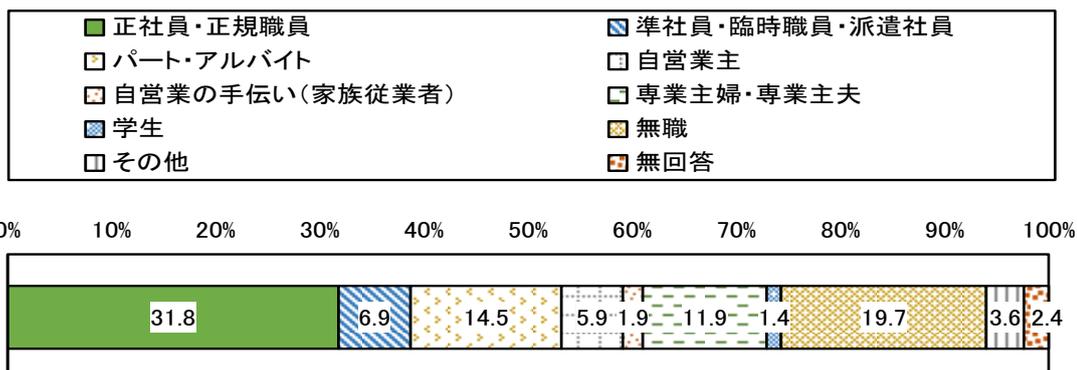
男女別にみると、

「正社員・正規職員」が男性では43.7%、女性では23.9%と男性の方が多くなっています。一方、「パート・アルバイト」は男性では5.5%、女性では21.0%となっており、「専業主婦・専業主夫」は男性が0.4%、女性が20.0%と大きな差が出ています。

地区別にみると、

「正社員・正規職員」、「準社員・臨時職員・派遣社員」、「パート・アルバイト」、「自営業主」、「自営業の手伝い(家族従業者)」を合わせた“就労している”方が最も多い地区は、【中部北】地区(65.6%)となっており、「無職」が最も多い地区は【中部南】地区でした。

(n=1,727)



## (5) 住んでいる自治会

問5 あなたの住んでいる自治会は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

住んでいる自治会について、「美里」が9.6%で最も多く、次いで「泡瀬」が6.0%、「高原」が5.4%、「宮里」が4.7%、「胡屋」が4.7%などとなっています。

自治会名	件数 (件)	割合 (%)
池原	35	2.0
登川	65	3.8
知花	66	3.8
松本	59	3.4
明道	13	0.8
美里	166	9.6
宮里	82	4.7
東	24	1.4
越来	23	1.3
城前	11	0.6
照屋	54	3.1
安慶田	58	3.4
室川	22	1.3
住吉	12	0.7
嘉間良	20	1.2
吉原	2	0.1
古謝	75	4.3
東桃原	23	1.3
大里	39	2.3
海邦町	34	2.0

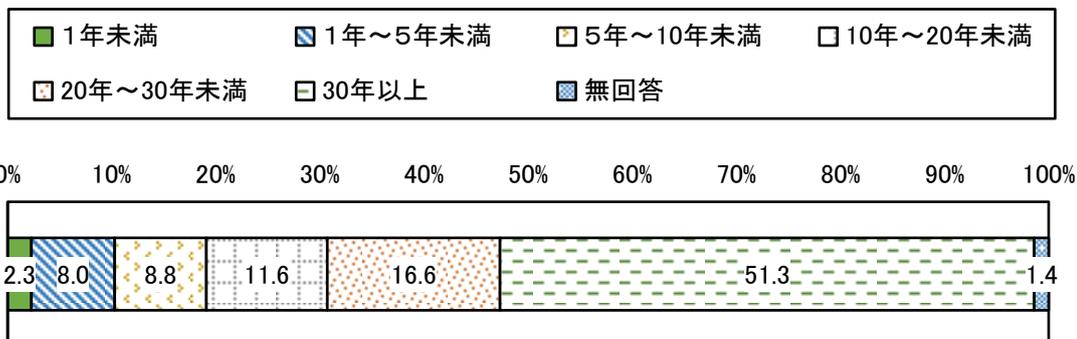
自治会名	件数 (件)	割合 (%)
泡瀬	104	6.0
泡瀬第一	16	0.9
泡瀬第二	10	0.6
泡瀬第三	42	2.4
高原	93	5.4
比屋根	73	4.2
与儀	38	2.2
八重島	3	0.2
センター	31	1.8
胡屋	81	4.7
園田	24	1.4
中の町	54	3.1
諸見里	46	2.7
山里	46	2.7
山内	46	2.7
久保田	18	1.0
南桃原	61	3.5
知らない	30	1.7
無回答	28	1.6

## (6) 在住年数

問6 あなたは、沖縄市に住んで通算して何年になりますか。(○は1つ)

本市での在住年数について、「30年以上」が51.3%で最も多く、次いで「20年～30年未満」が16.6%、「10年～20年未満」が11.6%、「5年～10年未満」が8.8%、「1年～5年未満」が8.0%などとなっています。

(n=1,727)



## (7) 付き合いのある人

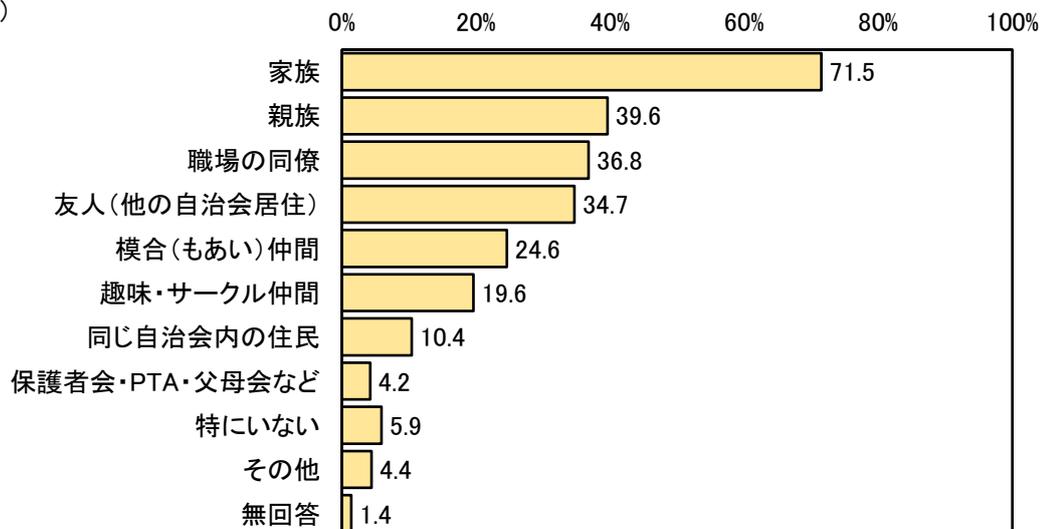
あなたがふだん付き合いのある人について伺います。

月に1度以上、定期的に会って会話をする相手を教えてください。(○はいくつでも)

月に1度以上、定期的に会って会話をする相手について、「家族」が71.5%で最も多く、次いで「親族」が39.6%、「職場の同僚」が36.8%、「友人(他の自治会居住)」が34.7%、「模合(もあい)仲間」が24.6%などとなっています。

年齢別にみると、「家族」とした方は年齢が上がるにしたがって回答割合が低くなる傾向があります。(20代:89.4%、30代:87.7%、40代:82.0%、50~64歳:70.5%、65~74歳:57.4%、75歳以上:60.4%) また、「友人」についても、年齢が上がるにしたがって回答割合が低くなる傾向があります。(20代:54.5%、30代:38.4%、40代:34.0%、50~64歳:32.5%、65~74歳:32.9%、75歳以上:31.1%)

(n=1,727)



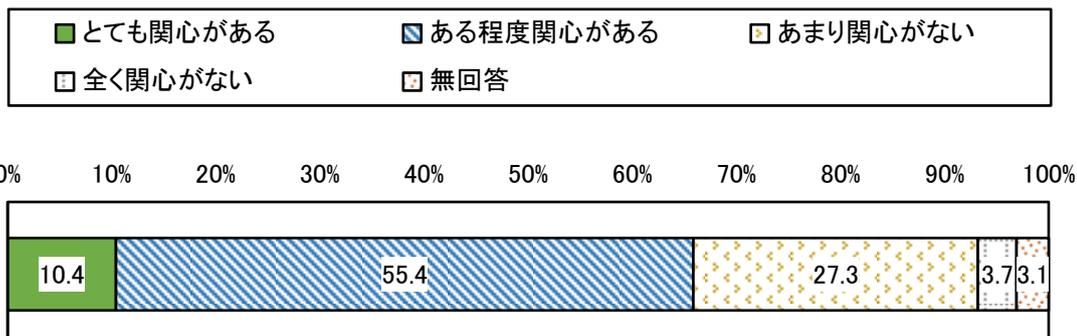
## (8) 「地域における助け合い」への関心

問8 あなたは、「地域における助け合い」に関心をお持ちですか。(○は1つ)

「地域における助け合い」への関心について、「ある程度関心がある」が55.4%で最も多く、次いで「あまり関心がない」が27.3%、「とても関心がある」が10.4%、「全く関心がない」が3.7%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにしたがって「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた「関心がある」方の割合が低くなる傾向があります(20代:60.6%、30代:66.4%、40代:63.7%、50~64歳:64.9%、65~74歳:69.2%、75歳以上:73.1%)。

(n=1,727)



## 2 沖縄市からの情報入手について

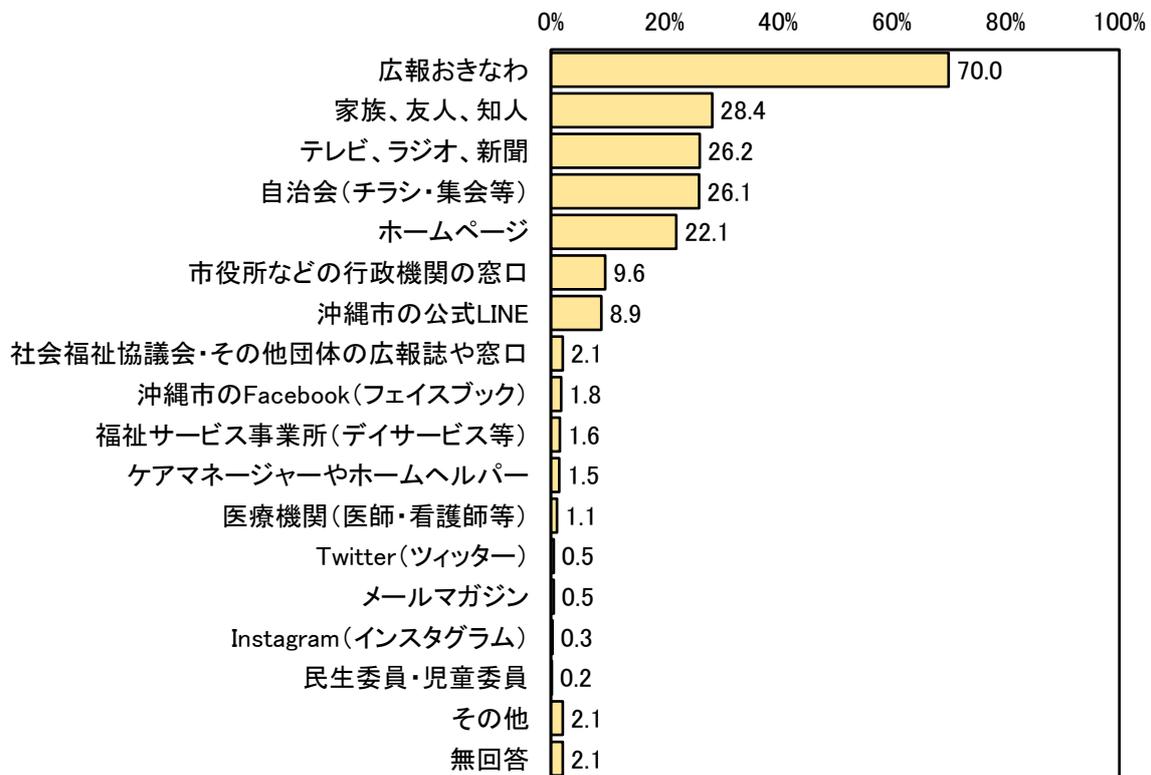
### (1) 市役所からの情報の入手方法

問9 沖縄市役所からの情報などを、主にどこから入手していますか。(〇は3つまで)

市役所からの情報入手方法について、「広報おきなわ」が70.0%で最も多く、次いで「家族、友人、知人」が28.4%、「テレビ、ラジオ、新聞」が26.2%、「自治会(チラシ・集会等)」が26.1%、「ホームページ」が22.1%などとなっています。

年齢別にみると、「広報おきなわ」と回答した方は20代で43.2%と4割程度となっていますが、30代以上の年齢ではいずれの年齢層でも6割以上となっており、65～74歳は76.7%と特に高くなっています。また、20代～30代では「沖縄市のFacebook(フェイスブック)」、「沖縄市の公式LINE」、「Twitter(ツイッター)」、「Instagram(インスタグラム)」といった、SNSによる情報入手を選択した方も多くなっています。

(n=1,727)



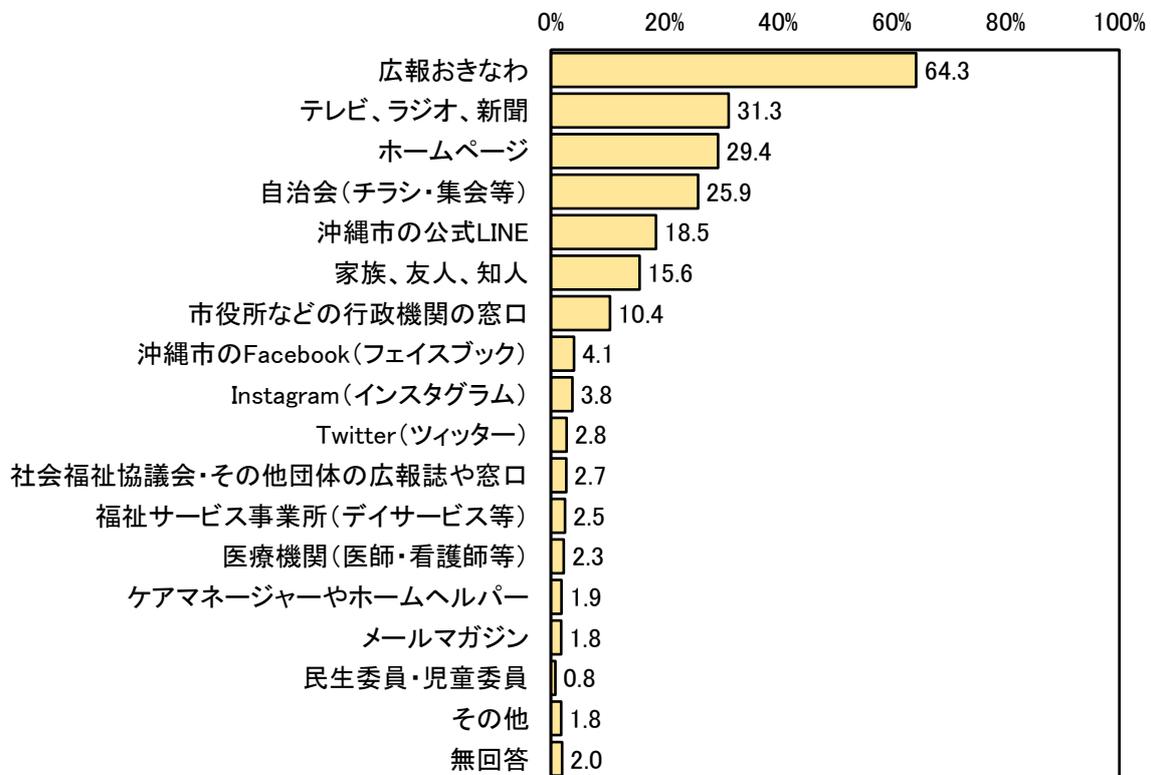
## (2) 市役所からの情報の入手方法の希望

問 10 今後、沖縄市役所からの情報は、主にどのような方法で知りたいですか。(〇は3つまで)

市役所からの情報入手方法に関する意向としては、「広報おきなわ」が 64.3%で最も多く、次いで「テレビ、ラジオ、新聞」31.3%、「ホームページ」29.4%、「自治会(チラシ・集会等)」25.9%、「沖縄市の公式LINE」18.5%、の順となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにしたがって「広報おきなわ」の回答割合が高くなる傾向があります(20代:28.8%、30代:54.5%、40代:62.3%、50~64歳:69.3%、65~74歳:76.7%、75歳以上:71.1%)。一方で、20代~40代では「沖縄市の公式LINE」と回答した方の割合がいずれも3割以上となりました(20代:30.3%、30代:37.4%、40代:31.0%)。特に、20代については、「Twitter(ツイッター)」や「Instagram(インスタグラム)」と回答した方の割合が他の年齢に比べて多くなっています(Twitter(ツイッター):17.4%、Instagram(インスタグラム):21.2%)。

(n=1,727)



### 3 地域生活について

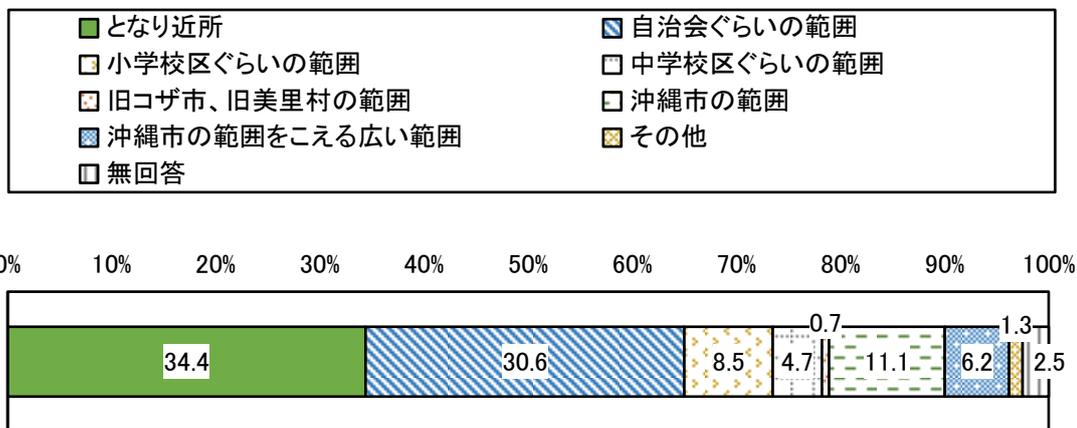
#### (1)「地域」の範囲

問 11 あなたにとって、住民がお互いに助け合いが必要と思う「地域」とはどの範囲ですか。  
(○は1つ)

住民がお互いに助け合いが必要と思う「地域」の範囲について、「となり近所」とした方が 34.4%で最も多く、次いで「自治会ぐらいの範囲」30.6%、「沖縄市の範囲」11.1%、「小学校区ぐらいの範囲」8.5%、「沖縄市の範囲をこえる広い範囲」6.2%、の順となっています。

年齢別にみると、30代～40代で「小学校区ぐらいの範囲」、「中学校区ぐらいの範囲」とする方が多かったこと、20代で、「沖縄市の範囲」、「沖縄市の範囲をこえる広い範囲」とする方が多かったことから、若い世代がより広い範囲を回答する傾向があります。

(n=1,727)



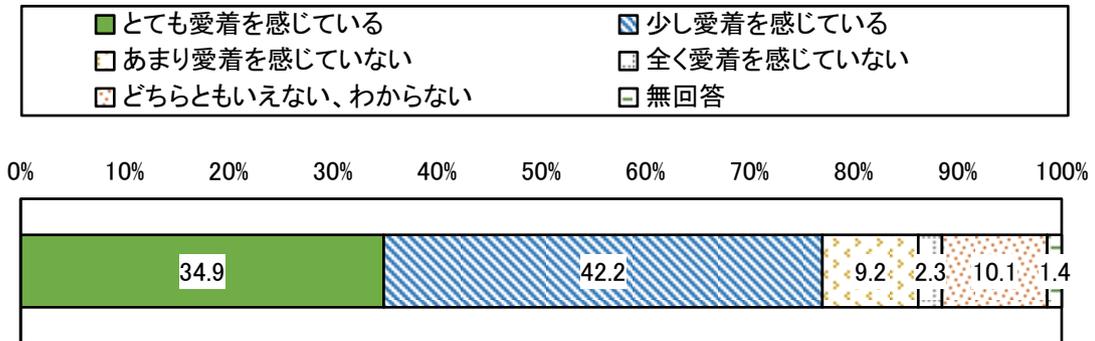
## (2) 居住地域への愛着

問 12 あなたは「自分の住んでいる地域」に愛着を感じていますか。(○は1つ)

「自分の住んでいる地域」に愛着を感じるかについて、「少し愛着を感じている」が 42.2%で最も多く、次いで「とても愛着を感じている」が 34.9%、「あまり愛着を感じていない」が 9.2%、「全く愛着を感じていない」が 2.3%となっています。

また、「どちらともいえない、わからない」が 10.1%となっています。

(n=1,727)

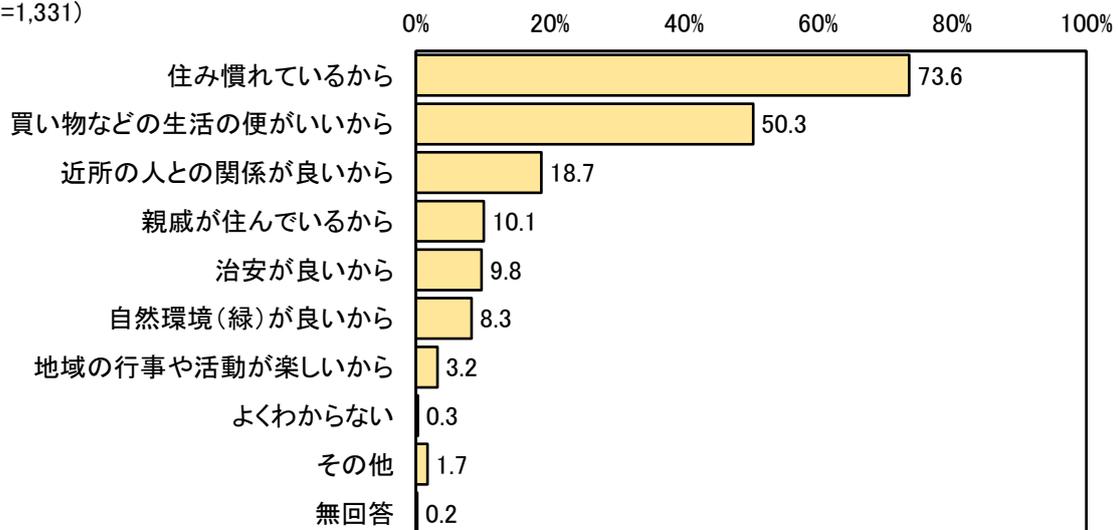


問 12-1 問 12 で、「1. とても愛着を感じている」、「2. 少し愛着を感じている」と回答した人にその理由をおたずねします。近いものに○をつけてください。(○は2つまで)

「自分の住んでいる地域」に愛着を感じている理由について、「住み慣れているから」が 73.6%で最も多く、次いで「買い物などの生活の便がいいから」が 50.3%、「近所の人との関係が良いから」が 18.7%、「親戚が住んでいるから」が 10.1%、「治安が良いから」が 9.8%などとなっています。

地区別にみると、「住み慣れているから」が最も多い地区は【中部南】地区 (82.9%)、「買い物などの生活の便がいいから」が最も多い地区は【中部北】地区 (54.9%) となっています。

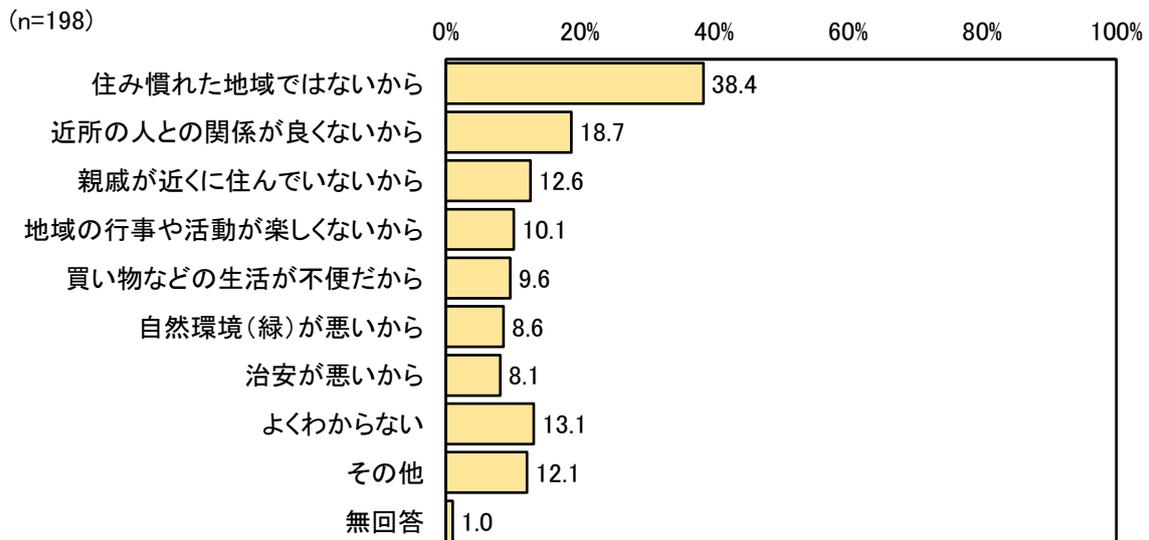
(n=1,331)



問 12-2 問 12 で、「3. あまり愛着を感じていない」、「4. 全く愛着を感じていない」と回答した人にその理由をおたずねします。近いものに○をつけてください。(○は2つまで)

「自分の住んでいる地域」に愛着を感じていない理由について、「住み慣れた地域ではないから」が 38.4%で最も多く、次いで「近所の人との関係が良くないから」が 18.7%、「親戚が近くに住んでいないから」が 12.6%、「地域の行事や活動が楽しくないから」が 10.1%などとなっています。

地区別にみると、「住み慣れた地域ではないから」という回答が最も多い地区は【中部北】地区 (58.3%) でした。



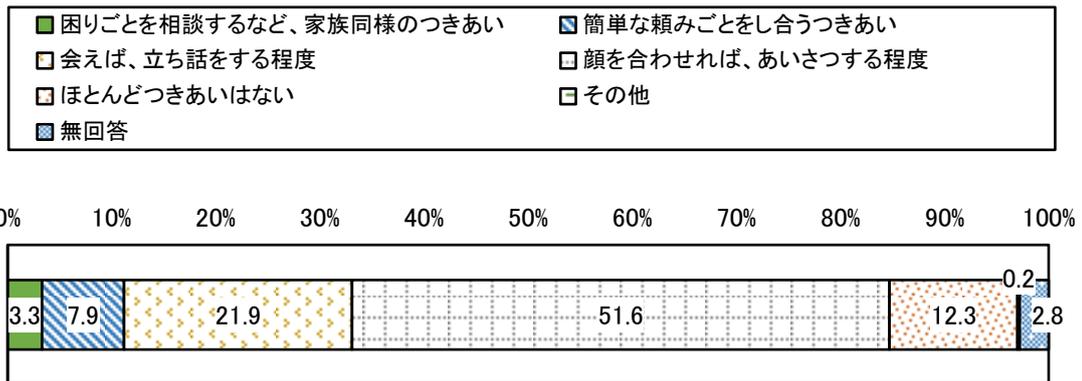
### (3) 近所つきあいの程度

問 13 近所の方とのつきあいについて、どの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つ)

近所とのつきあいの程度について、「顔を合わせれば、あいさつする程度」が 51.6%で最も多く、次いで「会えば、立ち話をする程度」が 21.9%、「ほとんどつきあいはない」が 12.3%、「簡単な頼みごとをし合うつきあい」が 7.9%、「困りごとを相談するなど、家族同様のつきあい」が 3.3%などとなっています。

年齢別にみると、「困りごとを相談するなど、家族同様のつきあい」とした方が最も多い年齢層は 75 歳以上 (10.6%) で、「ほとんどつきあいはない」とした方が最も多い年齢層は 30 代 (21.3%) でした。

(n=1,727)

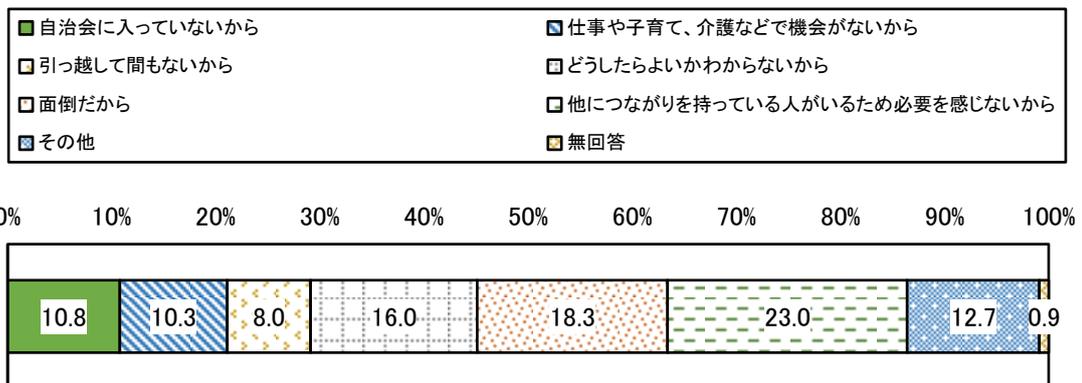


問 13-1 問 13 で「5. ほとんどつきあいはない」に○をつけた方におたずねします。

その主な理由は何ですか。(○は1つ)

近所とのつきあいがほとんどない理由について、「他につながりを持っている人がいるため必要を感じないから」が 23.0%で最も多く、次いで「面倒だから」が 18.3%、「どうしたらよいかわからないから」が 16.0%、「自治会に入っていないから」が 10.8%などとなっています。

(n=213)



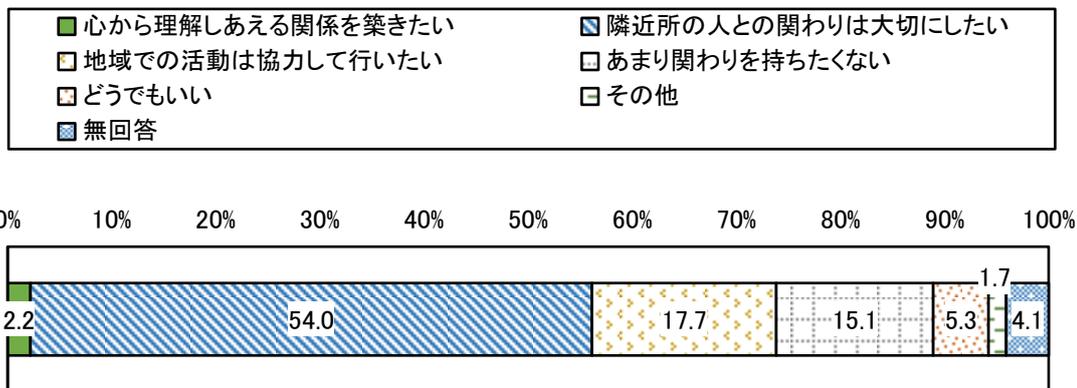
#### (4) 近所の人との関わり

##### 問 14 近所の人との関わりをどのようにしたいですか。(〇は1つ)

近所との関わりをどのようにしたいかについて、「隣近所の人との関わりは大切にしたい」が54.0%で最も多く、次いで「地域での活動は協力して行いたい」が17.7%、「あまり関わりを持ちたくない」が15.1%、「どうでもいい」が5.3%、「心から理解しあえる関係を築きたい」が2.2%などとなっています。

年齢別にみると、20代及び50歳以上の年齢層では「隣近所の人との関わりは大切にしたい」と回答した方が5割以上（20代：56.1%、50～64歳：53.5%、65～74歳：58.3%、75歳以上：61.7%）でしたが、30代及び40代については5割未満（30代：47.4%、40代：48.7%）と傾向に差がでています。また、30代については「あまり関わりを持ちたくない」と回答した方が20.9%で、他の年齢層に比べて割合が最も高くなっています。

(n=1,727)



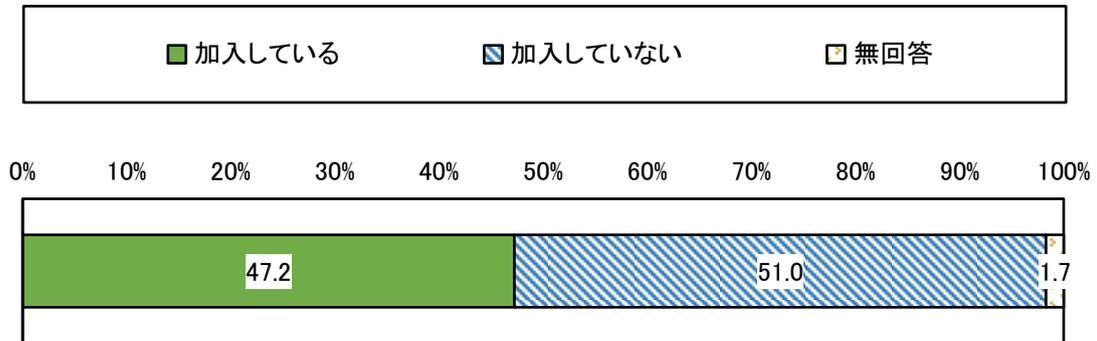
## (5) 自治会への加入

### 問 15 お宅では自治会に加入していますか。(〇は1つ)

自治会への加入状況については、「加入している」が47.2%、「加入していない」が51.0%となっています。

地区別にみると、「加入している」の回答割合が最も高い地区は【中部南】地区(61.4%)、最も低い地区は【東部南】地区(35.7%)となっています。

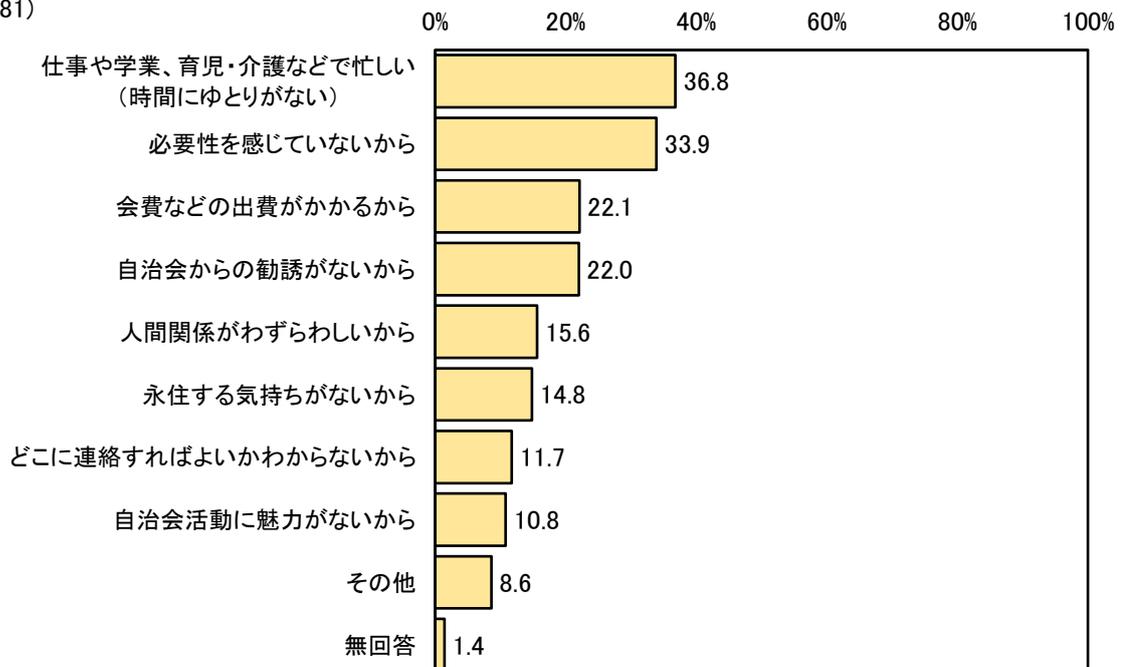
(n=26)



### 問 15-1 問 15 で「2. 加入していない」とお答えの方にお聞きます。加入していない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

自治会に加入していない理由について、「仕事や学業、育児・介護などで忙しい(時間にゆとりがない)」とした方が36.8%で最も多く、次いで「必要性を感じていないから」33.9%、「会費などの出費がかかるから」22.1%、「自治会からの勧誘がないから」22.0%、「人間関係がわずらわしいから」15.6%、などとなっています。

(n=881)



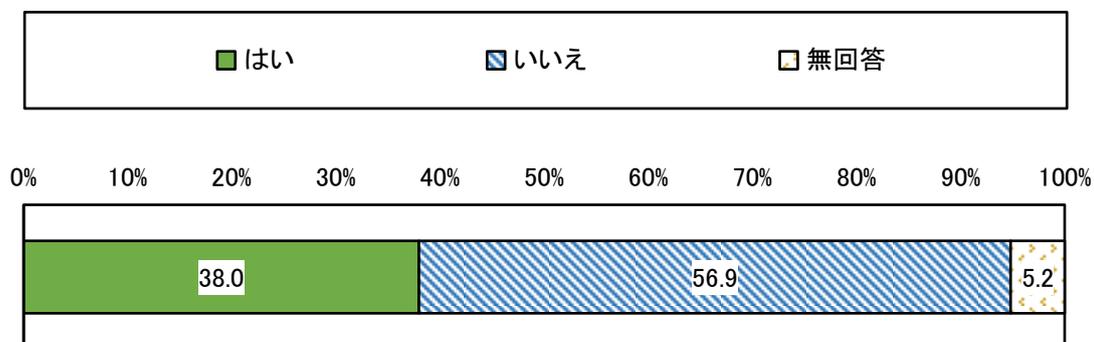
## (6) 地域に支えられたことの有無

問 16 地域に支えられた(助けられた)と感じたことはありますか。(〇は1つ)

地域に支えられた(助けられた)と感じたことはあるかについて、「はい」は38.0%、「いいえ」が56.9%となっています。

年齢別にみると、「はい」の回答割合が最も高い年齢層は75歳以上(49.4%)で、最も低い年齢層は30代(24.2%)となっています。

(n=1,727)



## (7) 地域における問題

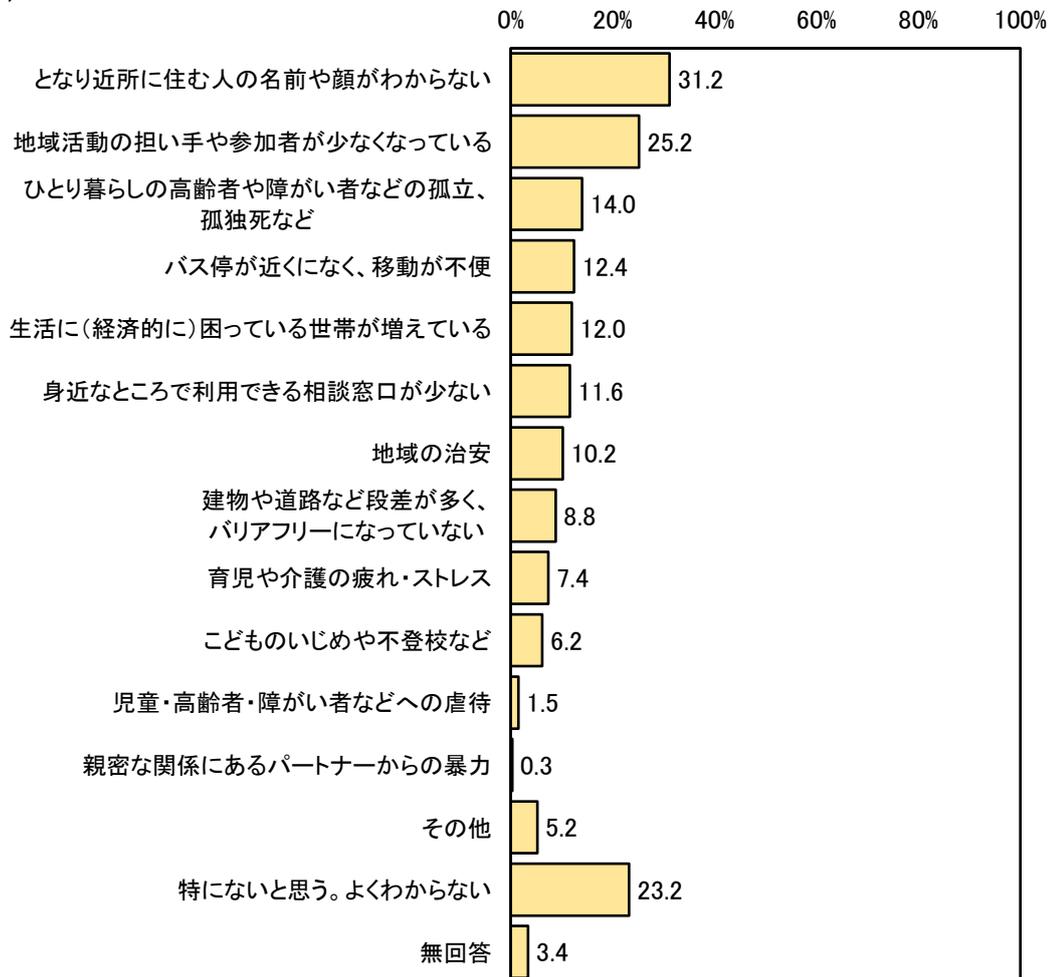
問 17 あなたは地域において、どのような問題があると思いますか。(〇は3つまで)

地域にある問題について、「となり近所に住む人の名前や顔がわからない」が 31.2%で最も多く、次いで「地域活動の担い手や参加者が少なくなっている」が 25.2%、「ひとり暮らしの高齢者や障がい者などの孤立、孤独死など」が 14.0%、「バス停が近くになく、移動が不便」が 12.4%、「生活に（経済的に）困っている世帯が増えている」が 12.0%などとなっています。また、「特にないと思う。よくわからない」は 23.2%となっています。

地区別では、「となり近所に住む人の名前や顔がわからない」と答えた方の割合について、最も高かった地区【東部南】地区（37.3%）と最も低い地区は【北部】地区（26.9%）との差が大きくなっています。

また、年齢別にみると、若い世代ほど、「生活に（経済的に）困っている世帯が増えている」と回答した方の割合が高い傾向があります（20代：17.4%、30代：15.6%、40代：12.3%、50～64歳：12.3%、65～74歳：11.2%、75歳以上：9.8%）。

(n=1,727)



## (8) 困ったとき、地域で何をして欲しいか

問 18 もしもあなたや家族が、病気や介護、子育てなどで困ったとき、地域で何をして欲しいですか。  
(〇は3つまで)

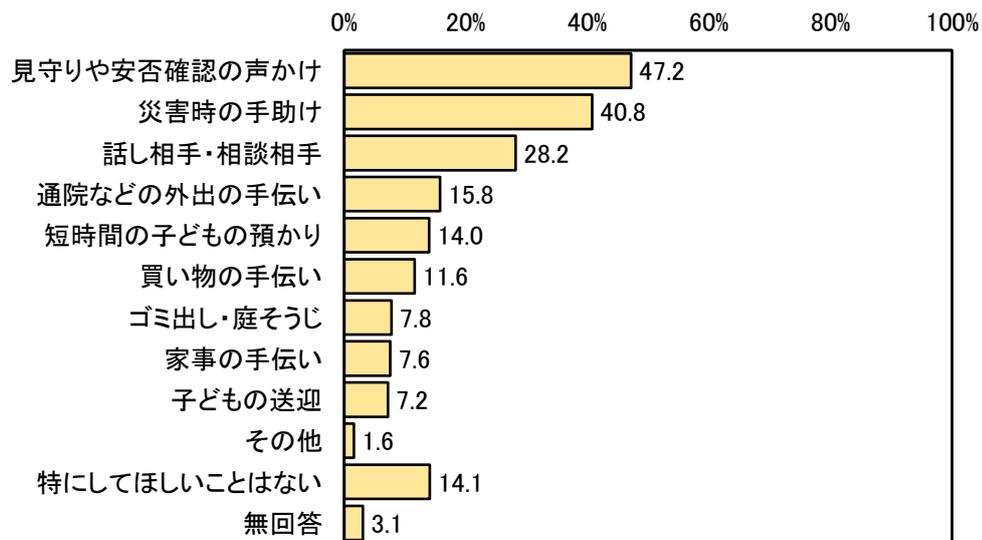
困ったとき、地域で何をして欲しいかについて、「見守りや安否確認の声かけ」が 47.2%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が 40.8%、「話し相手・相談相手」が 28.2%、「通院などの外出の手伝い」が 15.8%、「短時間の子どもの預かり」が 14.0%などとなっています。また、「特にしてほしいことはない」は 14.1%となっています。

男女別にみると、「見守りや安否確認の声かけ」、「話し相手・相談相手」について男女で回答傾向に大きな差がない一方で、「買い物の手伝い」、「家事の手伝い」、「ゴミ出し・庭そうじ」、「通院などの外出の手伝い」、「短時間の子どもの預かり」、「子どもの送迎」、「災害時の手助け」に関しては、いずれも女性の方が回答割合が高く、女性からのニーズが高いことが伺えます。

年齢別にみると、20代～40代では「短時間の子どもの預かり」と回答した方の割合が他の年齢層と比べて高くなっています(20代：28.8%、30代：38.9%、40代：24.3%、50～64歳：6.3%、64～74歳：3.3%、75歳以上：2.1%)。

地区別にみると、「見守りや安否確認の声かけ」(52.9%)と「災害時の手助け」(44.1%)については【北部】地区が最も高く、「話し相手・相談相手」と回答した方が最も多かったのは【中部南】地区(36.1%)となっています。

(n=1,727)



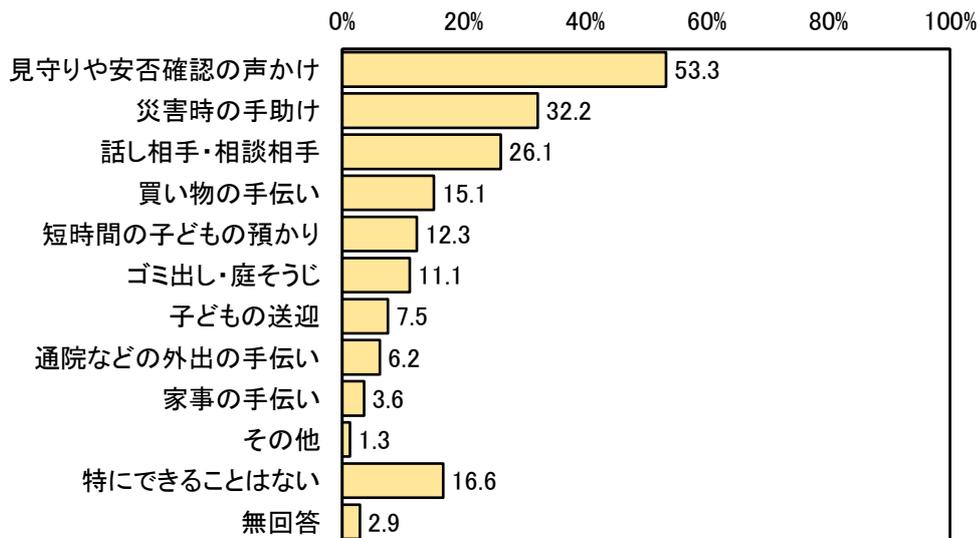
## (9) 困っている人や世帯に、どのような手助けができるか

問 19 地域で介護や病気、子育てなどで困っている人や世帯があったら、あなたはどのような手助けができますか。(〇は3つまで)

困っている人や世帯に、どのような手助けができるかについて、「見守りや安否確認の声かけ」とした方が 53.3%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が 32.2%、「話し相手・相談相手」が 26.1%、「買い物の手伝い」が 15.1%、「短時間の子どもの預かり」が 12.3%、などとなっています。また、「特にしてほしいことはない」は 16.6%となっています。

男女別にみると、「災害時の手助け」と回答した方の割合は、男性が女性より高くなっています（男性：40.2%、女性：26.9%）。また、「短時間の子どもの預かり」と回答した方の割合は、女性が男性よりも高くなっています（男性：8.1%、女性：15.3%）。

(n=1,727)



## 4 悩みや相談先について

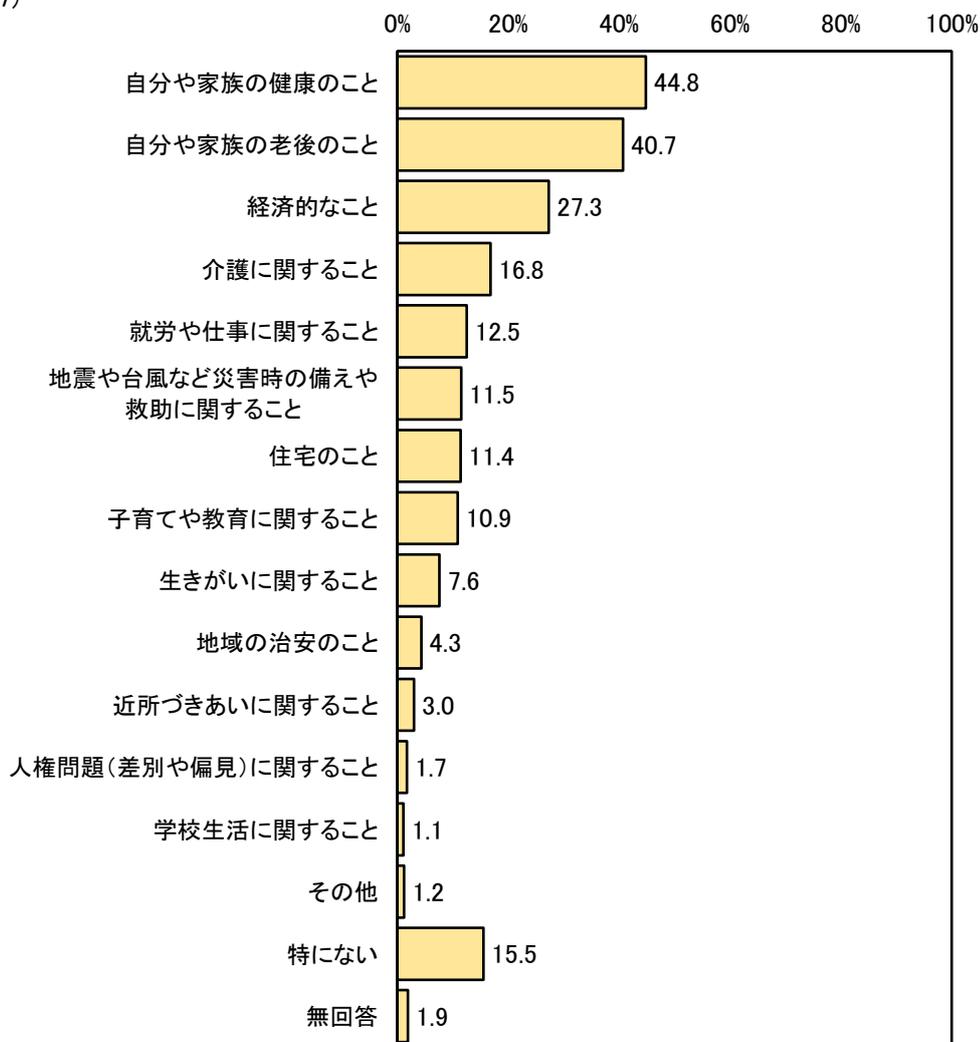
### (1) 日常生活の中の悩みや不安

問 20 あなたは現在、日常生活の中でどのような悩みや不安を感じていますか。(〇は3つまで)

日常生活の中で感じている悩みや不安について、「自分や家族の健康のこと」が 44.8%で最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」が 40.7%、「経済的なこと」が 27.3%、「介護に関する事」が 16.8%、「就労や仕事に関する事」が 12.5%となっています。また、「特にない」は 15.5%となっています。

年齢別にみると、20代では「就労や仕事に関する事」と回答した方の割合が他の年齢層と比較して高く、30代及び40代では、「子育てや教育に関する事」、「経済的なこと」の回答割合がいずれも他の年齢層と比べて高くなっています。50代以上では、「自分や家族の健康のこと」、「自分や家族の老後のこと」と回答した方の割合が、いずれも他の年齢層と比較して高くなっています。

(n=1,727)



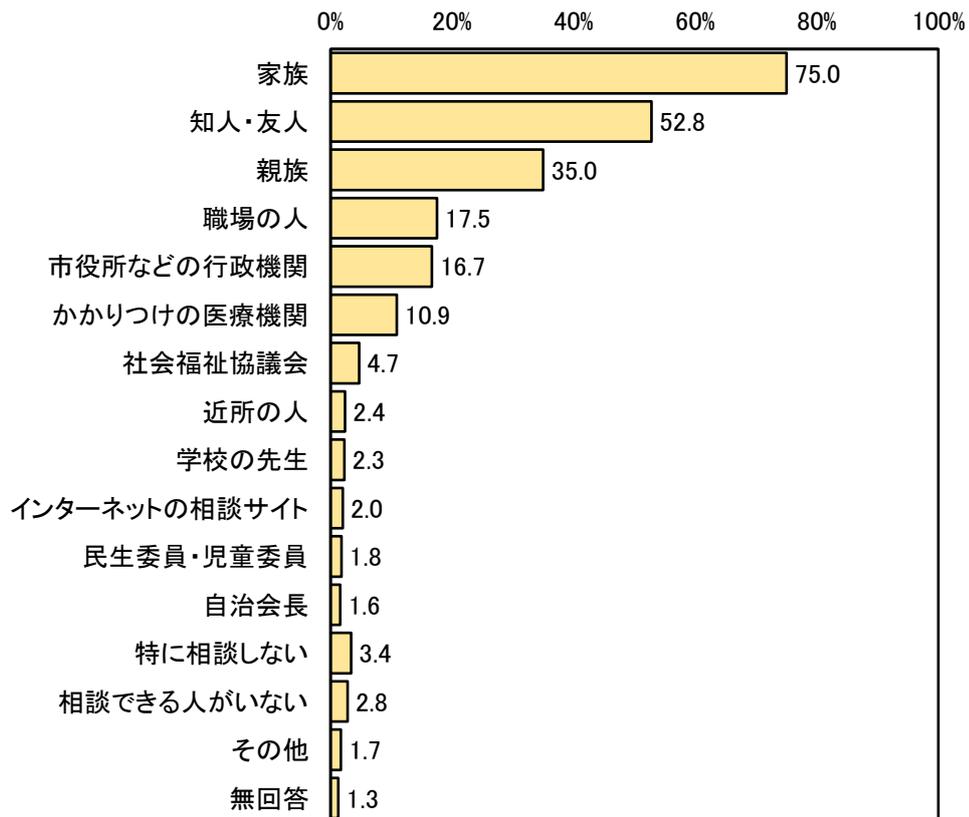
## (2) 悩みや不安の相談先

問 21 悩みや不安を相談するとしたら、主に誰に(どこに)相談しますか。(〇はいくつでも)

悩みや不安の相談先について、「家族」が75.0%で最も多く、次いで「知人・友人」52.8%、「親族」35.0%、「職場の人」17.5%、「市役所などの行政機関」16.7%などとなっています。

年齢別にみると、「市役所などの行政機関」に関する回答に、20代及び30代と40代以上の回答割合に大きな差がみられます(20代:6.1%、30代:8.5%、40代:21.0%、50~64歳:16.2%、65~74歳:23.0%、75歳以上:16.2%)。また、「かかりつけの医療機関」については、65歳以上で選択する割合が高くなる傾向があります(20代:5.3%、30代:5.7%、40代:9.7%、50~64歳:8.5%、65~74歳:15.7%、75歳以上:19.6%)。

(n=1,727)

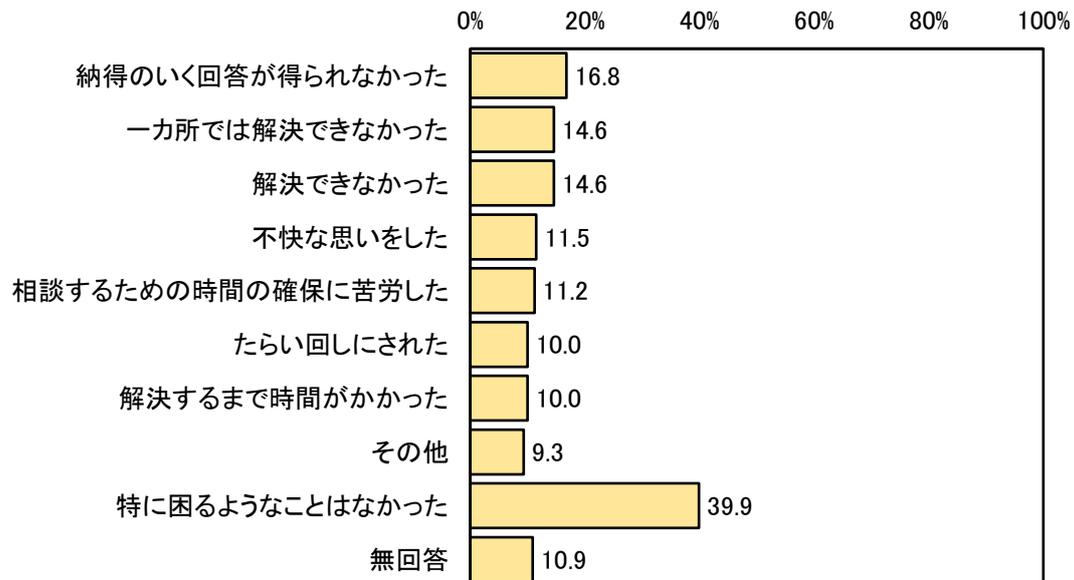


問 21-1 問 21 で「1.市役所などの行政機関」「2.社会福祉協議会」「3.民生委員・児童委員」を選択した方におたずねします。悩みや不安を相談した時に、困ったことはありましたか？また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

相談時の困りごとについて、「納得のいく回答が得られなかった」が 16.8%で最も多く、次いで「一カ所では解決できなかった」14.6%、「解決できなかった」14.6%、「不快な思いをした」11.5%、「相談するための時間の確保に苦労した」11.2%、などとなっています。

また、「特に困るようなことはなかった」が 39.9%となっています。

(n=321)



## 5 地域活動・ボランティア活動について

### (1) 地域活動・ボランティア活動への参加状況

問 22 あなたはどのような地域活動やボランティア活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

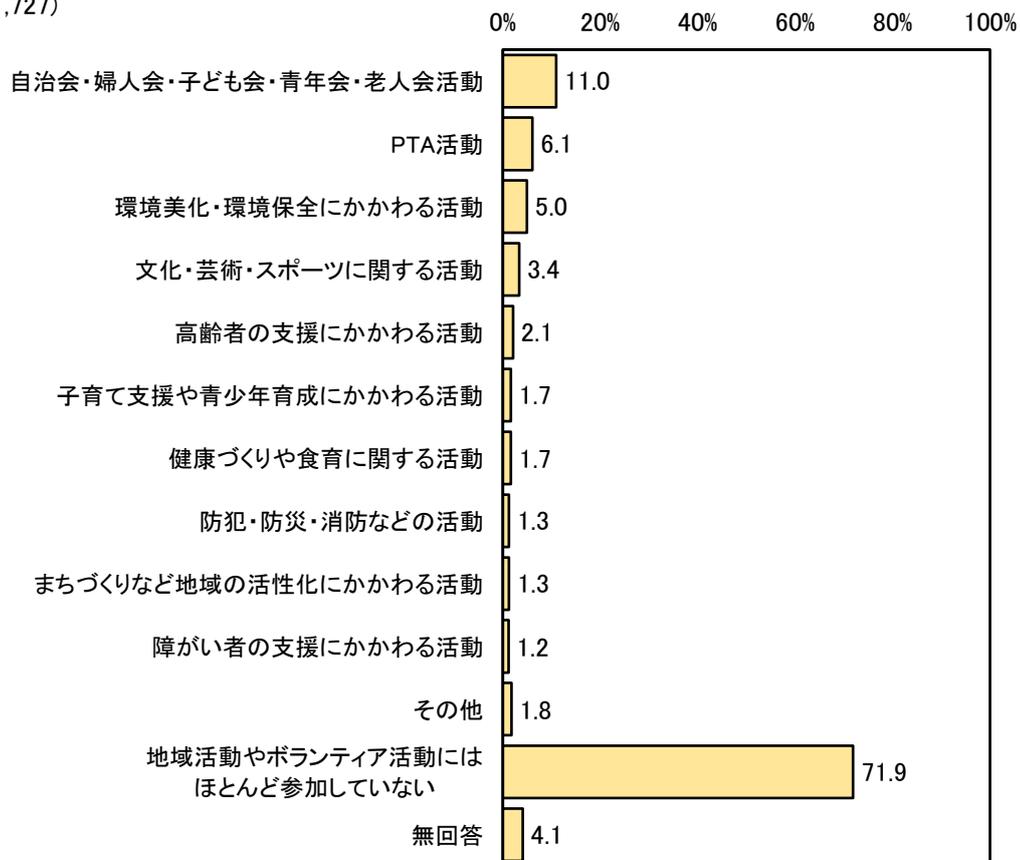
地域活動・ボランティア活動への参加状況について、「自治会・婦人会・子ども会・青年会・老人会活動」と回答した方が 11.0%で最も多く、次いで「PTA活動」6.1%、「環境美化・環境保全にかかわる活動」5.0%、「文化・芸術・スポーツに関する活動」3.4%、「高齢者の支援にかかわる活動」2.1%、などとなっています。また、「地域活動やボランティア活動にはほとんど参加していない」と回答した方が 71.9%となっています。

男女別にみると、「地域活動やボランティア活動にはほとんど参加していない」と回答した方の割合は、男性が女性よりも低くなっています。

年齢別では、20代と30代は、いずれも8割以上が「地域活動やボランティア活動にはほとんど参加していない」と回答しています(20代：86.4%、30代：81.5%、40代：69.3%、50～64歳：76.0%、65～74歳：69.8%、75歳以上：53.6%)。

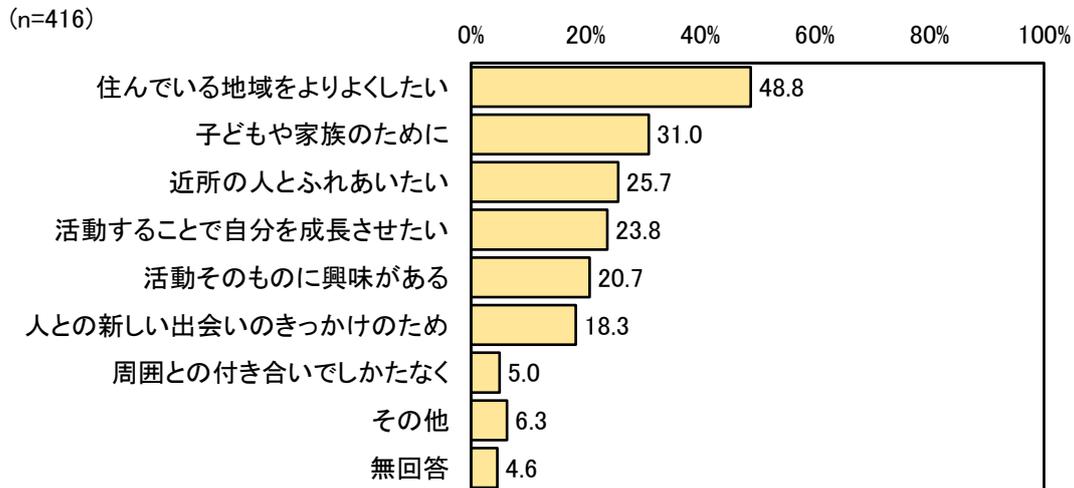
地区別にみると、「地域活動やボランティア活動にはほとんど参加していない」と回答した方の割合が最も低い地区が【中部南】地区となっています(北部：68.5%、中部北：68.2%、中部南：66.3%、東部北：70.7%、東部南：76.0%、西部北：76.2%、西部南：76.0%)。

(n=1,727)



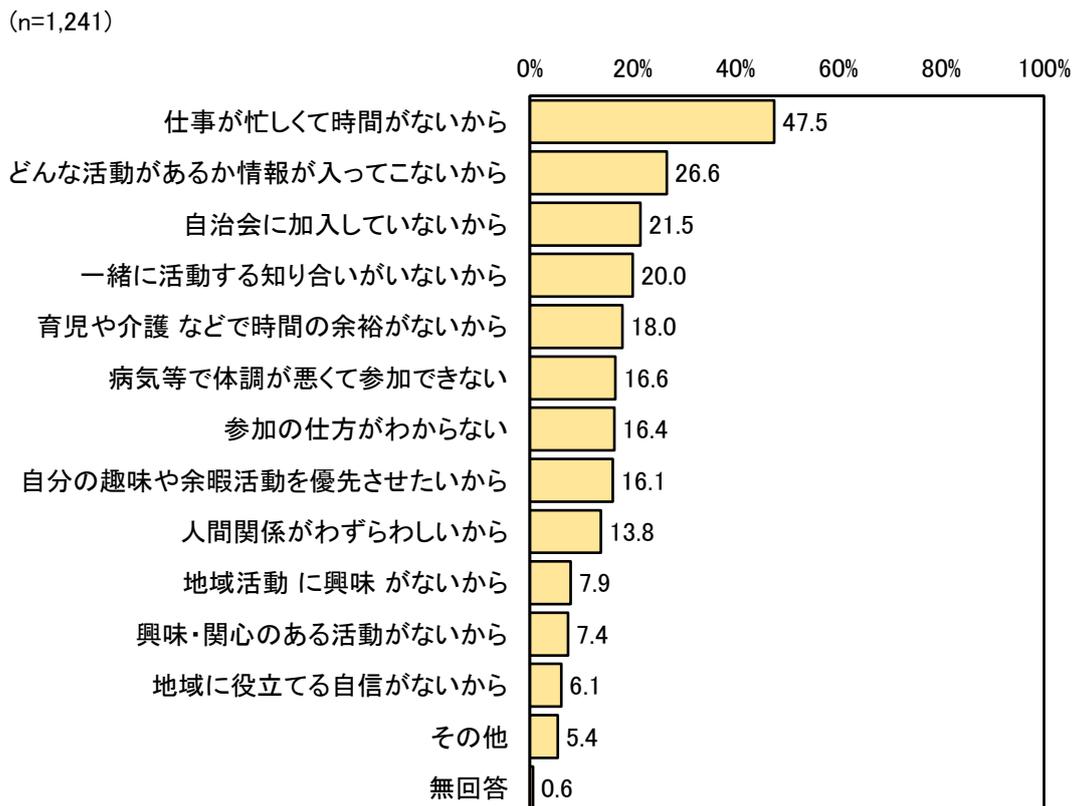
問 22-1 問 22 で「1~11」に○をつけた方におたずねします。参加している理由はなんですか。  
 (○はいくつでも)

地域活動・ボランティア活動に参加している理由について、「住んでいる地域をよりよくしたい」が 48.8%で最も多く、次いで「子どもや家族のために」が 31.0%、「近所の人とふれあいたい」が 25.7%、「活動することで自分を成長させたい」が 23.8%、「活動そのものに興味がある」が 20.7%、などとなっています。



問 22-2 問 22 で「12. 地域活動やボランティア活動にほとんど参加していない」に○をつけた方におたずねします。その理由はなんですか。

地域活動・ボランティア活動に参加していない理由について、「仕事が忙しくて時間がないから」と回答した方が 47.5%で最も多く、次いで「どんな活動があるか情報が入ってこないから」が 26.6%、「自治会に加入していないから」が 21.5%、「一緒に活動する知り合いがいないから」が 20.0%、「育児や介護などで時間の余裕がないから」が 18.0%、などとなっています。



## (2) 地域活動・ボランティア活動への参加意向

問 23 今後、地域活動・ボランティアに参加したいと思いますか。(○は1つ)

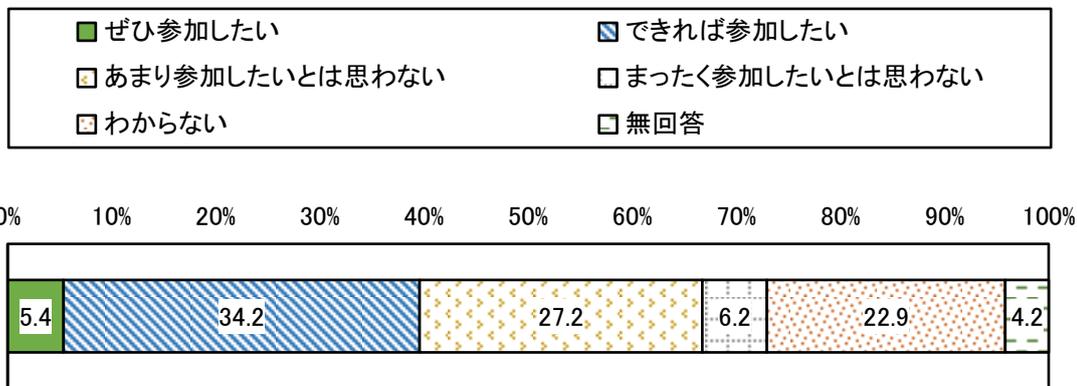
地域活動・ボランティア活動への参加意向について、「できれば参加したい」が 34.2%で最も多く、次いで「あまり参加したいとは思わない」が 27.2%、「わからない」が 22.9%、「まったく参加したいとは思わない」が 6.2%、「ぜひ参加したい」が 5.4%となっています。

男女別にみると、「ぜひ参加したい」と「できれば参加したい」を合わせた“参加したい”と回答した方の割合は、男性が 40.5%、女性が 38.8%と、男性の方が若干高くなっています。

年齢別にみると、“参加したい”と回答した方の割合が最も高い年齢層は 40 代となっています(20 代：41.7%、30 代：41.2%、40 代：44.7%、50～64 歳：41.1%、65～74 歳：33.2%、75 歳以上：35.7%)。

地区別にみると、“参加したい”と回答した方の割合が最も高い地区は【中部南】地区でした(北部：42.5%、中部北：40.6%、中部南：44.0%、東部北：39.3%、東部南：41.9%、西部北：34.2%、西部南：34.6%)。

(n=1,727)

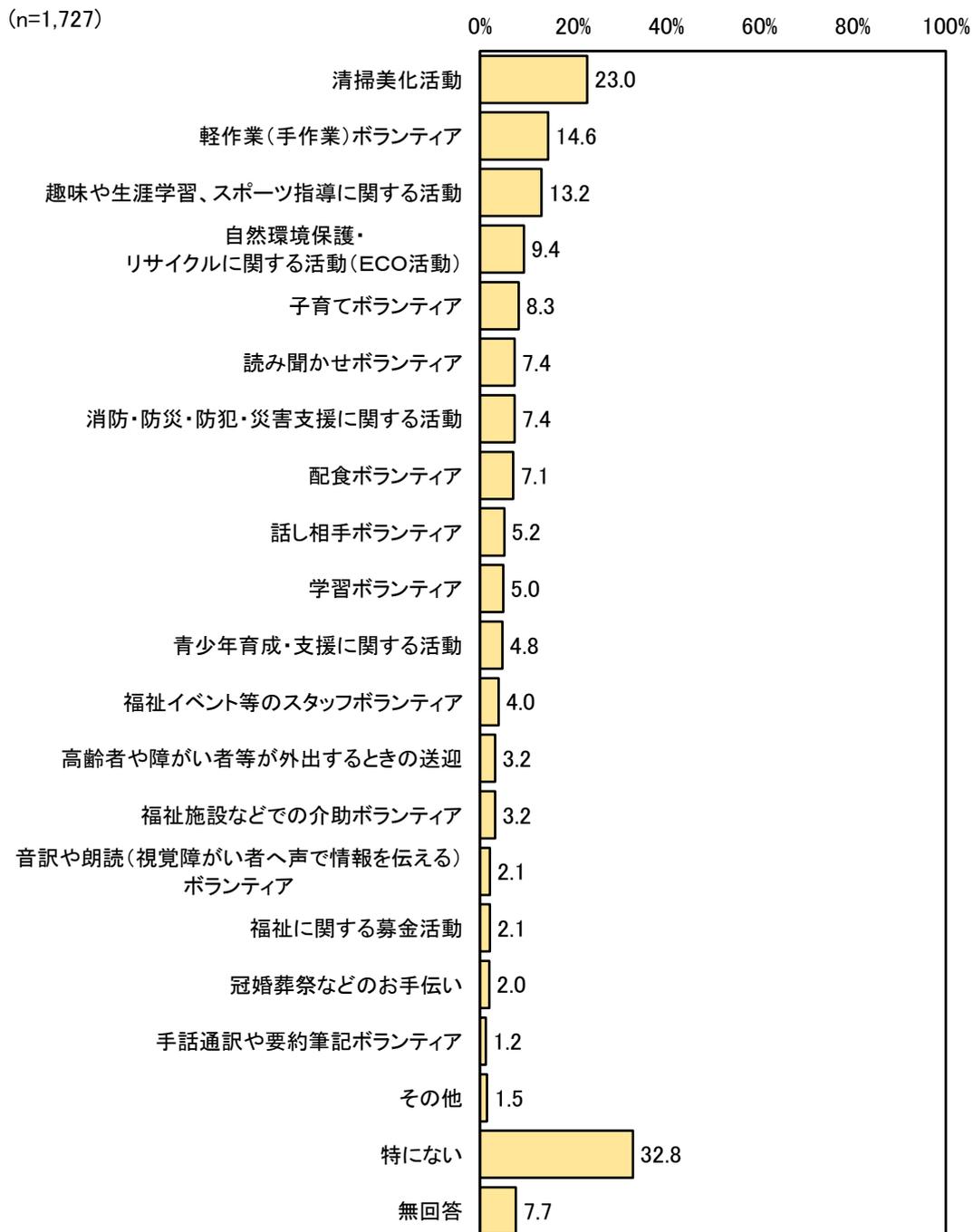


### (3) 行いたい地域活動・ボランティア

#### 問 24 今後行いたい地域活動・ボランティアはなんですか。(〇はいくつでも)

今後行いたい地域活動・ボランティアについて、「清掃美化活動」と回答した方の割合が 23.0% で最も多く、次いで「軽作業(手作業)ボランティア」が 14.6%、「趣味や生涯学習、スポーツ指導に関する活動」が 13.2%、「自然環境保護・リサイクルに関する活動 (ECO活動)」が 9.4%、「子育てボランティア」が 8.3%、などとなっています。また、「特にない」が 32.8%となっています。

男女別にみると、男性では「清掃美化活動」、「消防・防災・防犯・災害支援に関する活動」と回答した方の割合が女性に比べて高く、大きな差が見られます(「清掃美化活動」・・・男性：29.1%、女性：19.0%、「消防・防災・防犯・災害支援に関する活動」・・・男性：12.4%、女性：3.8%)。一方、女性では、「読み聞かせボランティア」、「子育てボランティア」と回答した方の割合が男性に比べて高くなっています(「読み聞かせボランティア」・・・男性：2.6%、女性：10.7%、「子育てボランティア」・・・男性：2.0%、女性：12.7%)。



#### (4) 地域での福祉に関する講習会・研修会等への参加意向

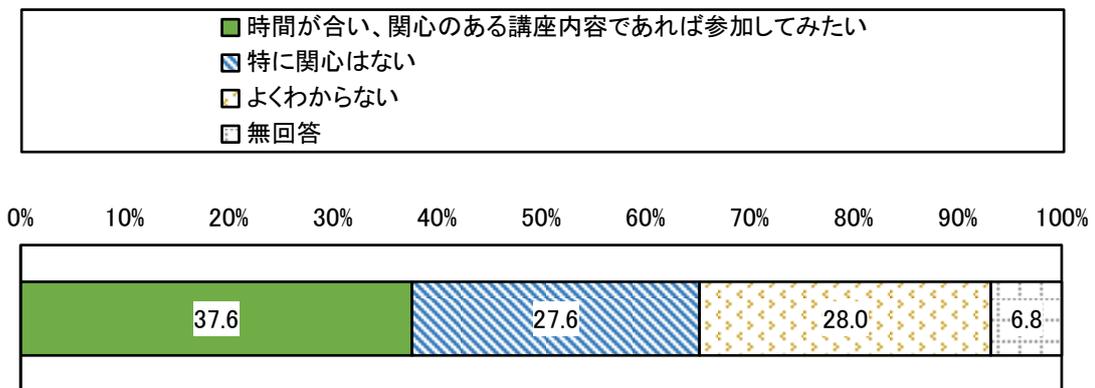
問 25 地域で福祉に関する講習会や研修会等へ参加してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

福祉に関する講習会や研修会等への参加意向について、「時間が合い、関心のある講座内容であれば参加してみたい」と回答した方の割合は 37.6%、「特に関心はない」が 27.6%、「よくわからない」が 28.0%となっています。

年齢別にみると、「時間が合い、関心のある講座内容であれば参加してみたい」と回答した方の割合が最も高い年齢層は 30 代でした (20 代 : 38.6%、30 代 : 46.0%、40 代 : 42.0%、50～64 歳 : 41.8%、65～74 歳 : 30.5%、75 歳以上 : 25.5%)。

地区別にみると、「時間が合い、関心のある講座内容であれば参加してみたい」と回答した方の割合が最も高い地区は【東部南】地区でした (北部 : 36.6%、中部北 : 38.0%、中部南 : 42.2%、東部北 : 34.3%、東部南 : 43.8%、西部北 : 32.1%、西部南 : 35.9%)。

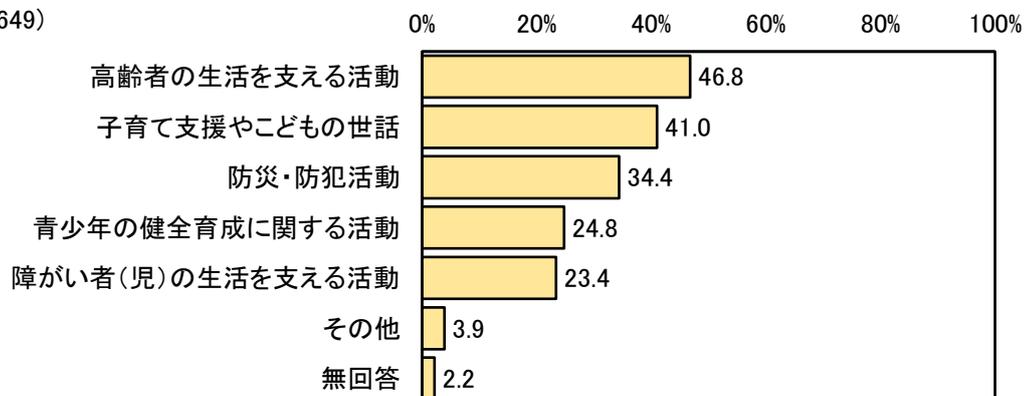
(n=1,727)



問 25-1 問 25 において「1. 時間が合い、関心のある講座内容であれば参加してみたい」に〇をつけた方におたずねします。どのような講座内容に興味がありますか。(〇はいくつでも)

どのような講座内容に興味があるかについて、「高齢者の生活を支える活動」と回答した方の割合が 46.8%と最も高く、次いで「子育て支援やこどもの世話」が 41.0%、「防災・防犯活動」が 34.4%、「青少年の健全育成に関する活動」が 24.8%、「障がい者(児)の生活を支える活動」が 23.4%、などとなっています。

(n=649)



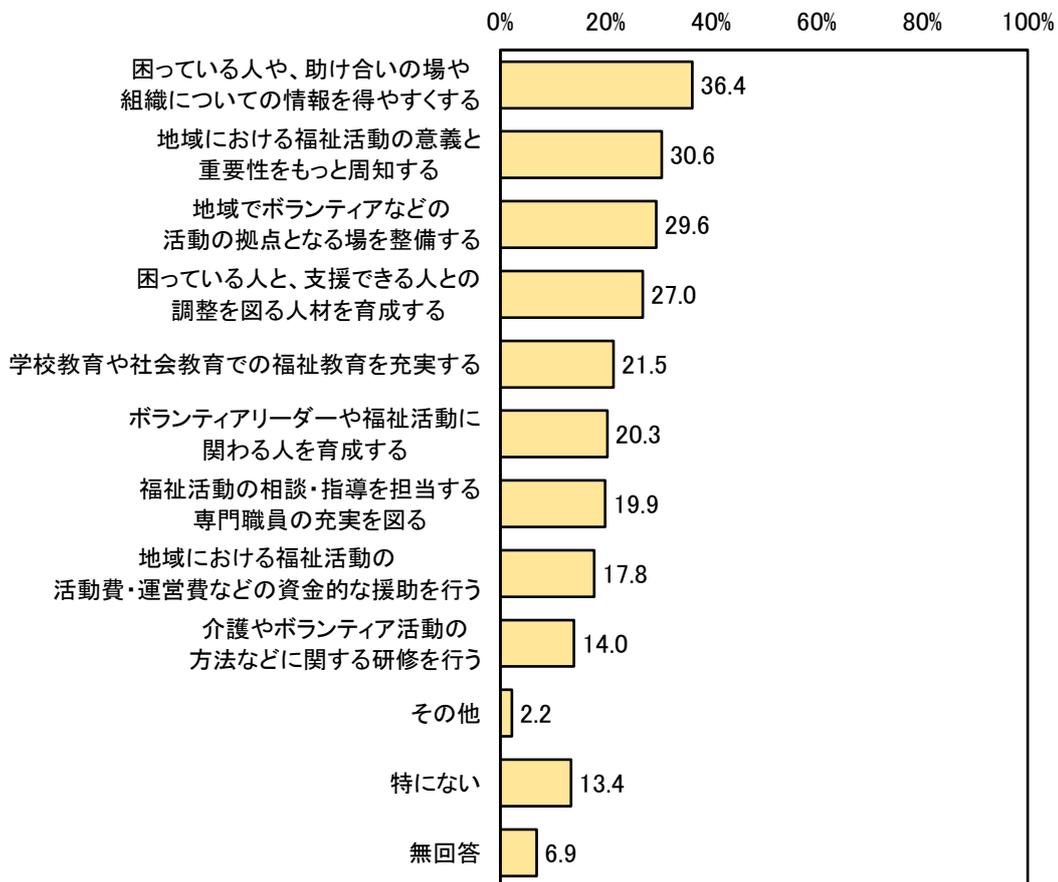
## (5) 助け合い、支え合い活動の活発化に重要なこと

問 26 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについて、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」と回答した方が 36.4%で最も多く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと周知する」が 30.6%、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が 29.6%、「困っている人と、支援できる人との調整を図る人材を育成する」が 27.0%、「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」が 21.5%、などとなっています。

年齢別にみると、20～64 歳については「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」の回答割合が最も高くなっています(20代：40.2%、30代：45.5%、40代：47.7%、50～64歳：37.8%)が、65歳以上では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと周知する」と回答した方の割合が最も高くなっています(65～74歳：30.5%、75歳以上：28.1%)。

(n=1,727)



## 6 認知度について

### (1) 市の福祉サービスや福祉施設などの認知状況

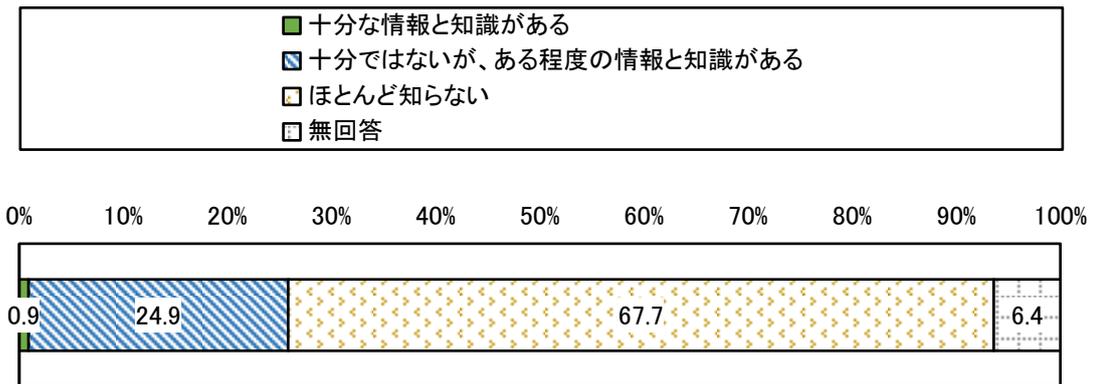
問 27 沖縄市の福祉サービスや福祉施設などについてどの程度知っていますか。(〇は1つ)

市の福祉サービスや福祉施設などの認知状況について、「ほとんど知らない」が 67.7%で最も多く、次いで「十分ではないが、ある程度の情報と知識がある」が 24.9%、「十分な情報と知識がある」が 0.9%となっています。

年齢別にみると、「十分な情報と知識がある」、「十分ではないが、ある程度の情報と知識がある」を合わせた“知識がある”の割合が最も高い年齢層は、75歳以上となっています(20代：20.4%、30代：20.8%、40代：28.6%、50～64歳：24.0%、65～74歳：26.3%、75歳以上：32.8%)。

地区別にみると、“知識がある”と回答した方の割合が最も高い地区は【中部南】地区となっています(北部：25.2%、中部北：25.7%、中部南：31.9%、東部北：23.4%、東部南：27.3%、西部北：26.9%、西部南：24.0%)。

(n=1,727)



## (2) 福祉関連の人、団体、窓口の認知度

問 28 あなたは次の人・団体・窓口をどの程度知っていますか。①～⑩の項目について、それぞれ1～4の中から、あてはまるもの1つに○をつけてください。

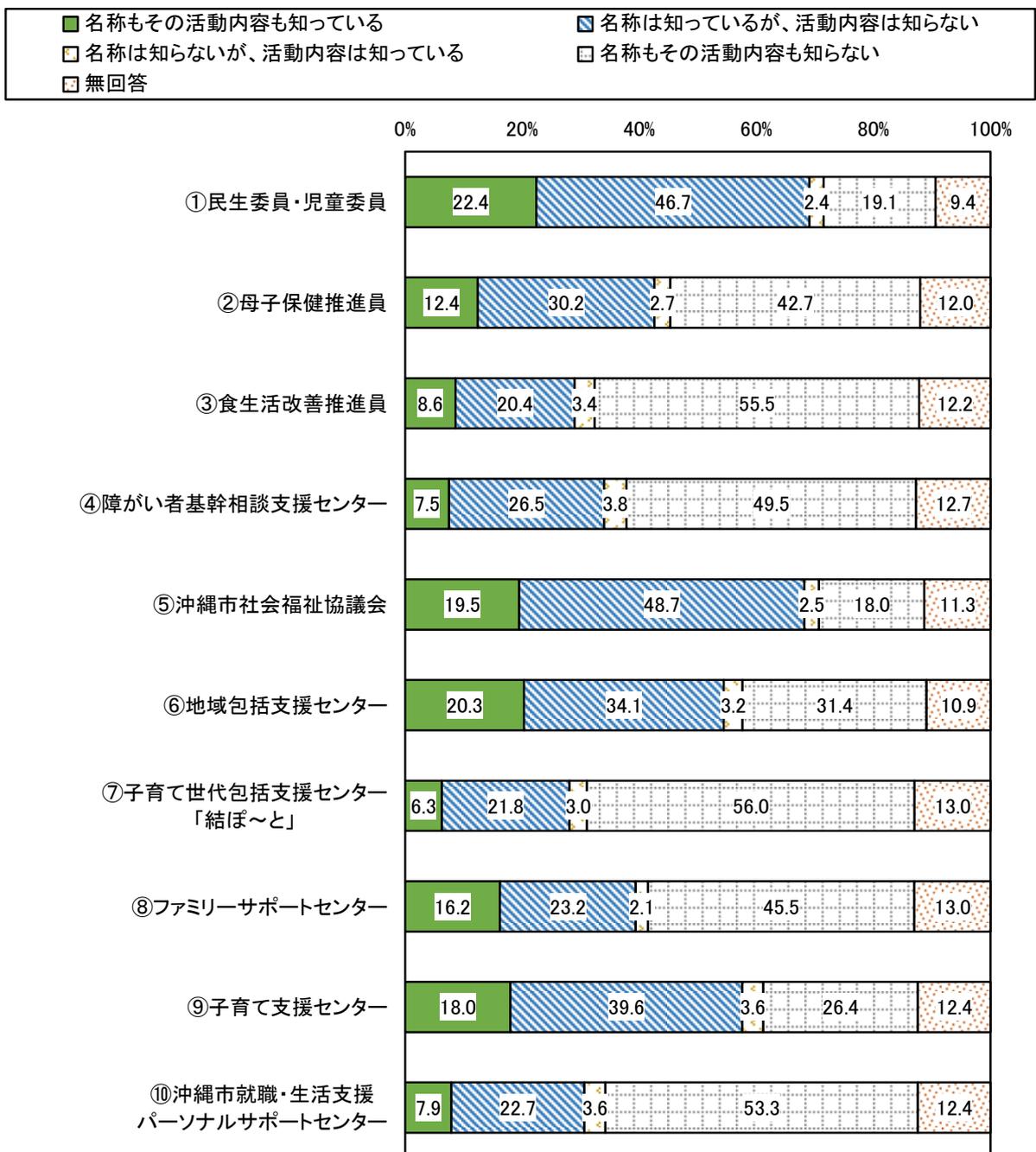
福祉関連の人、団体、窓口の認知度について、「名称は知っているが、活動内容は知らない」と「名称は知っているが、活動内容は知らない」と、「名称は知らないが、活動内容は知っている」を合わせて一定以上『知っている』の回答が最も多いのは「①民生委員・児童委員」(71.5%)となっています。

一方「名称もその活動内容も知らない」が最も多いのは「⑦子育て世代包括支援センター「結ぼ〜と」」(56.0%)となっています。

男女別にみると、全項目で“知っている”の回答割合が女性の方が男性よりも高くなっています。年齢別にみると、全体を通じて40代で“知っている”の回答割合が高くなっています。

地区別にみると、全体を通じて【東部南】地区で“知っている”の回答割合が高くなっています。

(n=1,727)



### (3) 社会福祉協議会の活動の認知度

問 29 沖縄市社会福祉協議会(社協)では、下記の事業や活動を行なっていますが、そのなかで知っているものに○をつけてください。(○はいくつでも)

社会福祉協議会の活動の認知度について、「赤い羽根共同募金運動(沖縄市内での福祉活動費の造成等)」と回答した方の割合が71.5%で最も多く、次いで「沖縄市福祉まつり等の福祉イベントの開催」が50.1%、「歳末たすけ合い運動(生活困窮者等への支援)」が50.0%、「ひとり一品運動・フードバンク運動(生活困窮者への緊急の食糧支援)」が27.7%、「介護用品(車いす等)の貸し出し」が24.8%などとなっています。

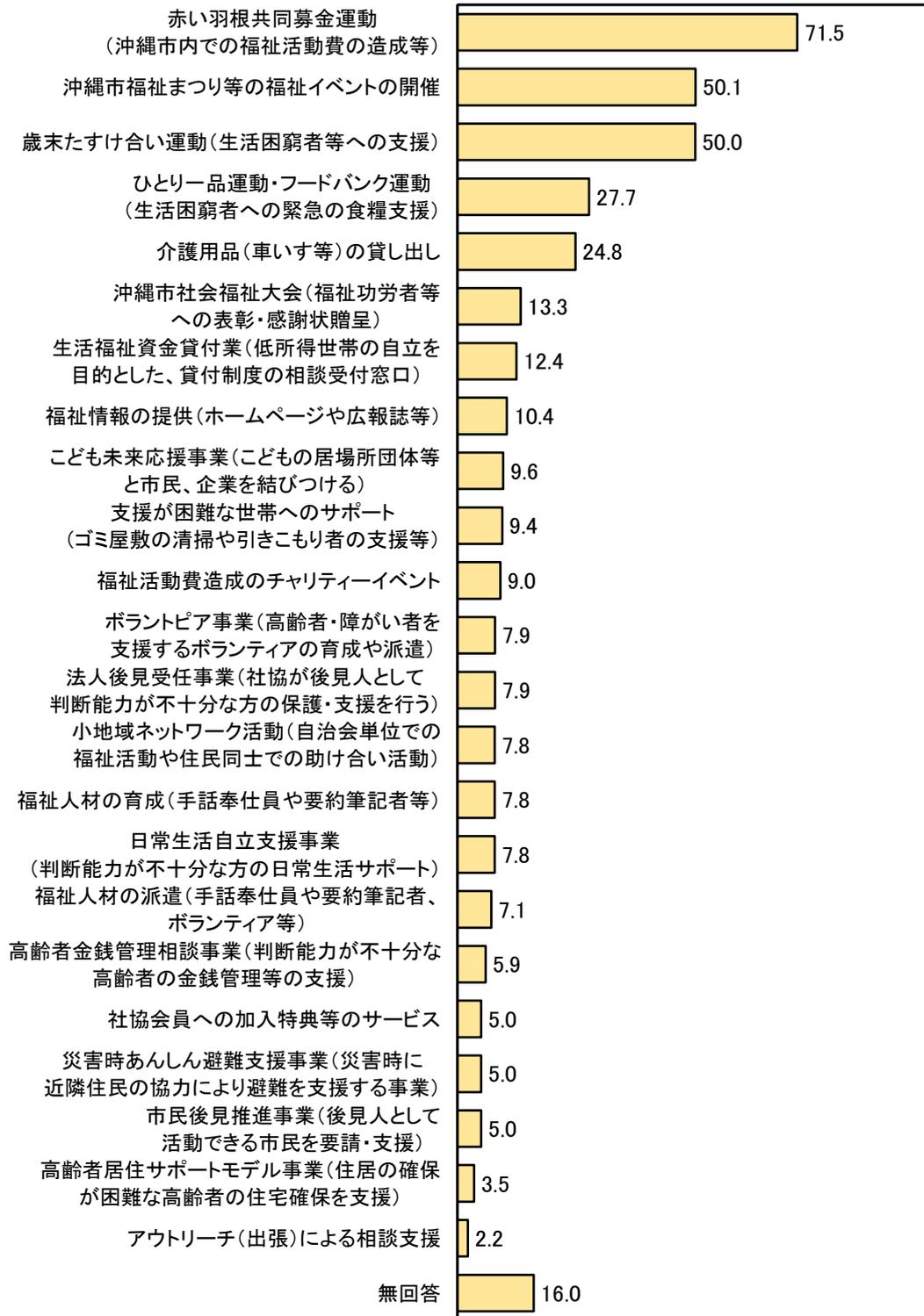
男女別にみると、全ての項目で女性の回答割合が男性よりも高くなっています。

年齢別にみると、「歳末たすけ合い運動(生活困窮者等への支援)」について、50歳以上の回答割合が6割程度となっている一方、20代の回答割合は1割強、30代の回答割合は2割程度、40代の回答割合は5割程度と、年齢によって大きな差があります(20代:16.7%、30代:21.3%、40代:48.0%、50~64歳:61.8%、65~74歳:58.9%、75歳以上:60.4%)。

地区別にみると、「赤い羽根共同募金運動(沖縄市内での福祉活動費の造成等)」について、回答割合が最も高い地区が【中部南】地区、最も低い地区は【東部北】地区となっています(北部:71.0%、中部北:72.7%、中部南:76.5%、東部北:66.5%、東部南:72.4%、西部北:72.5%、西部南:73.7%)。

(n=1,727)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



#### (4) 社会福祉協議会に期待すること

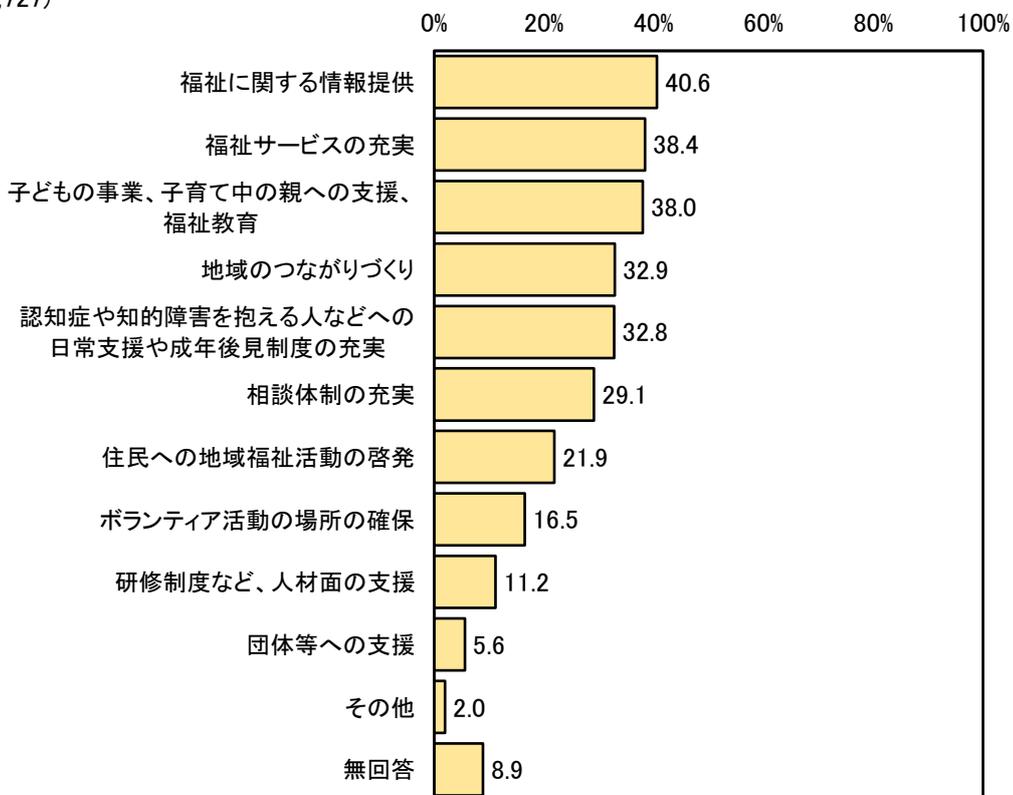
問 30 沖縄市社会福祉協議会(社協)に期待することはどんなことですか。(〇はいくつでも)

社会福祉協議会に期待することについて、「福祉に関する情報提供」と回答した方の割合が40.6%で最も多く、次いで「福祉サービスの充実」が38.4%、「子どもの事業、子育て中の親への支援、福祉教育」が38.0%、「地域のつながりづくり」が32.9%、「認知症や知的障害を抱える人などへの日常支援や成年後見制度の充実」が32.8%、などとなっています。

男女別にみると、男女で最も回答割合に差があった項目が「認知症や知的障害を抱える人などへの日常支援や成年後見制度の充実」となっています(男性：26.8%、女性：37.0%)。

年齢別にみると、「子どもの事業、子育て中の親への支援、福祉教育」と回答した方の割合は、30代が他の年齢層と比べて際立って高く大きく差が出ています(20代：47.7%、30代：64.9%、40代：49.0%、50～64歳：33.9%、65～74歳：25.7%、75歳以上：20.9%)。

(n=1,727)



## (5) 民生委員・児童委員に期待すること

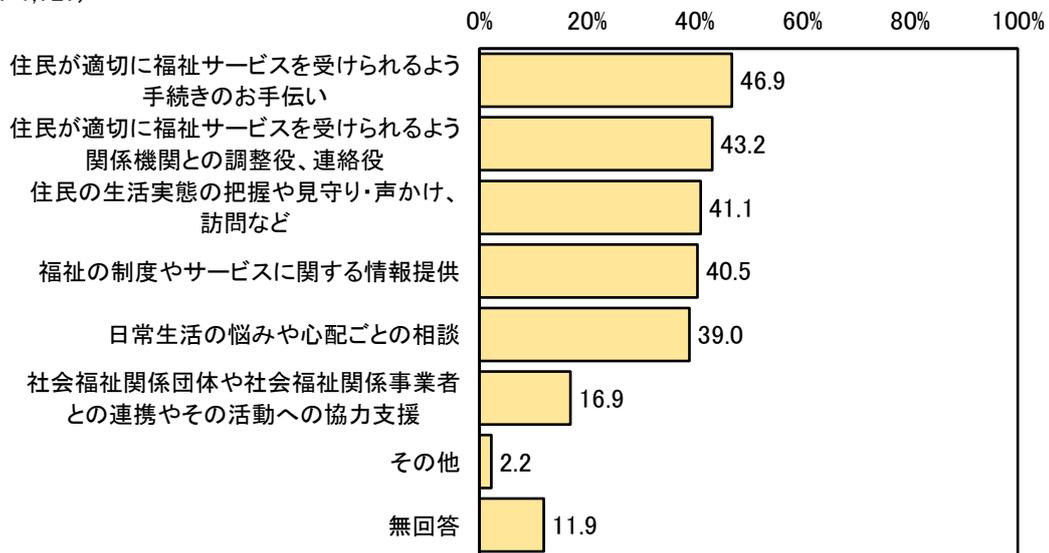
### 問 31 民生委員・児童委員に期待することはどんなことですか。(〇はいくつでも)

民生委員・児童委員に期待することについて、「住民が適切に福祉サービスを受けられるよう手続きのお手伝い」と回答した方の割合が46.9%で最も多く、次いで「住民が適切に福祉サービスを受けられるよう関係機関との調整役、連絡役」が43.2%、「住民の生活実態の把握や見守り・声かけ、訪問など」が41.1%、「福祉の制度やサービスに関する情報提供」が40.5%、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が39.0%となっています。

男女別にみると、男女で最も回答割合に差があった項目は「住民が適切に福祉サービスを受けられるよう手続きのお手伝い」(男性：41.0%、女性：51.3%)でした。

年齢別にみると、「住民が適切に福祉サービスを受けられるよう手続きのお手伝い」と回答した方の割合が最も高い年齢層は50～64歳となっています(20代：37.1%、30代：43.6%、40代：46.7%、50～64歳：50.5%、65～74歳：49.2%、75歳以上：44.7%)。

(n=1,727)



## 7 災害時における助け合いについて

### (1) 避難場所

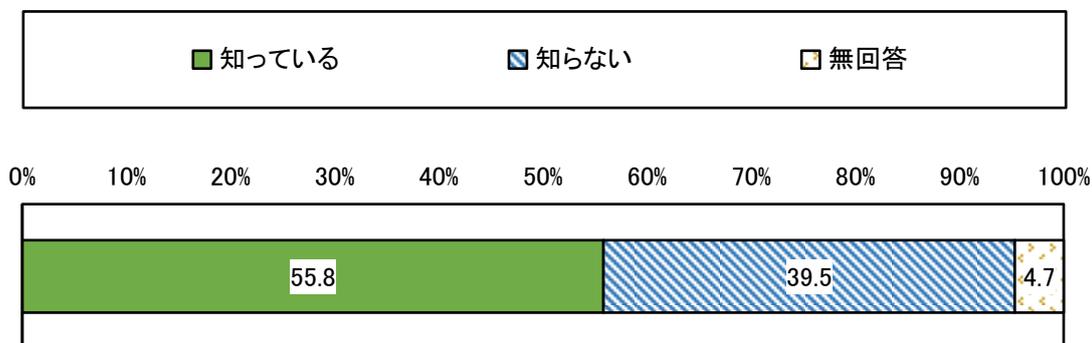
問 32 あなたは災害時の避難場所を知っていますか。(〇は1つ)

災害時の避難場所について、「知っている」が 55.8%、「知らない」が 39.5%となっています。

年齢別にみると、「知っている」の回答割合が最も高い年齢層は 40 代となっています。(20 代：47.0%、30 代：52.1%、40 代：61.7%、50～64 歳：57.2%、65～74 歳：56.8%、75 歳以上：51.9%)

地区別にみると、「知っている」の回答割合が最も高い地区は中部南地区となっています(北部：53.8%、中部北：56.5%、中部南：58.4%、東部北：57.3%、東部南：54.9%、西部北：58.0%、西部南：53.5%)。

(n=1,727)



## (2) 避難のためにたよりにする人

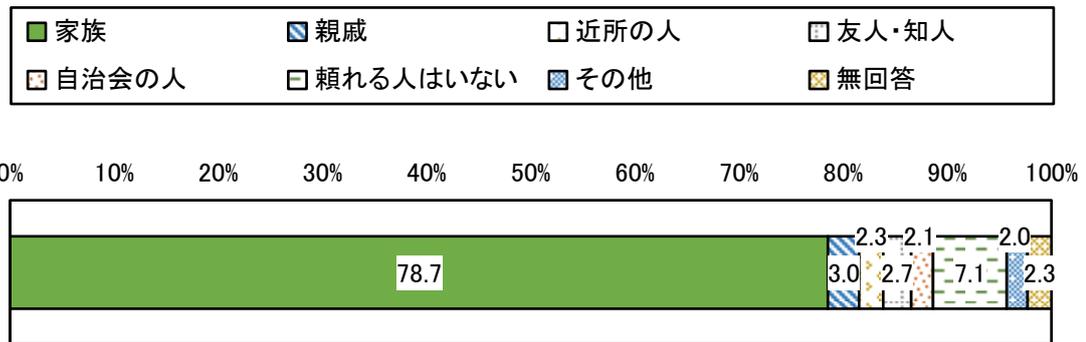
問 33 あなたは災害が起こった場合に、避難するために誰を主にたよりにしますか。(〇は1つ)

災害発生時に避難するためにたよりにする人について、「家族」と回答した方が 78.7%で最も多く、次いで「親戚」が 3.0%、「友人・知人」が 2.7%、「近所の人」が 2.3%、「自治会の人」が 2.1%などとなっています。また、「頼れる人はいない」が 7.1%となっています。

男女別にみると、「頼れる人はいない」について、男性の回答割合が女性よりも高くなっています（男性：9.1%、女性：5.8%）。

地区別にみると、「頼れる人はいない」と回答した割合が最も高い地区は【西部北】地区となっています（北部：5.9%、中部北：6.5%、中部南：6.6%、東部北：8.4%、東部南：7.1%、西部北：9.3%、西部南：5.5%）。

(n=1,727)



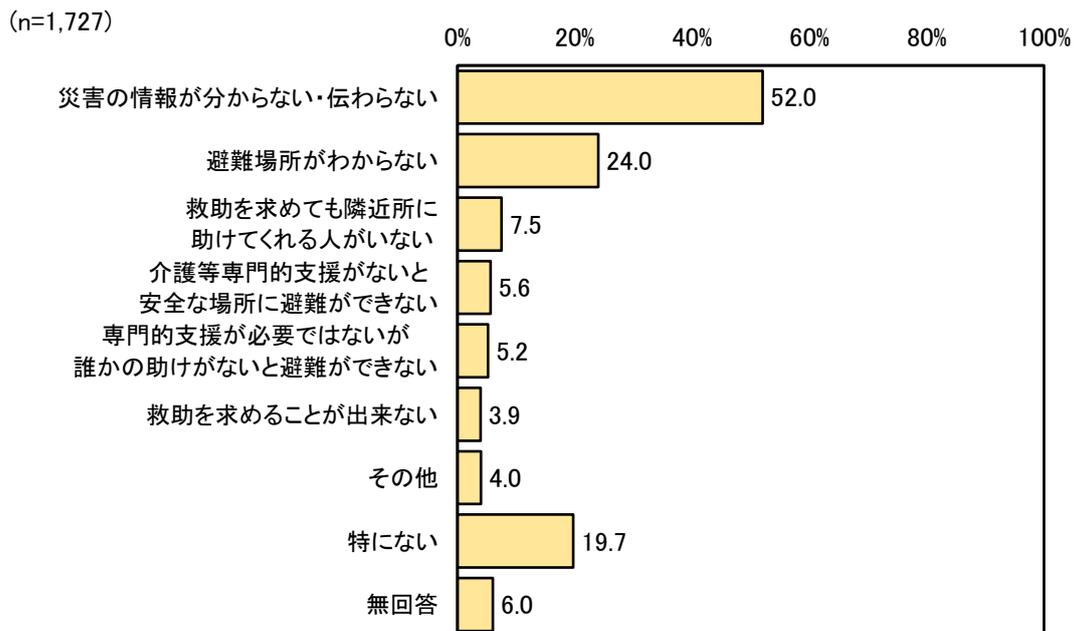
### (3) 避難時の不安、困りごと

問 34 あなたが避難する場合に、不安に思ったり、困ったりすることはどのようなことだと思いますか。  
(○は2つまで)

避難時の不安、困りごとについて、「災害の情報が分からない・伝わらない」と回答した方が52.0%で最も多く、次いで「避難場所がわからない」24.0%、「救助を求めても隣近所に助けてくれる人がいない」7.5%、「介護等専門的支援がないと安全な場所に避難ができない」5.6%、「専門的支援が必要ではないが誰かの助けがないと避難ができない」5.2%などとなっています。また、「特にない」は19.7%となっています。

年齢別にみると、75歳以上では「介護等専門的支援がないと安全な場所に避難ができない」、「専門的支援が必要ではないが誰かの助けがないと避難ができない」と回答した方の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

地区別にみると、「救助を求めても隣近所に助けてくれる人がいない」と回答した方の割合にばらつきが見られます（北部：8.8%、中部北：6.2%、中部南：4.8%、東部北：10.9%、東部南：6.8%、西部北：2.6%、西部南：10.1%）。【東部北】【西部南】【北部】では他と比較して回答割合が高く、【西部北】【中部南】地区では回答割合が低い傾向が見て取れます。



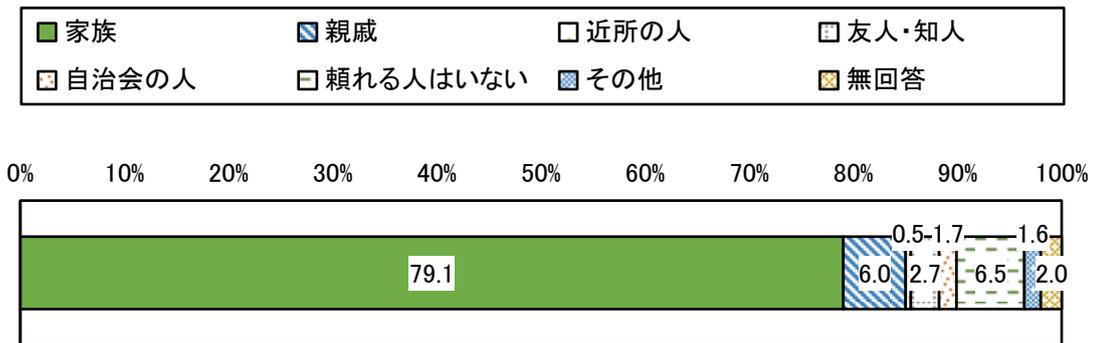
#### (4) 災害時に生活面でたよりにする人

問 35 あなたが災害に遭った場合に、生活面で主に誰をたよりにしますか。(○は1つ)

災害時に生活面で頼りにする人について、「家族」と回答した方の割合が 79.1%で最も多く、次いで「親戚」が 6.0%、「友人・知人」が 2.7%、「自治会の人」が 1.7 などとなっています。また、「頼れる人はいない」は 6.5%となっています。

地区別にみると、「頼れる人はいない」と回答した方の割合が最も高い地区は、【西部北】地区でした（北部：5.9%、中部北：4.2%、中部南：5.4%、東部北：8.8%、東部南：5.8%、西部北：11.4%、西部南：4.1%）。

(n=1,727)



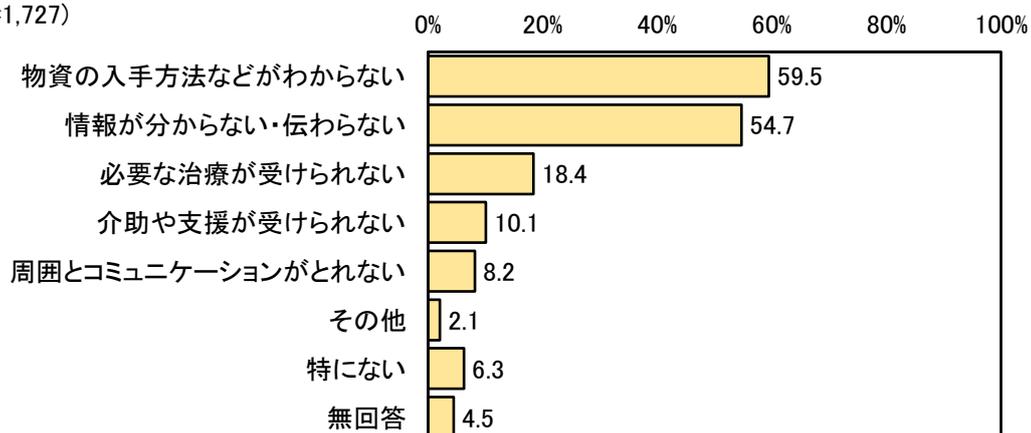
#### (5) 災害時の生活面の不安、困りごと

問 36 あなたは地震などの災害が発生した時に、その後の生活面で困ることはどのようなことだと思いますか。(○は2つまで)

災害時の生活面の不安、困りごとについて、「物資の入手方法などがわからない」と回答した方が 59.5%で最も多く、次いで「情報が分からない・伝わらない」が 54.7%、「必要な治療が受けられない」が 18.4%、「介助や支援が受けられない」が 10.1%、「周囲とコミュニケーションがとれない」が 8.2%、などとなっています。

年齢別にみると、「物資の入手方法などがわからない」に関して回答傾向にバラつきが見られ、回答割合が最も高い年齢層が 30 代、最も低い年齢層は 75 歳以上となっています（20 代：63.6%、30 代：74.4%、40 代：71.0%、50～64 歳：63.8%、65～74 歳：46.8%、75 歳以上：40.0%）。

(n=1,727)



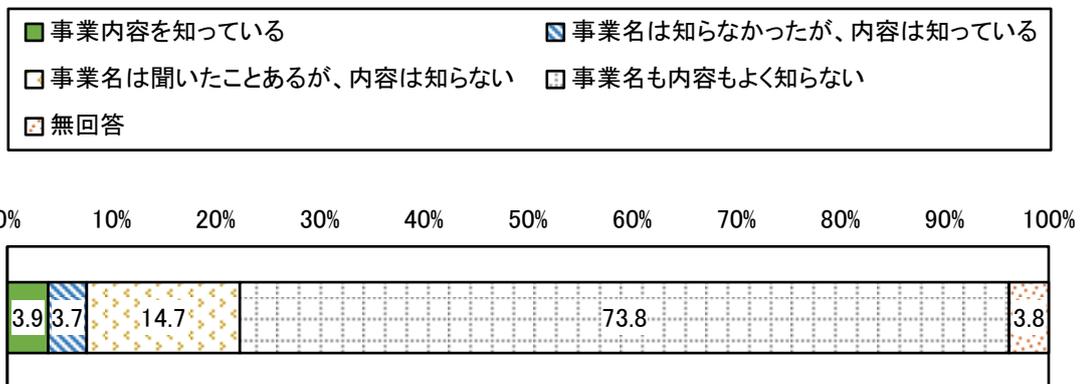
## (6) 避難行動要支援者避難支援事業(災害時あんしん避難支援事業)

問 37 沖縄市では、災害時に自力で避難が困難な方に対し、日頃からの見守りと住民同士の繋がりを築き、災害時に迅速かつ適切に避難支援をすることができるよう避難行動要支援者避難支援事業(災害時あんしん避難支援事業)を実施しています。あなたはこの事業についてどの程度知っていますか。(〇は1つ)

避難行動要支援者避難支援事業(災害時あんしん避難支援事業)について、「事業名も内容もよく知らない」と回答した方の割合が73.8%で最も多く、次いで「事業名は聞いたことがあるが、内容は知らない」が14.7%、「事業内容を知っている」が3.9%、「事業名は知らなかったが、内容は知っている」が3.7%となっています。

年齢別にみると、「事業名も内容もよく知らない」と回答した方の割合が最も高い年齢層は30代(20代:80.3%、30代:86.7%、40代:76.7%、50~64歳:76.2%、65~74歳:68.3%、75歳以上:60.4%)でした。

(n=1,727)



## (7) 災害時要支援者への登録

問 38 沖縄市では、災害時に自力で避難が困難な災害時要支援者への支援を迅速かつ適切に行うため、災害時要支援者の登録を行なっています。この取り組みに対して、あなたのお考えをお聞かせください。

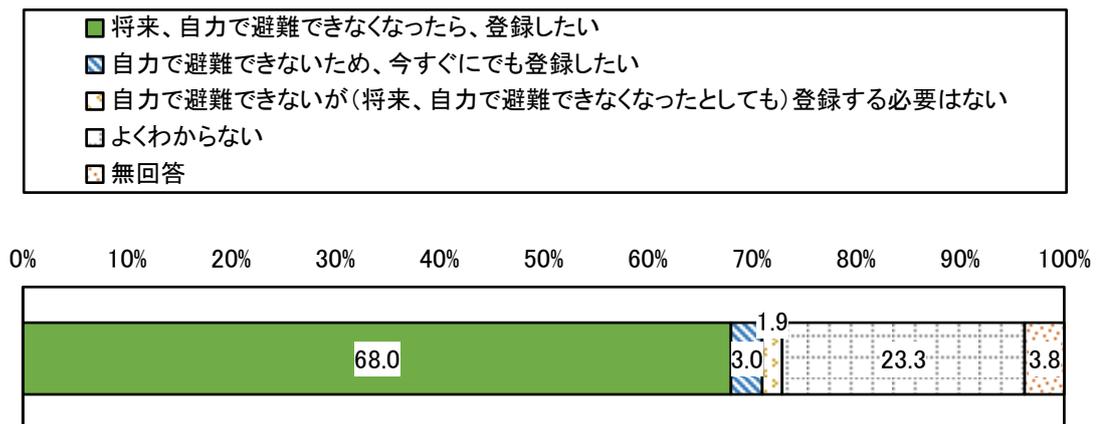
(○は1つ)

災害時要支援者への登録について、「将来、自力で避難できなくなったら、登録したい」と回答した方の割合が 68.0%と最も多く、次いで「自力で避難できないため、今すぐにでも登録したい」が 3.0%、「自力で避難できないが(将来、自力で避難できなくなったとしても)登録する必要はない」が 1.9%、となっています。また、「よくわからない」は 23.3%となっています。

年齢別にみると、「将来、自力で避難できなくなったら、登録したい」と回答した方の割合で年代による差異が見られ、回答割合が最も高い 30 代と最も低い 75 歳以上とでは、15.7%の差がありました(20代:72.7%、30代:74.4%、40代:72.3%、50~64歳:68.9%、65~74歳:64.7%、75歳以上:58.7%)。

地区別にみると、「将来、自力で避難できなくなったら、登録したい」の回答割合が最も高い地区は【西部北】地区となっています(北部:65.1%、中部北:68.8%、中部南:62.0%、東部北:70.7%、東部南:70.5%、西部北:72.5%、西部南:63.6%)。

(n=1,727)



## (8) 避難時の誘導・支援

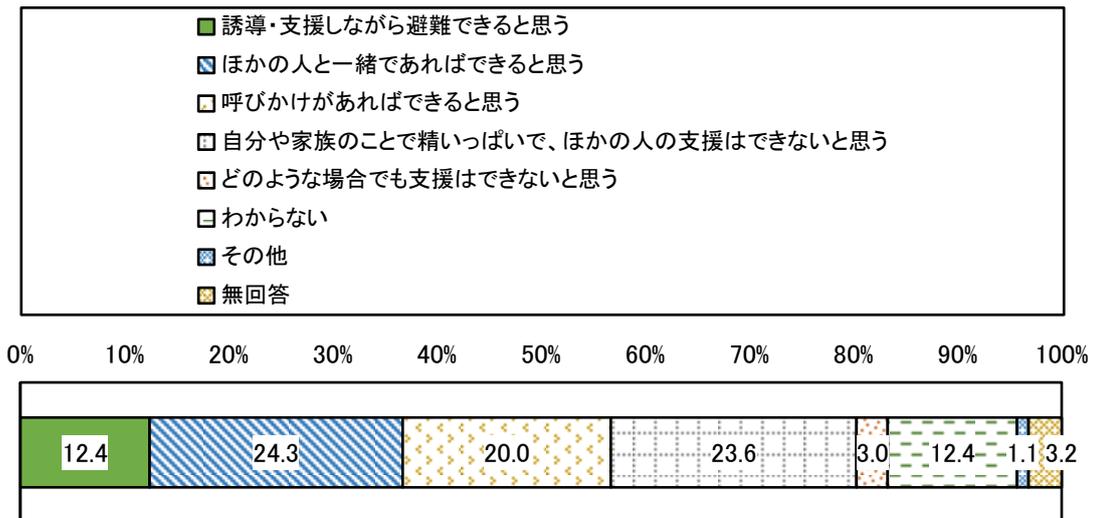
問 39 災害時要支援者をサポートする支援者の確保についても取り組んでいます。災害が発生して自宅から避難する必要がある場合、あなたは近所の高齢者や障がいのある方などを誘導・支援しながら避難できると思いますか。(○は1つ)

災害発生時の災害時要支援者の誘導・支援について、「ほかの人と一緒にあればできると思う」と回答した方の割合が 24.3%で最も多く、次いで「自分や家族のことで精いっぱい、ほかの人の支援はできないと思う」が 23.6%、「呼びかけがあればできると思う」が 20.0%、「誘導・支援しながら避難できると思う」が 12.4%などとなっています。また、「わからない」は 12.4%となっています。

年齢別にみると、「自分や家族のことで精いっぱい、ほかの人の支援はできないと思う」と回答した方の割合が、30代と75歳以上で相対的に高くなっています(20代：21.2%、30代：31.3%、40代：21.7%、50～64歳：21.2%、65～74歳：23.9%、75歳以上：26.0%)。

地区別にみると、「誘導・支援しながら避難できると思う」、「ほかの人と一緒にあればできると思う」、「呼びかけがあればできると思う」を合わせた“できると思う”と回答した方の割合が【北部】地区のみ突出して低くなっています(北部：26.7%、中部北：62.0%、中部南：58.5%、東部北：56.9%、東部南：53.9%、西部北：54.9%、西部南：56.3%)。

(n=1,727)

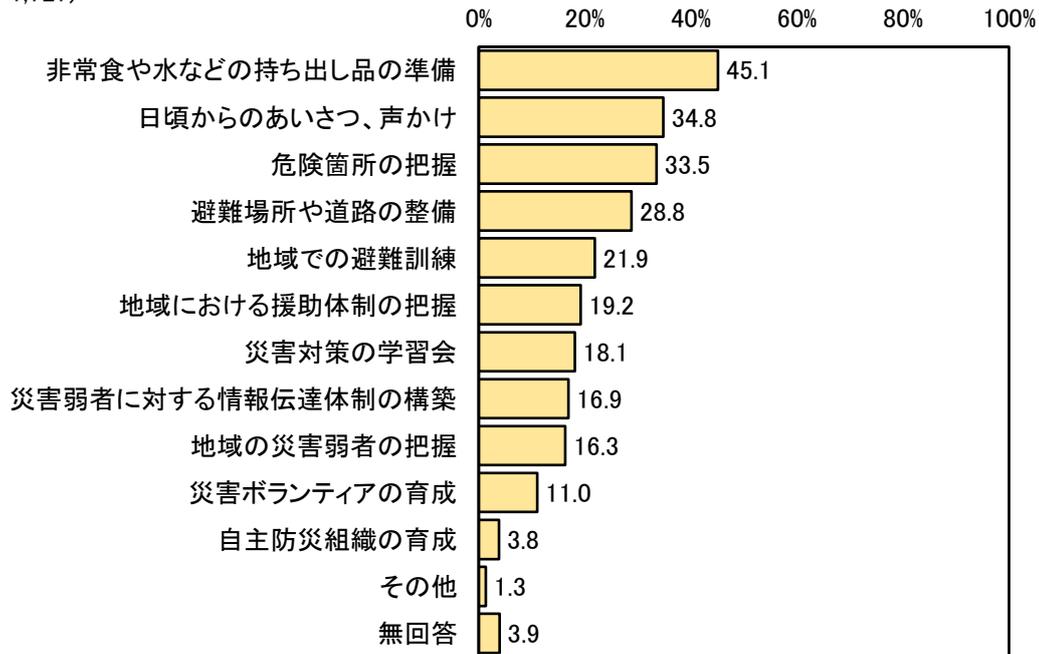


## (9) 災害時の備え

問 40 地域における災害時の備えとして、何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

重要だと思う災害時の備えについて、「非常食や水などの持ち出し品の準備」と回答した方の割合が45.1%で最も多く、次いで「日頃からのあいさつ、声かけ」が34.8%、「危険箇所の把握」が33.5%、「避難場所や道路の整備」が28.8%、「地域での避難訓練」が21.9%、などとなっています。

(n=1,727)



## 8 福祉への意識・関心について

### (1) 福祉の推進のために必要なこと

問 41 あなたは福祉を推進するため、今後何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

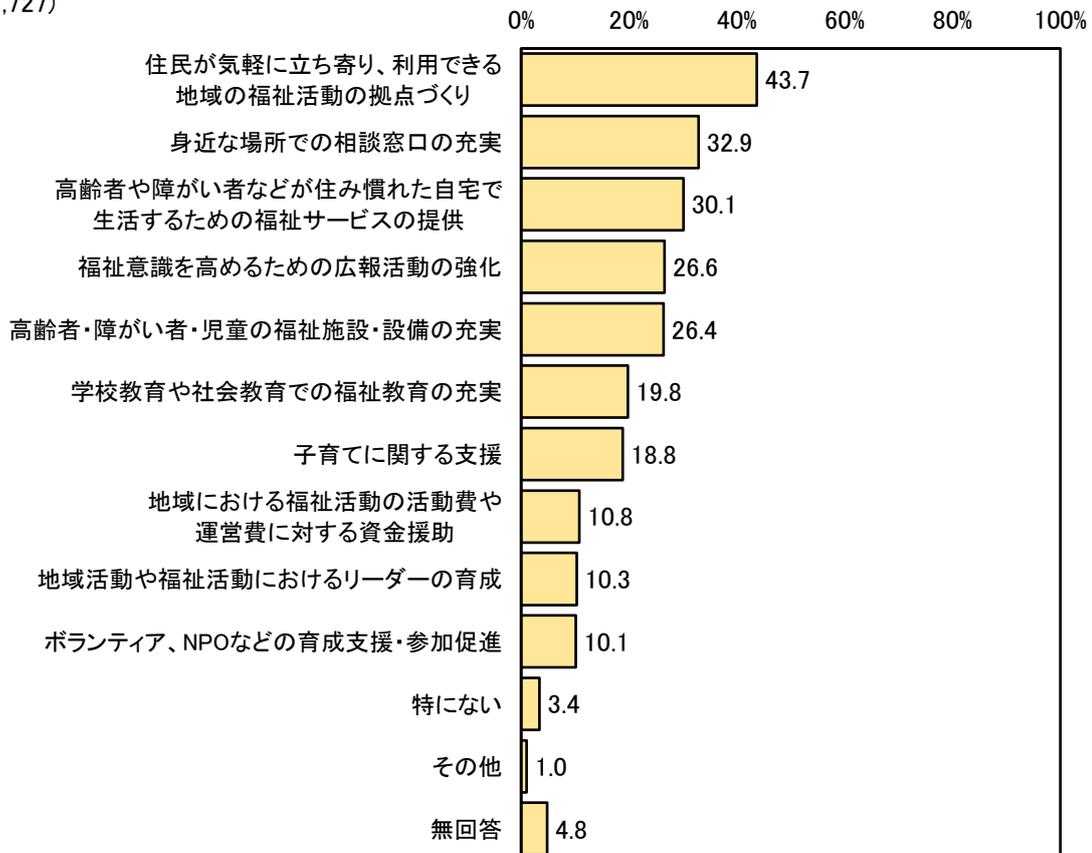
福祉の推進のために必要なことについて、「住民が気軽に立ち寄り、利用できる地域の福祉活動の拠点づくり」と回答した方の割合が43.7%で最も多く、次いで「身近な場所での相談窓口の充実」が32.9%、「高齢者や障がい者などが住み慣れた自宅で生活するための福祉サービスの提供」が30.1%、「福祉意識を高めるための広報活動の強化」が26.6%、「高齢者・障がい者・児童の福祉施設・設備の充実」が26.4%、などとなっています。

男女別にみると、男女で最も回答割合に差があった項目は「高齢者や障がい者などが住み慣れた自宅で生活するための福祉サービスの提供」でした（男性：24.2%、女性：34.3%）。

年齢別にみると、「子育てに関する支援」について、20代～40代に比べて50歳以上の回答割合が低くなっています。（20代：25.8%、30代：39.8%、40代：28.3%、50～64歳：16.2%、65～74歳：8.2%、75歳以上：5.1%）

地区別にみると、「住民が気軽に立ち寄り、利用できる地域の福祉活動の拠点づくり」と回答した方の割合が、【西部南】地区で相対的に低くなっていることが見て取れます（北部：46.6%、中部北：42.5%、中部南：46.4%、東部北：42.7%、東部南：43.2%、西部北：50.3%、西部南：37.3%）。

(n=1,727)



## 9 生活困窮者の自立支援について

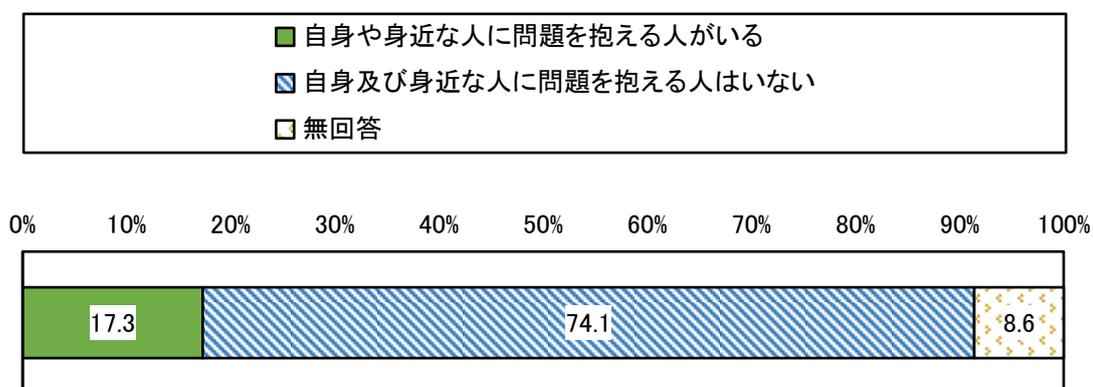
### (1) 生活困窮者の状況

問 42 あなたの周囲に生活困窮者と思われる人がいますか。(○は1つ)

周囲の生活困窮者の状況について、「自身や身近な人に問題を抱える人がいる」と回答した方の割合は 17.3%、「自身及び身近な人に問題を抱える人はいない」と回答した方の割合が 74.1% となっています。

地区別にみると、「自身や身近な人に問題を抱える人がいる」と回答した方の割合は、【中部南】地区と【東部北】地区で高くなっています(北部：13.4%、中部北：17.9%、中部南：22.9%、東部北：20.5%、東部南：14.9%、西部北：17.6%、西部南：17.5%)。

(n=1,727)



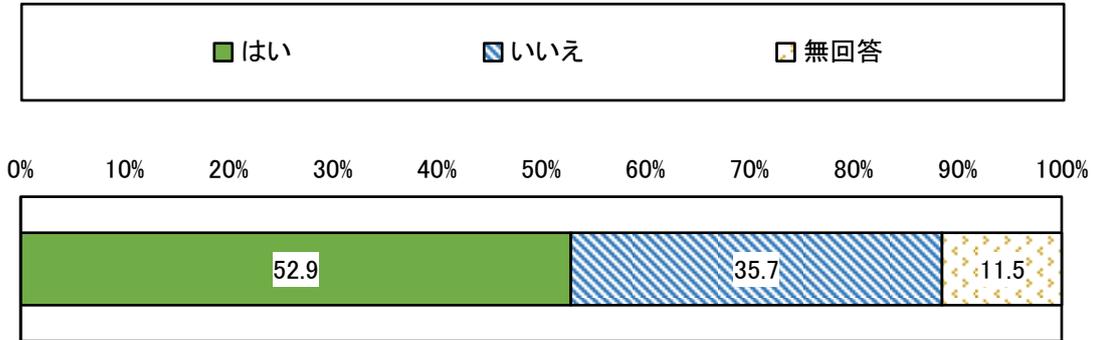
## (2) 生活困窮者への支援

問 43 あなたは生活困窮者を支援したいと思いますか。(あてはまるものに○)

生活困窮者を支援したいと思うかについて、「はい」が 52.9%、「いいえ」が 35.7%となっています。

年齢別にみると、「はい」と回答した方の割合が最も高い年齢層は 20 代でした (20 代 : 56.8%、30 代 : 53.6%、40 代 : 54.3%、50~64 歳 : 56.2%、65~74 歳 : 50.5%、75 歳以上 : 46.8%)。

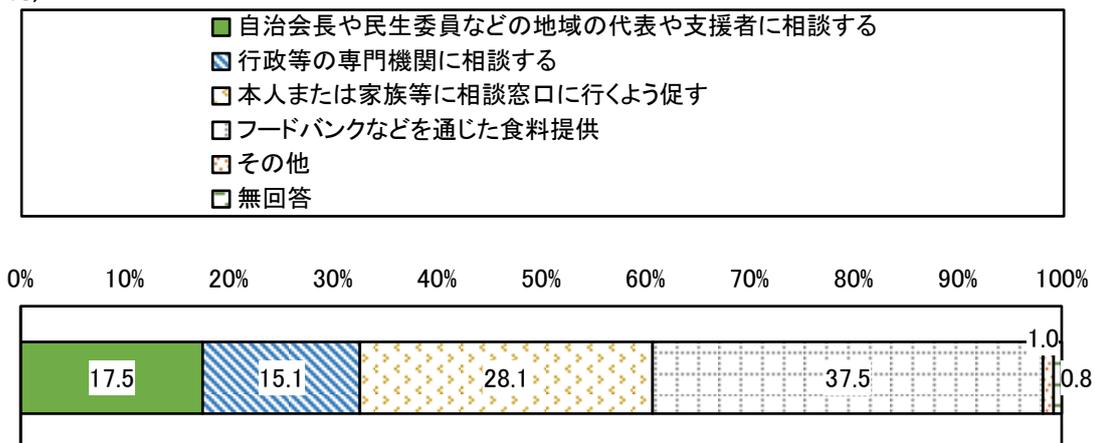
(n=1,727)



問 43-1 問 43 で「1.はい」を選択した方におたずねします。生活困窮者を支援する場合、あなたならどのような支援ができると思いますか。(○は1つ)

生活困窮者を支援したいと思うかについて、「フードバンクなどを通じた食料提供」と回答した方の割合が 37.5%で最も多く、次いで「本人または家族等に相談窓口に行くよう促す」が 28.1%、「自治会長や民生委員などの地域の代表や支援者に相談する」が 17.5%、「行政等の専門機関に相談する」が 15.1%などとなっています。

(n=913)

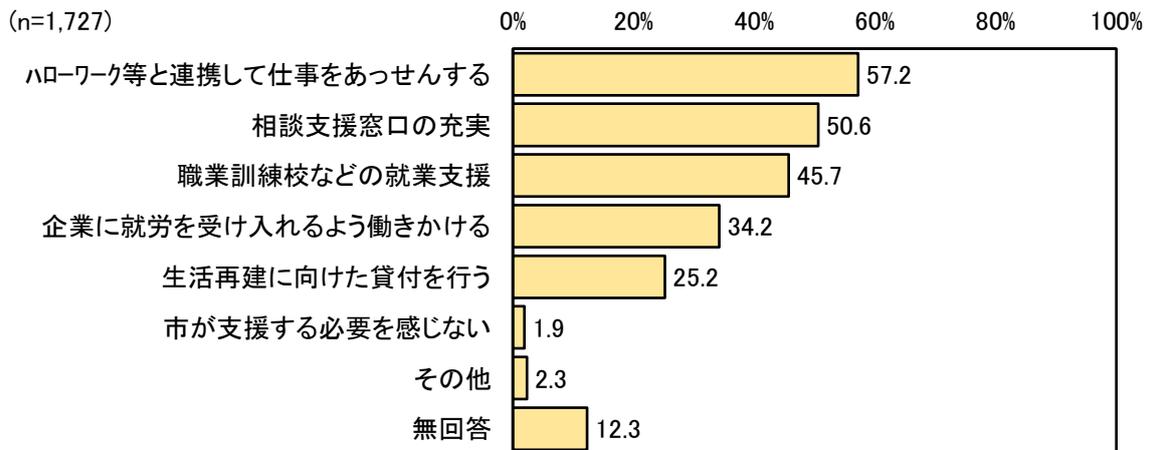


### (3) 市が行うべき生活困窮者への支援

問 44 生活困窮者の自立支援に向けて、市が行うべき支援として望ましいと思うのはどのような取り組みですか。(〇はいくつでも)

市が行うべき生活困窮者への支援について、「ハローワーク等と連携して仕事をあっせんする」と回答した方の割合が 57.2%で最も多く、次いで「相談支援窓口の充実」が 50.6%、「職業訓練校などの就業支援」が 45.7%、「企業に就労を受け入れるよう働きかける」が 34.2%、「生活再建に向けた貸付を行う」が 25.2%となっています。

年齢別にみると、「ハローワーク等と連携して仕事をあっせんする」と回答した方の割合は高齢②なるに伴い低くなる傾向がでています(20代:61.4%、30代:62.6%、40代:65.0%、50~64歳:59.8%、65~74歳:50.5%、75歳以上:46.0%)。



## 10 健康づくりについて

### (1) 健康状態

問 45 あなたの健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

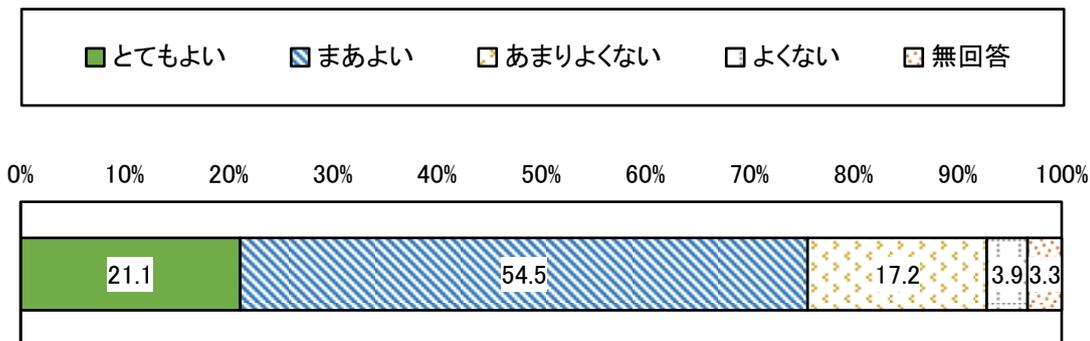
健康状態について、「まあよい」と回答した方の割合が 54.5%で最も多く、次いで「とてもよい」が 21.1%、「あまりよくない」が 17.2%、「よくない」が 3.9%となっています。

男女別にみると、女性の方が男性よりも「とてもよい」と「よい」合わせた“よい”の回答割合が高くなっています(男性：74.3%、女性：76.6%)。

年齢別にみると、年齢が上がるにしたがって“よい”の回答割合が減少します(20代：89.4%、30代：88.1%、40代：81.0%、50～64歳：80.8%、65～74歳：65.3%、75歳以上：55.3%)。

地区別にみると、“よい”の回答割合が最も高い地区は【東部北】地区(北部：76.5%、中部北：78.0%、中部南：71.1%、東部北：79.1%、東部南：78.6%、西部北：70.0%、西部南：73.3%)で、最も低い【西部北】地区とは9.1%の差があります。

(n=1,727)



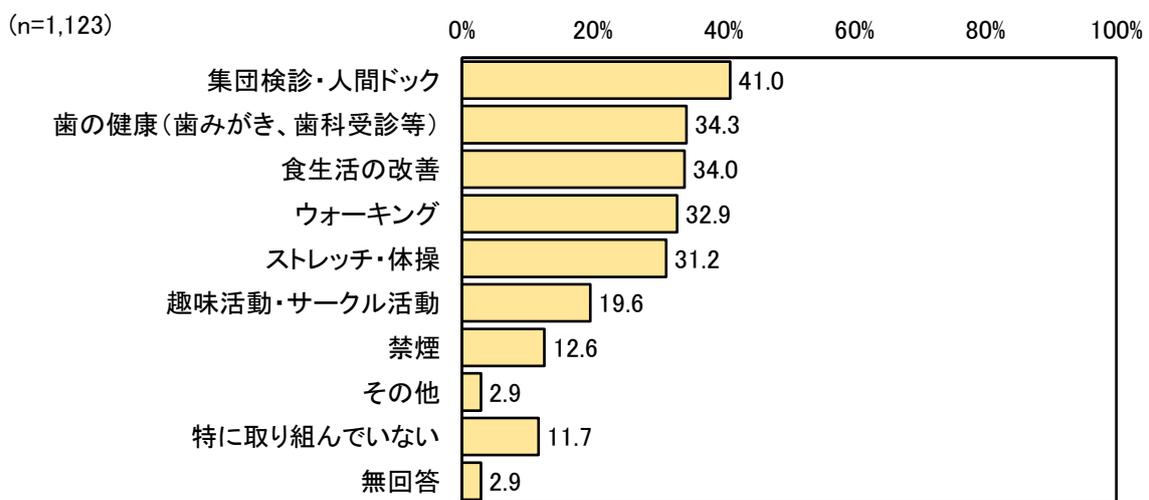
## (2) 健康づくりの取組

問 46 あなたが健康づくりに取り組んでいることはなんですか。(〇はいくつでも)

健康づくりに取り組んでいることについては、「集団検診・人間ドック」と回答した方の割合が41.0%で最も多く、次いで「歯の健康（歯みがき、歯科受診等）」が34.3%、「食生活の改善」が34.0%、「ウォーキング」が32.9%、「ストレッチ・体操」が31.2%となっています。

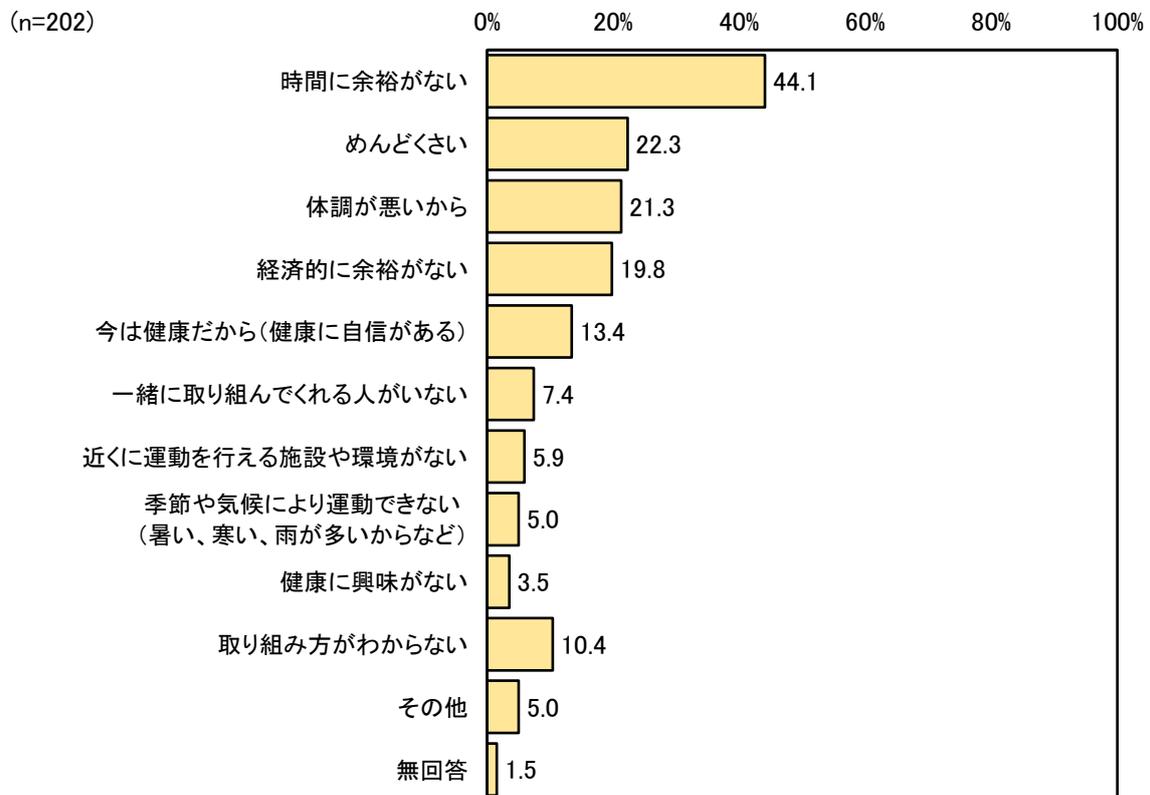
男女別にみると、「集団検診・人間ドック」について、女性の方が男性よりも回答割合が高くなっています（男子絵：37.5%、女性：43.9%）。

年齢別にみると、「集団検診・人間ドック」と回答した方の割合が最も高い年齢層（65～74歳）と最も低い年齢層（20代）で、大きな差があります（20代：12.1%、30代：34.6%、40代：45.3%、50～64歳：44.6%、65～74歳：47.1%、75歳以上：42.6%）。



問 46-1 問 46 で「9. 特に取り組んでいない」に○をつけた方におたずねします。健康づくりに取り組んでいない理由は何ですか。(○はいくつでも)

健康づくりの取組について、「時間に余裕がない」と回答した方の割合が 44.1%で最も多く、次いで「めんどくさい」が 22.3%、「体調が悪いから」が 21.3%、「経済的に余裕がない」が 19.8%、「今は健康だから(健康に自信がある)」が 13.4%となっています。



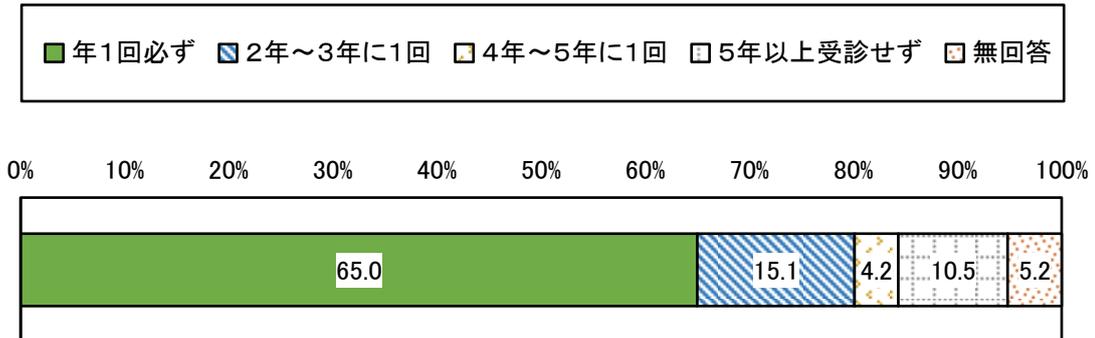
### (3) 健診の受診状況

問 47 あなたは、健診(健康診断や人間ドッグ)をどの程度の頻度で受診していますか。(〇は1つ)

健診の受診状況について、「年1回必ず」と回答した方の割合が 65.0%で最も多く、次いで「2年～3年に1回」が 15.1%、「4年～5年に1回」が 4.2%となっています。また、「5年以上受診せず」は 10.5%となっています。

年齢別にみると、「年1回必ず」と「2年～3年に1回」を合わせた“3年以内に1回”と回答した方の割合が最も高い年齢層が 30代、最も低い年齢層は 75歳以上でした(20代:79.6%、30代:84.8%、40代:82.3%、50～64歳:81.2%、65～74歳:78.8%、75歳以上:74.0%)。

(n=1,727)



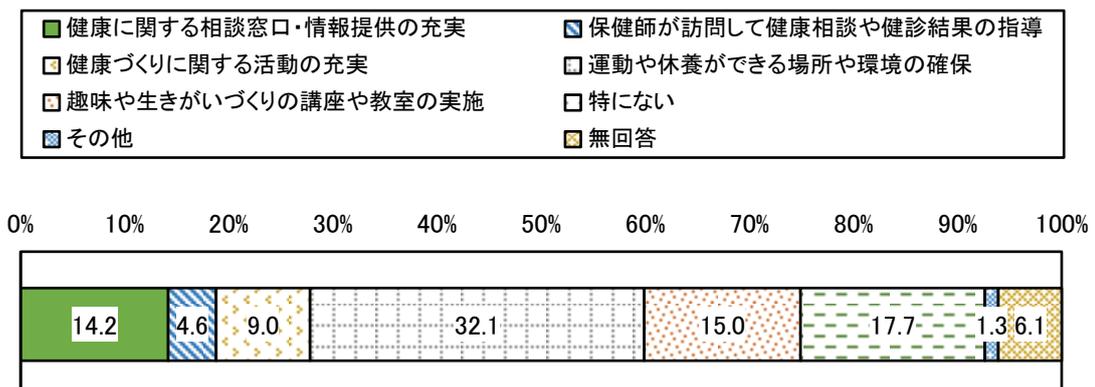
### (4) 健康づくりのために実施してほしいこと

問 48 健康づくりのために、身近で実施してほしいことはなんですか。優先して取り組んでほしいことを選んでください。(〇は1つ)

健康づくりのために実施してほしいことについて、「運動や休養ができる場所や環境の確保」と回答した方の割合が 32.1%で最も多く、次いで「趣味や生きがいづくりの講座や教室の実施」が 15.0%、「健康に関する相談窓口・情報提供の充実」が 14.2%、「健康づくりに関する活動の充実」が 9.0%、「保健師が訪問して健康相談や健診結果の指導」が 4.6%などとなっています。また、「特にない」は 17.7%となっています。

年齢別にみると、「運動や休養ができる場所や環境の確保」と回答した方の割合は 40代で最も高く、高齢になるほど減少する傾向があります(20代:34.8%、30代:34.1%、40代:40.0%、50～64歳:36.0%、65～74歳:27.2%、75歳以上:18.7%)。

(n=1,727)

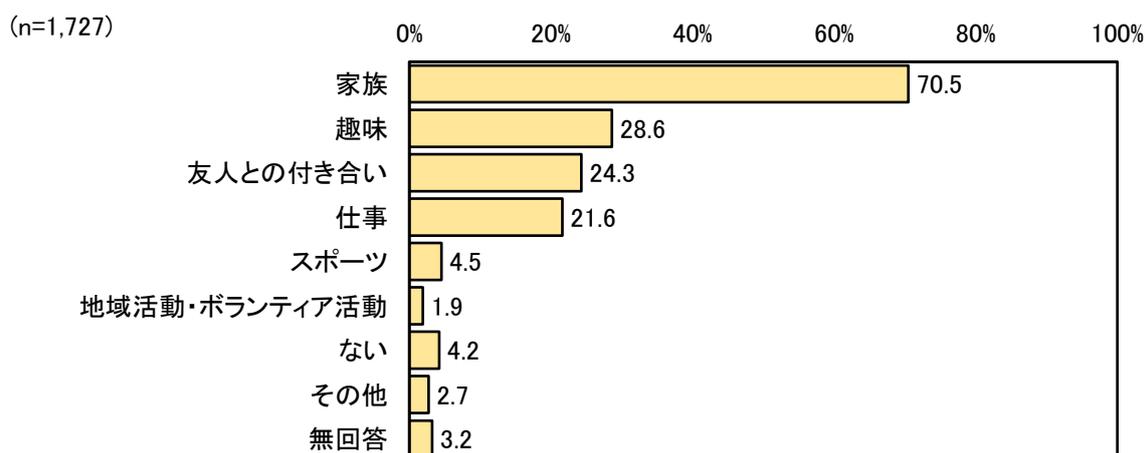


## (5) 生きがい

問 49 あなたの生きがいはなんですか。(〇は2つまで)

生きがいについて、「家族」と回答した方の割合が70.5%で最も多く、次いで「趣味」が28.6%、「友人との付き合い」が24.3%、「仕事」が21.6%、「スポーツ」が4.5%などとなっています。

年齢別にみると、「家族」と回答した方の割合はすべての年代において最も多くなっていますが、20代では「家族」のほか、「友人との付き合い」や「趣味」と回答した方の割合がそれぞれ4割程度あり、家族以外とのつながりも重視している様子がうかがえます。



# 11 沖縄市の地域福祉について

## (1) 沖縄市の保健福祉施策の評価

問 50 本市の保健福祉施策(サービス)について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

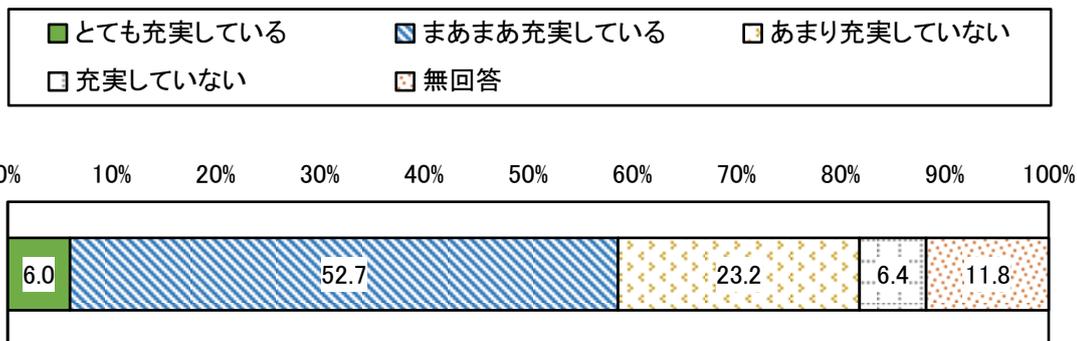
健康状態について、「まあまあ充実している」が 52.7%で最も多く、次いで「あまり充実していない」が 23.2%、「充実していない」が 6.4%、「とても充実している」が 6.0%となっています。

男女別にみると、「とても充実している」と「まあまあ充実している」を合わせた“充実している”の回答割合について、男性では 55.5%、女性では 61.5%となっています。

年齢別にみると、“充実している”の回答割合が最も高い年齢層は 30 代となっています。(20代：60.6%、30代：64.5%、40代：59.7%、50～64歳：56.3%、65～74歳：59.9%、75歳以上：56.6%)

地区別にみると、“充実している”の回答割合が最も高い地区は中部南地区となっています。(北部：63.0%、中部北：61.0%、中部南：63.2%、東部北：57.8%、東部南：60.1%、西部北：54.4%、西部南：54.4%)

(n=1,727)



## 自由回答



## 自由記述内容

生活保護受給が必要な人は受給しておらず、疑問を感じる人が受給しているように思う。他市町村と比べても、沖縄市は多いと感じる。

ア、素晴らしい福祉サービスやその他の施設がいっぱいありながら、知らないが故に利用しないで損している人、施設が活かされていない沖縄市、それではあまりにももったいない事である。もっと福祉施設やその他の施設等について、市民に知らせる努力をお願いします。

イ、小・中学校の代表者が市議員になった模擬議会を、毎年、市の定例行事として実施したらどうでしょうか。大人が気付かない事を提案してくれると思いますよ。更に沖縄市の街づくりに関心を持つようになると思いますよ。ここが大事な事であると考えます。沖縄市の街路樹の下の雑草が、他の市町村と比較して生い茂っている。この事は市民の意識の問題だと思いますが、農村地帯の町や村では、自分の屋敷の前の道の掃除は自分達がすべきと掃除して当然の気持ちでやっていますが、都会の市民等は行政側がやるべきものと思い込んでいる。そこを改める必要がある。気付く子どもの教育から始めるべきと考えます。学校前の街路樹の下も生い茂ったままで、学校長の中にも関心を示していない方がいるのでは。今の学校管理者達も、小・中学校時代に草刈り等の経験なしで大人になった方々で、学校前の雑草に気付いていないのではと思う。その意味からも、小・中学校時代に経験させて、自分達の周囲は自分達できれいにする習慣を身に付けてあげるべき事は大事だと私は思う。教育委員会が主催になって（テーマ例 沖縄市をきれいな街にするにはどうしたらいいか）。

ウ、沖縄市内の名所旧跡の資料を作ってほしい。読谷村の資料を参考に。社会教育に大きく役立つと思いますよ。自分の住んでいる地域を知る事から教育すべきだと思います。ことわざに「慶良間や見えるけど、自分の眉は見えない」という方言のことわざがあるように、沖縄県を愛する市民になると思いますけどどうでしょうか。まずは身近な事を知る教育を、社会教育課と学校教育課が中心になって。

エ、市議員と市民のつながりが大変薄いと私は思う。議員は積極的に地域を回って見たり、市民の声を直接聞く行動こそが議員の仕事だと思うからである。課題等を見出して、市の発展の為に頑張してほしい。

アンケート調査お疲れ様です。沖縄市は他市に比べ、支援体制が少し甘いように思います。インフルエンザの予防接種に関し、全市民とは言わず、高齢者含め子ども達の無償化はお願い申し上げます。子ども助成に関しては、助けられている場面も多く、ありがたく思います。今後の高齢者社会、予防事業もある中、独居老人、軽介助者が増えています。介護保険に適応しない（要支援者）に対しての対策もご検討いただければと思います。

問 44 について、生活保護を受けている方が、受給日にパチンコへという話をよく聞きます。当然全ての人がではありませんが、例えば翌月分を支給し、領収書にて返金するとか、又は、指定のクレジットカードを渡して限度額を設定し、行う等してほしいです。

## 自由記述内容

福祉については当事者にならないとわからない部分があるので、病気になった人ならその人の実体験を、高齢者なら皆、必ず歳はとるので何歳でこうなってとか、聞ける場があればいいなと思います。

市役所の福祉課は、必要に応じて利用し、助かっていますが、自ら出向けない人にもスーパー等にパンフレットを置く等、手の届きやすい場所で情報を得られると良いですね。

名前が長くて覚えられないサービスが多い。サービスを受けたくても、そもそもどんなサービスがあるのかをほとんどの人は知らないと思うので、よりわかりやすく、簡単に説明されたパンフレットやTV、ラジオがあればいいなと思う。あと、条件が厳しいイメージがある。手続きが複雑そうで、平日にしか受付していないとが多いイメージなので、仕事をしているほとんどの人が利用しづらそう（必要書類があつたりすると尚面倒）。

これまで福祉について考えた事がなかったようです。いろんな問にどう答えたらいいかよくわかりませんでした。難しいです。皆さん、お疲れ様でした。

持ち家に住んでいるが、近所は集合住宅で移り変わりが多く、ほとんど付き合いができない。福祉というと、なぜか市に支援を求める事ばかりが目立つ。後期高齢の市民より。

- ・「福祉まつり」は以前のように「コザ運動公園」の体育館やその周辺で行ったらどうでしょうか。以前の方が舞台発表も見やすかった気がします。
- ・中央公民館で色々なサークルがあるようですが、もっと身近な所で参加したい人もたくさんいると思います。月1回でもいいので、近くの公民館や児童館等で受講してみたいです（会費が出てもいいので）。
- ・数年前から住んでいる近所に、市循環バスのバス停ができ、とてもうれしかったです。もっと利用したいので、逆回りもあるといいなと切に願います。車からバスにするとCO<sub>2</sub>も減ると思っています。

お疲れ様です。市民の為にありがとうございます。

不安な事があればすぐに相談できる窓口や、情報が身近にあるような地域になればと思います。

各家庭の生活ができていないかを見回りしてほしい。税金が高いので安くしてほしい。

国民健康保険が高すぎる。

自分は生活保護受給者で、障害も統合失調病という病気も持っています。ギャンブル依存症で施設に入所しています。借金もしており、いずれ返さないといけないし、年金をもらえる年齢になった人で、障害者特例の年金がもらえればいいなと思います。今まで障害年金はもらってなくて、2年半前までは仕事をしていました。ギャンブル依存症と知り、今は施設にいます。

## 自由記述内容

ボランティア活動等は、外国のように、できる事を幼いうちからやっていると自然にできる気がします。身近にやっている人がいたり、地域で活発な所は子どもも当たり前とその気持ちを持つのかな。私自身、積極的に参加していないのでこれを機に何かできる事がないか考えたいです。どう動いたらいいのか、どこに参加すればいいのか、仕事をするとなかなか考える事をせず流れてしまいます。気軽に参加できる所から広げられたらいいなと思うのですが、情報は探せばあると思うのですが、なかなか聞けないので、定期的に今月のボランティアの一覧とかが送られるアプリとかあると、選んで参加できるのかなと思います。本当は自分でいろいろ情報を集めるべきですが。

相談してみても、結局は解決につながらなかったの、どうせ意味がないだろうと相談しなくなりました。その時対応してくれた人は親切だったが、解決できなかった。

高原は地域が広く、自治会も遠い。身近に感じられないし、実際に近所の人はいきつもしないし、路上駐車もひどく、アパート等も多い事から知らない人ばかり。通り抜けやスピードの出し過ぎ等、マナーもない。

私を含め、まず「福祉」と聞いても、言葉はわかっている、その内容を知らない人がたくさんいると思います。わからないからといっても、調べる程の興味もないのでわからないまま。ただ、ポストにチラシ等の目を引く何かがあれば、サッと目を通す事はするので、まず大きく「福祉とは」から細かくカテゴリー別でイラスト等合わせて説明があれば、「こんな事しているのか」とか「これならできるかも」とか、少しずつ興味が出てくると思います。

人は考え方も違う、価値観も違う、生活環境も違う。相談事をする場合、相手がどういう人かを知ったうえで相談し、共感が持てればいいけど、必ずしも共感が持てず、心を許してまで相談できない事もある。

動物に関して、市は協力的でないといっているの、相談できずにいる。

保育園や公園が増え、子育て世代が暮らしやすくなっていると思います。しかしその場所（公園等）で非行少年達をよく見かけます。子どもの居場所、特に中・高生が集まりやすい環境ができたらいいのではと考えます。又、各自治会で子ども食堂、子どもだけでなく高齢者、障害者、外国人といった誰でも集まれる空間があったら、地域のつながりができるのではと思いました。もっと沖縄市が暮らしやすくなりますように。よろしくお願ひします。

学校給食の無料化、学校授業に必要な物を全般的に無料化、18歳未満の子どもの医療費の無料化、保育士や介護士への支援金支給、等を行えば、子育て世帯への福祉になると思います。

福祉の中でも、介護と子育てにはもっと情報や支援を充実してほしい。介護では、申請からサービス利用までが難しく、理解するのに時間がかかってしまう。子育てには、時間に余裕がなく、情報が入ってこない事が多い。どうしても必要になった時に調べるが、大変な事が多いので、支援を充実してくれるとうれしい。

健康福祉部ちゅいしいじい課という課を初めて聞くし、どういう意味かわからない。方言ですか？知的障害の子どもがいて、障害福祉課には足を運ぶことがあります、健康福祉部ちゅいしいじい課はその課の一部ですか？別ですか？

## 自由記述内容

困っている方は、本人が困ってますとは言わないと思うので、地域や学校等、話しやすい、立ち上がりやすい場所が大切だと思います。一部の人しかわからない情報は意味がなく、小学生でもわかる位くだいて、小学生等でも相談できる位広くないと、本当に困っている人には届かないと思います。

福祉について考える事が大切だと思った。もっと周り、地域との関係を深めたいと思いました。

国の指針に沿って市の福祉活動もあると思いますが、市民の福祉利用者内容はそれぞれだと考えられますので、そのように十分な活動を行っていただきたいだけです。このような専門的で細かくてわかりにくいアンケートに答えられる市民は何割になるか。又、意味があるのか疑問です。

市民本位で頑張ってください。

本市の福祉サービスについて、恥ずかしながら私は仕事中心、生活中心にやってきて、何がどのように充実しているのかわからずにいます。日頃からボランティア、研修等、受講する気はあるものの、時間が合わずに今までズルズル来ています。今後、自分に合う研修等があれば受講したいです。

介護保険を利用していない高齢者でも、要支援状態の人はかなりいると考えられます。自治会を通して調査をした方が、介護保険を利用しない前の段階で支援できて安心につながると思います。特に1人暮らしの方や老夫婦2人暮らしの方。

沖縄市は、生活困窮者や未就業者も多いと聞いた事がある。自立支援、就業支援をしっかり行って、納税者を育成してほしい（働ける人に対して）。沖縄市は企業や就業先も少ない為、企業誘致に力を入れ、就業先を確保する事も力を入れてほしい。近隣の市町村に比べ、税金が高い、住みにくい。住民税が高い割に、福祉等で恩恵を受けた実感はあまりない（子どもの保育園、学童もなかなか入れなかったり、学費が高い）。市道等も雑草が生え放題で、景観上あまり良くない。子どもが小学生の頃、通学路の整備（草刈り）について市へ連絡するが、改善するまでかなりの時間が経過していた。介護等の福祉は利用した事がないのですが、イメージ的に期待できるとは思えない感じが強い。与儀、比屋根地区は、バスの便も非常に悪く、自家用車がないと大変不便。例えばイオンライカムに行く為にも、コザ経由でわざわざ遠回りで行くしかない。

社協が様々な支援業務を行っている事を周知してほしいと思います。最近、機会があり社協の多岐にわたる業務内容を知りました。それまでは「社協＝共同募金をやっている所」というイメージしか持ち合わせておらず、私達市民が相談事を持って行ける場所だとは思っておりませんでした。現在困っている人だけにとどまらず、将来困った状況になった時に相談できる場所として、社協の存在はもっと広く知られるべきだと感じました。カラーイラストでわかりやすい広報があればもっと良いです。又、社協を知った事によって共同募金に対するイメージも変わり、募金に積極的に協力したいと思うようになりました。

わからない間に対して未記入しました。よろしくお願ひします。

市役所の各課の窓口は何回か相談した事はあるが、その場で教えてくれる紹介先に電話しても新規では受け付けてくれない（利用者が多数の為）等、その後どうすればいいか助けてもらえない事が多い。紹介した後もどうだったのかとフォローができれば素晴らしいと思う。

## 自由記述内容

### ①このアンケートについて

- ・質問が多すぎる。もっと的を絞って少なくしないと回答が嫌になる。
- ・答えられない質問が多すぎる。どれも重要で数を絞れない。
- ・なるべく答えるようにしましたが、適当に○を付けてもアンケートにならないと思うので、答えられないものはその旨書きました。
- ・知らないもの、判断できないものが多すぎて、答えに困ってしまいました。
- ・書いてある事が全て重要で、どれか選べと言われても正直無理です。
- ・送付しても参考にならないと思いますが、一つの意見としてとらえてください。

### ②市民の為に今後共よろしく願います。

「ちゅいしいじい」という言葉の意味がわかりません。もっと一般的な名称が良いと思います(アンケートと関係のない意見ですみません)。

市民にとって特別(いつも身近に感じる等)な福祉であってほしいです。

沖縄市社会福祉協議会の名称は存じてますが、事業や活動等一切知らない事に勉強不足というか驚いております。もっと市民が周知できるよう、何らかの形を考えられた方が良いのではと思います。せっかくたくさん事業、活動を行っているのに、市民が無関心なのはあまりにも残念です。

コロナ禍の中でも、家族も健康で仕事できているので幸せを実感しています。福祉や貧困、引きこもり等、私にできる事があればお手伝いし、地域に恩を返していきたいと考えておりますが、どうアクションをおこせばいいかわからないでいます。気軽にチャレンジできるものがあれば実践していきたいと思えます。

「こどものまち」をうたっている割に、子育て世代に優しくない。待機児童も変わらず多い。保育園に入れない。働けない。インフルエンザの予防接種も他の市町村は助成がタダだったりするのに沖縄市はない。

問 50 に関して、私個人が情報不足、又、積極的に知る努力がなく、誠実に答えるのが難しかったです。申し訳ありません。

初めてアンケートを回答して、名前すら知らない活動がある事を知りました。もっと多くの人々に福祉の活動やサービス、システムについて知ってもらう必要があると思います。

当事者が望む内容にしたい。

- ・子育て支援が必要だと思う。金銭的な補助が他の市町村に比べて低いと感じるという意見をよく聞く。
- ・新型コロナの影響で、子ども達の居場所がなくなり、暗い公園等に夜遅くまで集まっている。学童施設は小学生までは見てくれるが、中・高生になると行き場がないので、公園をもっと明るくして、スポーツ遊具やグラウンドの開放等してはどうか。

今、コロナの影響で仕事をしておらず、社会福祉協議会と就職、生活支援、サポートセンターの支援を受けて本当に助かっています。命が繋がっています。

## 自由記述内容

妻が車いす生活の障害者で、現在2人で借家住まいです。築45年程の古い一軒家で、庭も狭く高額です。2年程前に市営住宅に当選しましたが、入居者が退室せず、当選したにもかかわらず入居できず、他に行く(住む)所もないので高額のまま住んでいます(¥80,000)。年金生活なので、毎月の支払いに不安を抱え苦慮生活しています。受診時も車いすの妻を車まで乗せるにも高齢の私には限度があり、大変不安で疲労を感じながら行っています。バリアフリーの住宅に住めれば、今よりトイレも安全に行けると思います。日中は一人ですので、話し相手がいれば、又、料理や掃除もしていただければ生活が充実したものになると思います。ペットも同居できる住居を是非提供ください。

ウォーキングの時、道路の段差が多く、歩きにくい(特に泡瀬85号通り)。

- ・「こどものまち宣言」を掲げていながら、待機児童は一向に改善されていない。
- ・他市は医療費だけでなく幼・小・中の給食費も無料化していた。
- ・認可外保育園の数も少ない上に空きがない。
- ・こども園も市なのに極端に少ない。
- ・産前、産後の一時預かり事業についても、市の保健所でさえ「やっていません」「保育士が足りなくて」との返答だった。どうやって子どもを産めというのか。安心して産める市ではありません。「こどものまち宣言」を撤回すべきとも思う。市役所に相談に行くと「近くに親族は～、頼れる人は～」と促すばかり。何も解決になりませんので、気力や体力がそがれるだけ。
- ・生活保護等ばかりに市税が使われている気がしてならない。

日頃、福祉について考えた事がないので、特別意見を考えた事がない。しかし、今後は自分事として1人で生活ができるように意識を強く持ち、生活していきたいと思います。子ども達に言わせれば「母さんは言う事がいちいち細かすぎる」と言いますので、多分集団生活は難しいタイプなのかなと思ったりします。そうならない前に人生を終えれば幸いだと思います。

福祉サービスがたくさんあるようで、実際利用したい方はあまり知らないと思う。もっとわかりやすい名前で、内容等もアピールしてほしい。障害児を在宅でみている親も利用したいけどできない方も多く、ひきこもりがちであるので、役所の手続きに来た時にはついでにではないですが、是非職員からも「こんなサービスがありますよ」と促してほしいです。紙なんて持たせても、忙しくて読みません。美東公園というきれいで大きな公園ができてとてもうれしいですが、駐車場が少なく、路上駐車がとても多く(特に土日祝)、車の間からの飛び出しが多く、本当に怖いです。沖縄市以外の方もたくさん来るので、駐車場の確保と安全面を考えてほしいです。大きな事故、絶対起きます(もう起きてるかも)。

旧美里村に比べ、旧コザ市との格差が激しい(貧困、就学支援、地域愛等)。

実際、福祉サービスを受けている人を知らないなので内容がよくわからない。

道路整備等、障害者の為に歩きやすいとは思えないので改善してほしい。

県のコロナ対策は、日々テレビやLINE等で発信されていますが、沖縄市としてのコロナ対策の発信はどのようなものがあるのでしょうか。具体的には見えないので、市民としては不安でしょうがありません。

## 自由記述内容

ちゅいしいじい課の意味がわからない。

介助、介護は必要だが、歩き回る方を受け入れる入所先がなかなか無い事が残念に思います。デイサービス等、一週間利用できるようにしてほしい。義母を預かって約1年。現在利用しているデイサービスの方々にはすごく良くしていただいています。妻が仕事を辞めざるを得ない状況は防ぐ事ができませんでした。

- ・子どもが安全に遊べる公園や児童館を沖縄市北部地域にも整備してほしい。現在ある公園は、人目につきにくい所も多く、小学生だけで遊ばせるのは不安。
- ・乳幼児同伴でも参加できる講座をもっと増やしてほしい。子育てサークルの情報をもっと簡単に入手できるようにしてほしい。

相談者が行った場合に、わかりやすくかみ砕いた言葉で相談者の気持ちになってやってほしいです。私は民児協ですが、1人でも安心して話ができるようにしてほしいです。今の所相談者1人で話す事ができず、民児協の方へ相談に行っています。それと一緒に、それでは安心とは言えないと思います。市役所に行ったら「丁寧に教えてくれました」との声が聞きたいです。今の所それがありません。よろしく願いいたします。

必ず1回1回家庭を訪問してくれたらいいなと思います。

「福祉向上の為、美原地域に明道公民館の移設」のお願い。

私の番地は字松本ですが、明道自治会のようです。私はやがて70代の1人暮らしです。今後、体力の衰えやボケ等不安があり、美原地域に公民館があれば心強いです。美原地域は、明道の方々にとっても美里公園や美原小学校等、子どもから高齢者までなじみの地域です。公民館ができれば、地域の方々の福祉や支え合いの向上に貢献できるでしょう。用地としては、美原地域にはまだ広い駐車場がいくつか残っていますので、明道公民館の移設は可能だと思います。コロナ禍で、国からの支援や玉城知事の地元である事等から協力いただけると思っています。市長や市議会のスピード感ある行動を期待いたします。

仕事上、生活保護を受けている方と関わる事もあるが、ほとんどの方が役所の対応が悪いと感じている。実際、私自身も悪いと感じる。サービス云々の前に、人材育成が大事だととても思う。一般企業でこんな対応をしていたらつぶれるレベルと感じる。本当にお客様（市民）の事を考えて行動できる人材がいれば、福祉のサービス内容や周知等、自然と充実すると考えます。申し訳ないが、役所のサービスにはあまり期待していない。福祉に関わる人の対応も、一般企業の福祉関係の方の方が信頼できる（人として）。

60代まで、持病がありながらも元気に暮らしていました。70代で肺炎で入院し、自分が厳しい立場になった時、健康のありがたさや社会のありがたさを痛感して命を救われたと思う。今、自分のできるボランティアを社会福祉協議会を通して、小さな事ですがさせてもらっています。健康の時には感じきれなかった健康のありがたさを是非、普及活動を通して皆様に知ってほしいと思います。

## 自由記述内容

本当に生活に困っている人が生活保護を受けられるようにしてほしい。生活保護受給者に対する自立支援、援助を徹底してほしい。

高齢者福祉の充実はもちろん大切であるが、将来を担う子ども達の生活環境を整え、平等な教育の保障、提供をしてほしい。親の収入による教育格差の是正。

これからの日本を支えていくのは若い世代です。高齢者を優先する日本の制度に疑問を持っています。若い人達が結婚をし、子どもをもち、税金を支払いながら子どもを育てている事をもっと考えてほしい。安心して子育てができる日本社会にしてほしい。子育て中の世代をもっと応援する制度を優先してほしい。これからの日本を支える若い世代こそ、手厚い福祉が必要だと思います。どの世代もこうしてほしいとかああしてほしいと思う所はあると思いますが、日本を支えているのは税金を支払っている人達です。弱者ばかりを見ないで、若い世代をしっかりと支えてほしいです。これからの日本の為に、若い世代に明るい未来がある事を実感させてほしいです。私を含め、私達の世代以上の福祉よりも、若い世代、税金を支払い頑張って暮らしている世代を応援してください。

ペットがいる方向けの災害時の情報はもっと多く欲しいですし、小さい子どもやお年寄りの福祉と同じように野良猫達の事をもっと考えていただけたらなと思います。増え続け、交通事故に遭ってしまったり、ごはんも十分に食べられず死んでしまう子もいます。さくら猫達を地域で見守り、これ以上増やさない、そして大切なペット達を一度飼うと決めたら、捨てずに最後まで育てられるような見守り等、難しい事が多いのも承知しておりますが、人と同じ命であるという事を地域の方々にはもっと理解して知識を広げていただきたいです。沖縄市では、野良猫達に対する残虐な虐待や遺棄の話をよく耳にします。少しでも多くの人に温かく見守ってもらい、人間も動物もより良く過ごせる沖縄市になってくれたらと思います。この度はコロナ禍で混乱もある中、地域の意見を聞く機会を設けてくださりありがとうございます。もう少しコロナ禍の混乱は続きそうですが、私の生まれ育ったこの町をみんなで一緒により良くしていきたいと思っております。ご検討よろしく申し上げます。

地域福祉はまず、隣近所との深いつながりが一番良いと思います。そして自治会のいろいろな活動に区民が参加し、自分の班を知り、つながりを深める事で、今後の老人ばかりの地域になった時に隣近所で一緒に行動できると、楽しく安全な生活ができると思います。そこに社協の自治会のお助けが生きるのではと思います。今からコツコツ隣近所とのお付き合いができるような活動があればいいですね。個人情報なんかというのは、隣近所には関係ない事なので。井戸端会議最高。

これからも困っている人の助けになるよう頑張ってください。まだ子育てが終わっていないのでお手伝いできませんが、皆様の活動には頭が下がります。

沖縄市の保健福祉サービスにどのようなサービスがあるかよくわからない。現在、福祉サービス利用の予定がないので興味はありませんが、今後利用する場合は、公民館等気軽に利用（相談）できるようにすると思います。

今回のアンケートをしている中で、福祉についての認識不足だと強く感じました。今後お世話になるかもしれない福祉への関心を持つようにします。

## 自由記述内容

私は生活保護を受けています。そして難聴の1種3級の障害者です。障害手当と扶助手当が同時支給されている為、扶助手当がいくら、障害手当がいくらという明細の記入がないので、その辺をはっきり記載してほしい。これは保護課に申し送りしてください。

地域の活動を把握したい為、自治会に加入したいが、日中は仕事で自治会に行けない。アパートでも加入の声かけをしてほしい。

差別がある。考え方を変えた方がいい。外人は外人だと思う。日本人だから未来がある。

在宅高齢者の通院等の手助けがあれば助かると思います。

子どもを預ける環境がもっと整ってほしい。日本全体、世界全体の経済が滞っている今、働けない理由というもののできる限りなくすべき。これまで大体は男性が働いてきた。これからの経済を動かす事ができるのは母。経済は今、母にかかっていると思う。專業なんてやっている場合じゃない。経済を動かそう。だから「子どもは社会で育てる」がもっとやりやすくなってほしい。私立幼稚園の子の放課後学童ができてほしい。

サービスや組織は充実していると思います（内容や実績はともかく）。それぞれのミッションや役割を確認し、忠実に行なう事でかなり良くなると思います。誰の為？何の為？を常に意識しましょう（自分自身もです）。

母の代わりに回答しましたが、体調も悪い中、考えるような事ではありませんでした。母には言っていないが、余命も近づいている中頑張っで生活しています。途中から回答をやめた理由になると思います（母は余命は知りませんが）。送付する前に、体調や病気等がない人に送った方が良いと思います。福祉団体へ寄付があるとの事なので、回答し送ります（娘）。

まずはこのアンケート、役所の立場からのアンケート。自分的には、今回出てきた各機関の名称すら知らない。全然情報が各家庭に行き渡らない。一部の役所とつながりのある人達が得をする制度を正当化する為のアンケート。〇は3つまでとか、自分達の都合のいいアンケートを取る意味はあるのか。家庭にパソコン、スマホのない家庭はどのようにして情報を得るの？フェイスブック？インスタ？ホームページ？広報おきなわは印刷にお金を使っているのに内容は？児童問題、老人問題の相談窓口の情報少なすぎ。自治会が不当に予算使っている地域も自治会に任せるの？沖縄市が発展しないのは市役所の責任重大。一部の人達だけ保護するのはやめてください。

一番感じるのは、相談等をした場合の担当者が替わり、引継ぎがされていない為にまた同じ事を1から話し、時間がかかる。障害のある子がいる場合、とにかく時間をつくるのが難しく、スムーズに進めたいのに同じ事を何回も聞かれ、終わると疲れしかない。

急用ができた時に障害者を預ける場所がない。障害者の差別をなくそうという割には、どこへ行っても差別だらけ。本人以外に親も孤立している。

2月に次男を出産し、コロナの中風邪をひかせてしまった時、病院に電話しても全くつながらず、受診した方がよいかの相談もできずにいましたが、役所の赤ちゃん訪問の方がちょうど電話を下さり、症状を聞いて、鼻水を吸い取る、重ね着する等の対処法を教えて下さいました。本当にあの時は不安でどうしようとオロオロしていましたが、電話1本で助けていただきました。役所の保健福祉部門の皆様にとっても感謝しています。ありがとうございます。

### 自由記述内容

普段、近所付き合いについて何も感じてなく、アクションをとらなかったが（週に1回の掃除とか）、このアンケートを書いていくと、やはり近所付き合いは大切だったと気付かされました。災害の時等、頼れる人は身近な人だと思うから。10年前に同じ市内に引っ越しした後、全く近所との接点なし（その方が楽だったから）。しかしここ半年の間に一緒に住んでいた祖母が亡くなり、その後母も亡くなり、自治会に入っているのに自治会長すらわからなかったので、近所の人に家族が亡くなった事を伝えきれなかった。それが残念でならなかった。普段から声をかけたりしておけばよかったと思う（唯一声をかけてくれていた向かいの方も昨年亡くなった）。近々引っ越し予定。次の場所では近所付き合いをよくしていきたいと思います。地域のつながりを持とうと思います。

1. 福祉以外での相談場所がわからない。
2. サービス等の事を聞かないと教えてくれない。
3. 役所の窓口で各部署での相談をしても、方法等聞かないと教えてくれない。

市役所の方々、地域の方々が沖縄市や地域を良くする為に動いてくださっているにもかかわらず、もっと活動内容を知らない自分自身の為にもならないと感じました。近所付き合い等を大切にしていきたいです。

とてもサービスが良い。

- ・ 保育所の入所に関する不安がなくなると良い（入所できるかどうか）。
- ・ 入所決定のタイミングがもっと早いと良い。復職の調整、職場での受入が難しいので。

現在、施設に入居している為、職員代筆にて記入しています。地域についてはよくわからず、関わりもあまりないです（ボランティアもなし）。現在の生活については満足している。特に問題はないそうです。

いつもありがとうございます。

祖父、祖母が高齢になり、車いすとか、お風呂に入れる時のいすとか、足腰を支えるカートみたいな介護用品等を扱っているお店等わかりやすくあったらいいなと思う。

沖縄市に住んで5年になりますが、1度も地区の民生委員に会った事はありません。訪問を受けるには手続きとか必要なのか？アパート住まいの為、福祉の対象にならないのか？市民税、介護保険料等、かなり高額な税金を払っているのに不公平すぎないか？

街中にある拡声器の音が反響しすぎて全く聞き取れない為、緊急時や災害時には役に立たない。

あまりよくわかりませんでした。福祉に関わる事がなく、あまり考えた事のない事ばかりだったので考え直してみます。

## 自由記述内容

今は子育て中で、それ以外の福祉サービスについての知識はほとんどないが、沖縄市は充実した公園の遊び場、子育て支援センター、児童館、子どもの国等、子育てする上でありがたいと思う事が多くあります。それには感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございます。これからも子育てする親、子ども両方にとってより良い環境を整えて行ってほしいです。時々、沖縄市役所の窓口の対応が上から目線で話しにくさを感じる事があるので、正社員、臨時、パート関係なく、対応の仕方や心構えの研修等の教育をしていただけると、もっと相談しやすく頼りやすい地域になると思います（初回だけでなく定期的に）。市民への対応でストレスがたまるのであれば、福祉に携わる人々自身の心身のケア等をしてほしいのかなと思う。みんなが頑張りすぎずに支援が循環するように。

- ・保健福祉施策がどのようなサービスをしているのかがわからない。
- ・福祉に関する講座を受講したくても、仕事との関係で講座時間が合わない。時間帯を工夫していただければいいと思います。

- ・高齢者の家の草刈り。
- ・物探し。
- ・携帯電話の使い方。
- ・車の運転を止めたいが、病院やお店等への足がなくなると嫌がる。バスの無料化やタクシーの無料化を検討してほしい。
- ・大きな老人ホームで、75歳からは希望すれば入れる感じで、プールやバーや図書館等、年寄りが楽しめて、友達作りもできるシェアハウスのような所を作ってほしい（国が保障、無料です）。

活動内容があまりわかっていないので、現状取り組んでいる事を求めたり、充実しているのかをはっきり答えられない等が本アンケートでありました。SNS配信、メールマガジン、チラシ等、定期的に個別で具体的な情報受け取りができると良いと思います（会報等はまとめられた情報ですが、SNSやチラシは一つの活動についての情報）。個人的には「地域コミュニティの活動」「子育て支援」「学生の活動」等が興味があります。

福祉の言葉は、生活困窮者、高齢者、介護の方、身体障害者等の方にしか適用しないのではないかと感じており、一般市民には関係ないように思います。私達が困った時にどのような福祉があるのか？どんな困り事が福祉に値するのか？わかりやすく市報等を通して簡単に紹介していただければと思います。又、個人でできる事の手助けは、方法、申し込み方、相談窓口はどこなのか？ついでに教えてください。

無料法律相談窓口があるのであれば、その広報の充実。ないのであればその設立。

消費詐欺、事業トラブル等で困った時、生活にゆとりのない世帯であるほど法律知識が薄く、相談先もないように思えるので、そのような方が気軽に相談でき、自立に向けての解決をサポートできるような窓口的存在があれば良いと思います。

### 自由記述内容

質問が多すぎる(アンケートの内容)。もっと簡潔的にしてほしい。いくらサービスが整っても、住民に対する教育や周知がないと、どんないい方法でも充実させることは困難です。困ってからではなく、困る前の対策や方法をプロトコル的な視覚で確認できる等、教育する事も必要だと考えます。核家族が多くなり、日中自宅にいない老人の孤立化等、問題は多くありますが、対策お願いします。

悩んでいても、市役所等公共機関に問い合わせる事はない。電話1本「お困りないですか？」とあるだけで、誰かを助けられるかもしれない。沖縄市の各家庭にするのは難しいですか？人を雇用するのは、人件費を払うのは無理ですか？

情報が行き届くようにしてほしいです(身近に)。

情報がわからない。

生活費の貸付をしてほしい。

困っている事(課題)が1つの時はまだいいが、課題が複数あって、いろんな分野にまたがる場合(役所での課が違う時)、なかなか思うように進まない。連携の部分なのか、他の課に任せよう(押し付けよう)としているのかと感じる所があります。そこでこそ「福祉の心」でお願いしたいです。今後もずっと住もうと思っている沖縄市なので期待したいです。

利用した事がないし、他市町村のサービスを知らないので比較できない。

現在65歳で仕事をしていますが、1人暮らしの為、仕事ができなくなって収入が入らなくなったらどうしようかと心配です。年金補助を受けていた為、少ないです。

私を含めて高齢者(1人暮らし)が多くなっていますが(まだ70代の人もあります)、仕事があれば手先は使えるので、何かお年寄りが集まって会話しながら内職できたらと毎日考えています。家でテレビだけの生活は無理。まだまだ働けるので、力仕事は無理でも書く仕事や袋詰め作業とか。足は弱くなってくるけどみんな手先は器用ですので、市でもできる仕事を与えてくれませんか？80歳以上の方達が周りにはいますが、テレビ漬けとなっている現状です。この方達は安い賃金でもいいんです。集まって手仕事をする状態を考えてみてくださいね。期待しています。自治会の集会所を使ってできます。趣味ではなく働くという事です。働くというだけでどれだけ若くなれるか。また脳も生き返れるはずですよ。デイケア通いでは若くなりません。

失礼を申し上げますが、私は他人に数度も騙されている事があるので、他人に対して淋しい思いもあります。人々が本当に信じ合える世の中であってほしいですね。そのような意味で、保健福祉士の皆様には、人々の気持ちを裏切らずに活躍なさっている事に感謝申し上げます。これからもますます人々の為に幸せをお与えくださいますように市民の1人としてお願い、お祈り申し上げます(沖縄市市民より)。

その昔、本土(日本)では、となり組というのがあって、近所同士の交流を良くしたようでした。沖縄ではイチャリバチョーデー(出会えば兄弟)と言われたような言葉がありますが、現在の沖縄市内にあっては全くそのような感じはないように思いますが。沖縄市市民は地方からの寄せ集め市民のような感じがあります。失礼申しあげました、あしからず。

### 自由記述内容

沖縄に移住して6年です。他の市に比べて沖縄市が福祉に注力されてる事は耳にもしますし、実感もしています。老人だけでなく、若者が留まるような環境を市内に作ってほしいです。子どもも多く、学校も小・中学校の数も多いですが、青年達の働き場がなく、市外に流出しているように思います。市の財政を豊かにする対策が第一、それから福祉対策ではないでしょうか。

沖縄市で、これだけ福祉の事業がある事を初めて知った。利用したくてもそもそも事業がある事を知らなかったり、知っていてもこの程度で利用して良いものかと思って控えてしまったり。最初の一步の勇気がなく、尻込みをしまっていていないかと考えてしまった。必要な人が適切な窓口へ繋がりがやすくなるにはどうしたらよいか。答えは出ないがそう考えてしまう。

本当の意味での相談窓口で解決策を下してほしい。実際困ってもどうしようもない事が多い。意味がなさすぎる。お金が解決する事はわかっているが、お金がない人はどうすればいいのか考えてもらいたい。

駐車場を増やしてほしい。道幅も送り迎えに便利。

- ・マイナンバーカードで全ての手続きができるようにしてほしい。
- ・このアンケートも書面ではなくインターネットでも回答できるようにしてほしい。

家族の貧困(親、子ども)を気にしています。特に子どもの食の貧困に対して早く改善したいです。企業からの寄付を募ってもらうとか、他にも何かあるのではないかと、自分自身もいろいろ考えています。税金を増やして改善していければうれしく思います。

今まで健康には問題はないが、今後福祉に頼らなければならない時には①相談窓口②サービスを受けられる為の手続きの人材確保をしてほしい。

市の福祉関係の仕事に関わっていらっしゃる皆様に敬意を持っています。今後も障害者、高齢者が安心して過ごせるようご活躍くださる事を期待いたしております。「沖縄市に住んで良かった」と思えるように。ご苦労様でした。

福祉サービスにいろいろ尽くされている事はわかりますが、まだまだ住民の隅々まで周知されていないのかなと思います。

自分が健康なので、どこでどんなサービスを受けられるのか情報を取ろうとしていない。

特に地域に目を向けてほしい。

もっと30~40代が楽しく参加できるような内容だったりすると、地域活動も良くなるかと思う。老人会の方達が主に参加している気がする。一緒に活動するとお互いに良いと思う。

一番街や銀天街で定期的にイベントをやって人を集めてほしい。コロナの今は難しいかもしれないが、アーケードがある所でスタンプラリーをしてウォーキングをすると面白い。今ならスマホのアプリを使ってバーコードを読み取る方法で市内の探検にもなる。地面や電柱等に貼って見つけるのも面白い。

核家族が増える中で、福祉施設と保育施設等、子ども達と高齢者がコミュニケーションをとり、生きる喜び等を分かち合えて、経済にも活かしていけたらいいと思う(コロナ禍の中、難しいと思いますが)。

お世話になります。

### 自由記述内容

毎日主人と散歩しています。川辺にある屋根付きの休憩所がずっと使えず、早く使えるようお願いしています。他の公園等も皆ダメで残念です。沖縄の人は食べたゴミを持ち帰らない人が多い。東京は皆きれいに片付けます。コロナが収束したら、皆が使用できますようにパトロールしてくれたらきれいな町になるのでは。植木や花が大変きれいな沖縄です。主人は東京で社協に10年おりました。沖縄と違う所もあるようです。私達2人共ですが、ハワイアンバンドを沖縄の人と作り、デイケア等に慰問をしたいと思っています。

不妊治療の助成金が市からもあると助かります。対象年齢も下げてもらえると早めの妊活につながると思います。

福祉制度は整っているものの、実際の環境が整っていない為、生活していて不便や不都合が生じる場合がある。道路や歩道、公園等の整備や駐車場の充実等へ積極的な取り組みをお願いしたい。

自分が生活困窮になった事がなく、周りにもいなかったのが、福祉について興味がなくて知らずともしなかったです。フードバンクがある事も、昨年に沖縄市広報だよりで知りました。赤い羽根共同募金とか歳末助け合い運動とかは何年も前からあり、福祉事業としてはとてもいい取り組みだなと前々から感じていました。もっと福祉活動に関心を持たなくてはいけないと思いました。年齢を重ねるごとに近所の人との交流も必要だと思う。

1人の生活で対人関係が少ないので、話し相手がいれば良い。

自家用車の無い高齢者にとって、近所に公共の建物が無く（市役所、郵便局、スーパー、銀行ほとんどが無い）、非常に不便を感じています。

1日も早く楽な生活を望んでいます。

社会の貧困問題は、福祉の後退とも深く関係するものではないでしょうか。弱者に目を向ける政治・行政が求められているように思います。市民の為に頑張ってください。

福祉に関する活動に対して積極的に参加している方々に敬意を表します。機を見て協力したいと思います。ご苦労さん。

沖縄市に住んで2年程ですが、他と比べて福祉サービスが充実していると感じました。とても良いと思ったので、住民の多くにその良さを知ってもらう為に若者向けにTwitterやInstagram等を使ったり、定期的にチラシ（広報誌除く）等をポスティングしたりするのもありだと思います。予算があれば、福祉施設のサービス内容についてわかりやすい説明（難しい言葉ではなく子どもでも誰でも見てわかるような内容だと理解しやすい）みたいなものがあると、施設を利用する住民も増えると思う。

返信用封筒が小さすぎる。

ワクチンや医療費等の公費負担枠等をより充実してほしい。

## 自由記述内容

介護の現場を実際に深く経験している方が認定調査員や福祉に関わってほしい。マニュアル的に意見を言う福祉関係者が多い。人間を相手にする福祉はマニュアル通りにはできない。ケアマネも同じく（特に男性ケアマネ）、介護の経験がなく、お年寄りの入浴も対応できない、オムツ交換も自らはしない、できない方がケアマネをしているのは本当に納得できない。ケアマネも、実際に受け持つ利用者の介護をして、マニュアル通りではなくちゃんとその利用者を知ってケアプランを立てるべきだと思う。話だけしてとりあえずプランを立て、サービス提供者やヘルパーに指示して良い介護はできない。ケアマネは実際に介護しない方のプランは理想で、利用者の本当の必要な支援ができていない。福祉に関わるなら現場の実践も知るべき。そういう方は本当に信頼します。

福祉等、エッセンシャルワーカーの処遇の改善。

沖縄市内を走る循環バスをよく利用しています。運賃が安く、バスの中はとてもきれいで利用しやすい。いつもありがとうございます。1つ気になるのは、バス停で長めの停車時間の際に運転手さんが喫煙する事。その時間は休憩時間だし、もちろん運転席から降りて外で一服なさっているのが構わないのですが。たまに車内までたばこの臭いがする時があり、私のような乳児連れや通院の為に乗車している高齢の方々を見ると少し気になります。

このアンケートを通して沖縄市の多様な福祉企画がある事を知りました。私個人は、できるだけ自己管理と経済的自立をする事で福祉のお世話にならないようにと考えています。なので一般の市民の日頃の生活姿勢に関する啓発、指導に力を入れられると良いのではないのでしょうか。その為には保育園児から小・中学校に至るまでの保健教育をもっと充実させ、自分の命を大切にすることが他の人の命を大切にすることの認識を育てる事ではないのでしょうか。もちろん父母の教育も含めて。これからの活動にもっと関心を持つように努めます。ありがとうございます。

いろいろな情報の入手方法、媒体がわからず大切な情報を入手できていません。市民向けに入手方法を明確に伝えていただきたい。早急によりしくお願いいたします。

問 50 については、私自身が沖縄市の保健福祉施策についてあまり知らない為、回答できませんでした。このアンケートをきっかけに興味を持つよう心掛けたいと思います。

今までは積極的にボランティアに参加してきたが、今後は自分の健康や用事で果たせない時に迷惑をかけられないし、責任もあるので、できる時にできる範囲で気軽に参加したい（ゴミや枯れ葉の片付け等の道路ボランティアの活動を単発で）。コロナが収束したら、長年できなかった旅行も自分で歩けるうちに行きたいし、高齢になったらできないので自分自身を優先する。

地域のつながりも乏しく、問 50 の保健福祉施策を「まあまあ充実している」としたが、実はよく知らない。家族の理解が得られれば自治会の催しにも参加してみたいが、今の所できていない。子どもが小さい頃に公民館でのスクーリングに助けられた事があるので、自分にもできる事があればやってみたい。知人がボランティア活動をしていて素晴らしいと思うが、一歩踏み出す勇気がない。沖縄市には、困っている人に手を差し伸べる温かさを期待しています。市民の声を聞く姿勢を大事にしてほしいです。

## 自由記述内容

福祉について、これから年齢を重ねていくと最重要事項になってくると思います。話は変わりますが、先日（11月）中央公民館でサークル活動をした際に28℃近く室温があり、私よりも高齢の方が暑いとおっしゃったので扇風機を借りようとしたら、「窓を全開して対応してください」と言われ、「さすがに冷房は稼働しませんよね」と言ったら「はい」と断られ、その高齢の方の体調が気になったのですが、しばらくして扇風機を貸してくださり、冷房も少しの間つけてくださってとてもありがたかったです。他市町村からサークル活動に参加している方もいらっしゃるのですが、私はこの公民館の職員の方の神対応に沖縄市民としてとても誇らしかったです。しかし12月にはお知らせの紙が貼られ、「クーラーの稼働はできません」（冬季）とあったので、規則を遵守する姿勢にもまた素晴らしいなと思いました。コロナ禍でいろいろ厳しい面がありますが、共に乗り切ってまいりましょう。福祉と直接関係ないかもしれませんが。

1人暮らしの人が突然病気になった時等、誰も知らない場合、大変困ると思いますよ。定期的に訪問する方がいてくれたら助かると思います。相談できる人がいたらいいと思います。

福祉についてはではないが、アンケートの返信用封筒はもう少し大きい方が良くと思う。

本当に素晴らしいと思います。

夫婦のみの家庭です。将来年老いた時に、病気、住まい、金銭管理、認知症、亡くなった後の事務手続き等、不安があります。身体が元気なうちに誰かが不安に思っている事を助けたり、自分の将来の不安の為にどのような事が今のうちからできるのか勉強したいと思っています。このアンケートを機に、市からの情報にアンテナをはっていきたいと思っておりますので、インターネットやSNS等、相互で情報交換、情報共有ができる場があると良いと思います。

これから増え続ける高齢者（自分の親も含む）に、優しい福祉が実施できる沖縄市であってほしい。未来を担うまだ生まれて数ヶ月、数年、10数年の子ども達（幼児、児童、青少年）が将来の展望を持てる夢のある社会を実現してほしい。その為に、私達大人（20代、30代、40代）ができる事はできるだけ力添えしたい。私個人の意見としては、弱い立場の人に寄り添える優しさ、思いやりのある社会であってほしいと願います。

姉が弟（特別障害者）の聞き取りで記入しました。弟は社会的知識が希薄なので、内容がよく理解不能ですのでお許しください。現在、就労支援事業所で働いていますが、公的手続きはすべて姉がやっています。将来は他市町村へのグループホームに入所する予定です。今後アンケート発送については遠慮させていただきます。乱筆をお許しください。

今後ますます高齢化が進み、老人福祉対策が重要になってきます。また、本県は子どもの貧困問題についても他府県に比較してその率が高いと言われていています。児童生徒を取り巻く環境も決して良いとは言えません。そんな中であって青少年の健全育成を図っていく為にも、子ども達の福祉面の充実は欠かせない状況にあると思います。私自身も自分にできる事で、ボランティア活動にも積極的に参画したいと考えています。本市の地域保健福祉事業への取り組みに期待しています。

### 自由記述内容

発達障害の子どもの相談や検査等、関わる事に対して拡大してもらえたら、時間もかからなくて早期に対応してもらえる等、利点が多くなるので助かるなと思います。

沖縄以前に日本という国全体が福祉に対する体制がありません。新型コロナウイルスへの対策を見ていけば他国との差は一目瞭然です。目先の利益ばかりを優先するような政治ばかりです。ですので沖縄市の地域福祉は1つ1つ丁寧に問題を解決、改善していけばいいと思います。いきなり大きく変わろうとせず、順序よく、時に応用をきかせる臨機応変な姿勢づくりを目指してほしいです。

沖縄市の福祉プランの中期計画、長期計画をもっと市民に配信してはいかがでしょうか。市民として、どんな方向性へ向かっているのか見えてきません。PDCAサイクルを使い、評価・見直しをしていただき、沖縄市に住んで老後を送れるよう安心感を市民に抱くような施策を期待したいです。以前あった「こどものまち推進プラン」のその後の発展、展開の情報を福祉に活かす事はできないのでしょうか。

本当に命に関わる、困ってる人にサービスが届きますように。

日頃から介護課の方にはお世話になってます。どの方も親切に対応してもらい助かっています。

他市町村の福祉施設に勤務していたが、他の福祉関係はとても充実していた。沖縄市は他市町村に比べると、とても情報等も含めて貧弱な印象を受けた。大きな施設への援助よりも、小規模の施設の充実に力を入れるべきであり、大規模施設は解体し、より小さく地域に根差した小さな施設を応援・支援すべきである。又、年金の少ない年寄りの方より障害者が手厚く支援を受けるのではなく、老いても安心して暮らせる沖縄市であってほしい。

沖縄市の財源を体育館建設や観光等に使用する前に、貧困世帯の子ども達への物資支援や学習支援に充ててほしいです。給食費無料化や生活保護ではない準要保護世帯への給付金や医療費助成等、難しいとは思いますが福祉面を充実させてください。又、「家族だけで介護の問題を抱えない」をテーマに大々的に情報発信して、利用できるサービスを地域放送、広報誌等で周知してほしいです。体育館や観光面の大切さもわかりますが、実際に子どもの貧困が多い中で、沖縄市民ではなく他市町村からの人の誘致を優先しているように感じられます。地域や自治体に福祉活動を丸投げするのではなく、その活動ができるように市の行政が資金面や研修、サービス体制を責任持って行ってください。福祉に力を入れている行政が市民力を向上させて、他分野の充実にもつながると思います。よろしくお願いします。

生活保護を受けている方で、親元から離れて生活したい方だっているのだから、その人達の為の自立を目的とした住居の提供及び支援の他、今はコロナ禍におけるリモートワークが主流となっているのだから、その人達でも自立後、支援できる体制を強化してほしい。又、ライター等、自営で仕事をしたい方の為にもサポートできる体制までも確立したら助かる。

すみません。沖縄市のサービスを評価できる程、把握していません。今後、子育てが落ち着いたらボランティア等参加していけたらと考える良い機会になりました。アンケート実施ありがとうございました。

児童手当を高校まで支給してほしい。

自由記述内容
<p>沖縄市はいろんな面で不足で、何もかも足りていない。</p>
<p>大変満足しています。</p>
<p>菅総理が掲げる自助・共助・公助は一律に順番よく進むものではなく、ケースバイケース、時には前後したり同時進行したりと現実はずっと複雑で、又、表面化しにくいと考える。そしてその複雑さを緩和し、潤滑油となるのが福祉の果たす役割（出番だ）。本来、福祉は助け合う心や相互扶助がベースで、自分ができる時に困っている（助けが必要な）人を助け、自分が困ったら助けてもらう。人間として当たり前の行為だ。だから自助・共助・公助と切り分けられるのはとても寂しい思いがする。沖縄市の福祉行政は幅広い領域で様々な課題がよく取り組まれていると思う。しかし実際に関わりをもたない場合、何をしているのか、何に取り組めばいいのか、全体の動きがあまり見えてこない。「できる人ができる時にできる分」楽しく気軽に取り組める（参加できる）福祉ボランティアサークルがあれば参加してみたいと考えるのは私1人ではないだろう。領域を区切らず、より幅広い情報発信を期待しています。</p>
<p>市の福祉はきっと充実しているだろうに、自分自身が知ろうとしなかった事に気付かされるきっかけになりました。ありがとうございます。</p>
<p>お年寄りやグラウンドゴルフ場の増加/改修を行う事で、憩いの場ができて健康維持につながるのではないのでしょうか。あわせて古い公園も改修されると子ども達も嬉しいと思います（改装中でグラウンドで遊べない学校も多いので）。</p>
<p>生活保護の必要性を慎重に審査してほしい。若者の就労支援を行ってほしい。</p>
<p>私と同じ知花8班に、非常に生活に、生きがいに困っている人がいます。助けてあげてください。</p>
<p>ワンストップで相談でき、そこから専門機関へスムーズにつながるようになればいいと思う。</p>
<p>1人暮らしの叔母がいます。持病があり、身体がいつもだるく、家事をするのも困難な時があるようです。障害とは認められず困っているようです。76歳で生活保護を受けています。老人ホーム入居も難しいと聞いています。叔母が安心して暮らしていける方法があればと思っています。</p>
<p>核家族の中、少子化、老人が増え、自分自身老後が心配です。安心して暮らせる充実した福祉サービスがあればいいなと思います。</p>
<p>保健福祉施策（サービス）自体、あまりよくわかりません。活動内容もどんな方が受けられるのかもわからないのは私だけでしょうか。今、このアンケートを通して考える事ができました。現在仕事をしていて、福祉事業等に関心がありませんでしたが、これを機に年齢的にも気になる歳になってきたのでしょうか。今は仕事があり、毎日が自分の事でいっぱいですが、今後、退職後は人の為に頑張ってみようかなと考えさせられるアンケートでした。ありがとうございます、感謝いたします。</p>
<p>国民健康保険課を1~2ヶ月毎に利用しています。毎回担当者が変わりますが、どの担当者も対応が丁寧で素晴らしい。</p>
<p>このアンケートについてですが、高齢者にはページ数等が多かったかもしれないと思っている。</p>

## 自由記述内容

これまで保健福祉関係でお世話になった事がない為、行政の施策がどのようなものか知らない。広報活動が少ないのではないか。

福祉に関する年間予算はいくらで、使い道はどう使われたのか気になります。

- ・福祉は「整備されたまちづくり」。
- ・道路整備された地域、区画整理で整備された地域。

誰もが住み慣れた地域。その地域で環境もずいぶん異なると思います。地域別での問題点を挙げ、個々にあった解決策を立てる。実行していただきたい。

街を見ていますと、すごく肥満な方が多いです。運動する方はストイックにしているのですが。身近に運動をする環境がないです。特に上地地区では治安が悪い為、1人でウォーキングも難しい。高齢者も通える、運動する施設があるといいかも（スポーツジムはほとんど車が必要な為）。明るい公園とか、街の中にあるといいですね。

地域の状況を知らない。個人情報の問題もあると思うが、知らないと何もできない。なのでまずは地域のつながりが必要と思う。老人会だけ頑張っている感じがする。若い人達が活動できる何かがあればいい。

かりゆし園で週1回体操があり、体操をすると体の調子がいいです。又、体操に参加している皆さんと楽しくできる事がいいです。ずっとこの体操があればいいなと思います。

パヤオの出口（泡瀬バイストリートとぶつかる信号）に右折の路線を造ってほしい。現在、暗黙のルールで2列になって信号待ちするが、直進の車が右側にいる事もあり、事故になると思う。泡瀬のまねきねこ（カラオケ）の前の直進が、どちらが優先かわかりやすい表示がほしい。事故が多発している。子どもや車いすでその道路を利用するのが怖い。

BC通り、一番街、ゲート通りの夜の若者達の生活を見ますと、深夜までアルコール、食事、飲み会をし、不健康な生活をして体を壊し、歳をとって働けなくなったら福祉金で生活をする。小学校からもっと健康についての教育をしてほしい。若い時から心と身体の健康を考えてほしいです。若い時代にやりたい放題に周囲に迷惑をかけて、歳をとってから働けず福祉を受け、楽しい老後を送っている人達を何人も見てきたので、福祉金はいくらあっても国は赤字経営だと思いません。

専門職の資格を持っていても、家庭の事情で専業主婦・主夫をしている方々もいらっしやると思います（私もその一人です）。そんな方々が自宅で少しの時間でも協力できる作業があればやってみたいです（メール相談の返信作業、電話相談、ネット相談等）。市である程度のマニュアルを作成していただければ、又、研修を受ける等したらできるのではないかと。専業主婦・主夫で、自宅で悩んだり、社会と関わりたいと思っている人の精神的負担の軽減にもつながるのではないかと。もしこのようなボランティア活動等があれば私も是非参加したいです。

町が汚い。猫や犬のフンが多くて、公園等を歩くのが嫌になる。又、猫のフンが庭に散乱する時があり、庭が臭くなっている。

治安が悪い。駐車場にU字ロック、ハンドルロックして止めていたバイクを盗まれた。又、植木のバラ、ハイビスカス等が何回も折られて防犯灯を付けました。安心安全をふまえたいい市づくりを目指してください。

## 自由記述内容

今回の市民アンケート調査は質問が多い。

- ・年に1度の健診は助かります。
- ・胃カメラ、内視鏡、エコー等も何年に1回とか無料健診してほしい。
- ・幼児を抱えての子育て支援の充実（保育園等）。働くお母さんが十分に安心して働けるように。
- ・老人1人1人が生きがいを感じてほしい。小さいサークル、カラオケ等の施設に参加してほしい。
- ・70代になると身体がうまく動かず、ボランティア等に参加するのが難しくなります。健康管理に気を付けて頑張りたい。
- ・巡回バス、路線バスがあまり運行しない通路を走ってほしい（内容がわかりづらい）。
- ・コロナはとてもストレスです（皆様そうですが）。経済面、体力面、病気といろいろな大変ですが、県民又は沖縄市の皆様、根性で頑張らしましょう。

他県からの移住なので、地域の事はよくわかりません。沖縄市が何をしているのかさえも知りません。

少子高齢化が進んできている中で、子どもが大きくなった時に生きにくくなるよりは、今である程度の資金面を考えた方がいいと思う。税金類とか。

糖尿病と寝つきをよくする薬を受け取る為に1ヶ月に1回通院していますが、コロナの感染を避ける為、通院回数を3ヶ月に1回程度にしてほしい。寝つきをよくする薬が1ヶ月分しか出せないという事なので延長できないものか。

私達の自治会でも、毎月小地域ネットという活動がありますが、どういう面で構成されているのか。又、民生児童委員誰なのか（区域）あまり知られていないように思われます。自治会の広報で活動の内容等を知らせていただければ、相談もしやすくなるのではないのでしょうか。

地域福祉と直結しているかわかりませんが、沖縄市の生活保護制度に関してもう少し奥深く調査して、本当に必要とする人々に正しく届くようにした方がいいと日々感じています。過去に医療機関での勤務経験があり、生保受給者患者がスマホやipadを持っていたり、事実上医療費のお支払いがないので、他の患者が会計が出る順番を静かに待っている中、「自分は支払いがないからさっさと薬番号をくれ」といった現状が何度かあった時に、生活保護制度をただその日が来たら振り込むのではなく、例えば受給する為にこの資金はどこからきているのかという講習を義務付けたり、動ける人であれば月に何度か清掃作業等を体験させる等あってもいいのではと感じています。もちろん中にはそれすら難しい人もいらっしゃると思いますが、医療機関は社会の裏が見える事があるので、ただ与えるだけが愛ではないのかと感じる事もあります。大半の人が本当に保護を必要とするお年寄りだったりしますが、病院の窓口に立っていてあまりにもいろいろなパターンを見たので、個人の意見としてずっと感じていました。本当に必要な人に必要な正しい制度になってほしい。それがいずれ働く喜びや社会復帰につながるのではないのでしょうか。

高齢者のみの住宅にバリアフリー改築の為に補助金等、用意していただけるとありがたい。

引きこもりの人へのカウンセリングを充実してほしい。

### 自由記述内容

ボランティア活動に興味はあるが、どうしても日々の生活が優先されるので、実際の活動までには至らない。行政等がもう少し音頭を取って積極的に治療を促した方がいいと思う。

障害児がいますが、同じような症状の子の親と関わる場所があればと思う。

地球の元は沖縄＝琉球、とても大切な場所です。琉球の民は思い出す事を急いでほしいものです。無意識ではなく意識的にする事です。琉球の民の使命であり天命です。

パークアベニュー通りの一方通行の取り消し、両面通行に早くする。

小学校の近くに児童館があるといい。現在、学校から遠い場所にある事が多い。高齢者が興味のある活動ができるサークルを作っていく。

ますます加速する高齢化社会の中、全ての高齢者や障害者、女性やセクシャルマイノリティーの方々が生きやすい取り組みに期待します。又、情報不足により、市や地域の活動、サービスに興味はあるが、参画、参加できずにいる住民（特に若者）が多くいるのだらうと思います。周知の仕方を工夫できる余地があるのではと考えます。

福祉サービスの情報が、普通に生活していても入ってくるようにしてほしい。市役所やHPへチェックを入れなくても、情報誌をフリーマガジンのようにスーパーやコンビニ等で取れるようにするとか。サービスを知らないかと相談できるのかどうかも判断できない。

以前子どもが小さい時、役所の窓口で相談に行って支援を受けた事があります。1人でとても悩んでいましたが、支援施設を紹介していただき助かりました。今は子どもが立派な1年生になって、毎日元気に健やかに過ごしています。いつか感謝の気持ちを伝えられたらいいなと思います。又、以前に元旦那の事で辛い気持ちが抑えられず、相談窓口へ電話した事があります。女性の方がとても優しく話を聞いてくださって応じてくれました。それだけでもその時は救われた気がしました。結果的に今は離婚して子どもと一緒に元気にたくましく生きています。あの時はありがとうございました。自分も子どもも行政にお世話になりました。いつか私も誰かの助けになれたらなと思います。

サービスについて良いと思う。安心してリーケーヤにも行ける事。15歳からうつになり、今は本人が病院に行ってリーケーヤに行くと言っているようです。入院も2ヶ所の病院で経験して、昔の事は言いたくないようです。おかげ様で今は本当に感謝しています。ありがとうございました。今は検査が1ヶ月に2回、血液検査を受けています。病院は新垣病院にお世話になっています。

色々な福祉サービスに取り組んでいる事をもっと幅広く知ってもらい、本当に困っている人達皆に行き届く事を願います。

自治会に入らないと広報おきなわとか、ポストに入らないのですか？沖縄市の情報がわかりません。義父の老後も不安です。

## 自由記述内容

B型就労支援に通所している知的障害（療育B）の妹がいます。今年母が亡くなり、今まで母が妹の手続き等をしていたので福祉については何もわからず、1から福祉と関わる事になりました。そこで相談支援事業所の存在を知り、相談員さんと妹の今後についてたくさん相談にのっていただき、短期入所の申込み～利用する事になり、私自身も家族も本人も楽しく過ごせており、母の死後は不安でしたが、日々安心して過ごせていて大変助かっています。移動支援の利用やB型就労支援から生活支援への変更等、短期入所の利用日数増加等、普段の生活では聞きなれない知らない単語ばかりで戸惑いましたが、相談員さんがとても丁寧に教えてくれて大変助かりました。

（父は健在ですが、娘の面倒はほとんど見ません。そこも困っています。私自身妹と2人兄妹です。頼れる身内も近くにいません）。母が闘病中の際は地域包括支援センターの存在を病院から教えてもらい、介護保険への申請も迅速に行ってもらい、サービスを受ける事ができ大変助かりました。その後はケアマネジャー・訪問介護・訪問診察等を利用し、在宅での看取りをいたしました。私自身も家族があり、仕事があり、実際に身内に何かあってからではないと介護・福祉に関しては知る術がなく（本来なら知っておくべきだと思いますが）、日々の生活をしながらの母の介護、妹の手続き等はその場所に行くのも仕事を休んだり、子どもの体調不良もあったり、コロナもありいろいろ大変でした。介護・福祉の手続き方法として、オンライン・書面・代行手続きの方法があれば良かったなと思います（すでにあったのであればわかりやすく公示してほしいです）。あと、母が亡くなった後の市役所での手続き窓口が何ヶ所もあり、改善してほしいなと思いました。死亡届を提出した時点で、各課から手続き申請を郵送またはオンライン等で一括で処理できるよう簡素化してほしいです。または死亡後の手続きを一括する課があってもいいのではと思います。何回も住所を記入して、印鑑押印し、銀行口座を何回も記入等、重複する作業が多いです。情報は1回記入（入力）したら、死亡後の手続きを一括する課で対応できるといいとは思いませんか。提案ですが、職員は死亡後の手続きに関する課全てを経験し、職員の知識向上で実現可能な事だと思います。それを委託するのも良いかと思います。又は民間企業での事務職等の経験がある人はそういう業務は得意分野だと思います。福祉についてもグループホームや短期入居等の施設が満床との事。何か改善する方法を考えていただきたいです。子どもの保育園の待機児童は取り上げられますが、障害者の利用する施設も職員が不足しています。待機障害者もたくさんいると職員がおっしゃっていました。障害者といっても軽度～重度の方もいて、利用できる施設に限りもあるかと思いますが、軽度であっても健常者が障害者とずっと一緒に暮らすというのは難しい事です。実際、私自身も子育てもあり、実の妹ですがお世話等は福祉に頼りたいです。言いたい事がたくさんありすぎて文章をまとめられなくなったので終わります。読んでいただきありがとうございます。

## 自由記述内容

子育てをするなかで福祉サービスがとても充実していることを知りおどろきました。しかし、実際に利用するまでは全く知らなかったのもっともっと多くの方が利用するきっかけ作りをして頂きたいです。幼い子どもと一緒に児童支援センターやつどいの広場をよく利用しています。ありがたいサービスでこれからも続けて欲しいです。

福祉についての意見とは下記異なるかもしれませんが、なかなか発言する機会がないのでこちらで書きたいと思います。

①市役所の立て替えもしくは施設設備のリフォームをして欲しい。

雨もりがひどく老朽化が進んでいて利用していて不安と不便を感じます。

多くの方が利用する場所こそ1番に力を入れて欲しいです。

②子どもの検診が役所で実施される際に日曜日のお昼に夏場クーラーもきいていない中、数台のせんぷう機のみで行うのはどうかと思います。過酷な環境の中、働いている職員の方々、親子ともに汗だくで泣いているお子さん多かったです。節電することよりも大切な事忘れないで頂きたいです。

③選挙会場で役所へ行った時に長い列で高齢者の方（足が不自由）が並ばれていてとてもつらそうでした。〇〇歳以上優先列や時間帯をもうけるなど、もっとやさしい心で会場作りをして頂きたいです。よろしくお願いします。

市の福祉サービス、社協の事業や活動で自分の知らないこともたくさんありました。広報・新聞・テレビなどで報道されて活動内容を知る程度です。

赤ちゃん、学童・生徒・勤労者・子育て世代・シニア…すべての世代を支援できる事業・活動をなくすことなく継続してほしいです。「…で困っている時に…の支援がある」ことやどこの窓口で相談したらよいかをどんどん知らせてほしいです。

介護が必要な時、地域のケアマネージャーや関係者に親身になって対応してもらったと知り合いから聞いたことがあります。デイケアセンターやホームなど入所できるまでに日数がかかり、家族が困ったようです。手続きが早目にできるとありがたいです。福祉事業・活動に予算をくんで、住みやすい市であってほしいです。

福祉施設で働く人の支援、人がいなければ充実したサービスはむずかしいと思う。

また休みがとれないと離職率高い、働く人の高齢化も進んでいると感じる。将来福祉を継続する為にも就労支援や働いている人の支援が必要だと思う。

具体的には、待遇改善（土日補助だす、施設側への指示）。

効率化、IT技術の導入、イベントなど簡略化（手をとられて通常業務に手がまわっていない）など行政から施設側へ働きやすい様に時代に合わせて変えていけるよう指示することを望む。

## 自由記述内容

勉強不足・市の活動について、目にしたり耳にしたりする機会が少ない。仕事と育児が中心の世帯へどのように情報・支援についてアプローチするのか、他県の方法を参考にしてほしい。新しい取りくみ、活動がないのが「沖縄市」の印象、長年すみなれて、高齢者より子供・若者が多いのが特徴だとすれば、そこにフォーカスした取りくみに重むきをおき、他のとりくみを検討してほしい。地域のニーズを知るためのデータ収集、分析が弱いと感じる。市長の役割は？トップリーダーとしての発言や行動がみられない。コロナの影きょうが大きいはずなのに広報の内容がうすい。何を今（タイムリーに）市民は（県民は、国民は）必要としているのか？もっと真げんに仕事をして役割をまっとうしていただきたい。この場をかりて、市長（リーダー）への要望も記入させていただきました。今回のアンケートが充分にいかされる事を期待。

情報が少ない

沖縄市に住んで2~3年だが、知らない活動や団体が多かった。私たち若い世代にも活動が伝わるようにSNSなどで知れたら共有しやすいと思う。ボランティア活動など、どこでやっているのかがわからなかったのもっと大きく宣伝してくれたら行きやすい。今回のアンケートで、もっと自分たちが住んでいる市について知っていきたく思った。

僕は孤独なので将来は福祉を目一杯受けたいと思います。

広報に情報発進（詳しく）

家で犬と猫を飼っています。災害時に一緒に避難したいです。お子さんがいる、高齢者や障がい者がいる家庭では、もしかしたらいざという時のそなえをしているかもしれませんが、ペットを飼っている家ではどのようにしたらよいのでしょうか。情報と理解がほしいです。またボランティアをしています。もしもそれがポイントづけのような取扱いをしていただけたら、将来何か困ったときに助けてくれることにつながればと思います。

ボランティアはほとんど自分の時間とお金を使って行きます。社協さんや市が予算や場所を提出して下さることもあります。「好きだから」「やりがいがあるから」「その人のために役立ちたいから」という気持ちだけで動いています。担い手が少なくなる今、ボランティア精神に頼るのではなく、多くの人が「私欲のため」でも動いてくれるしくみを作ってほしいです。

自分のアパートの隣の方が孤独死され発見に4日かかった。会った事もあいさつもないので電気が夜ついていて「いるなー」と思っていた。でも亡くなっていた事がわかり彼には何の福祉に関する手だて、まわりからも何もない、これが現実だと教えられ、明日はわが身と思っています。いくらアンケートをとられても何も変っていないのが本当で、行政が動いているとは感じられません。紙の上ではわかる事がどれだけでしょうか。また、生活保護を受けながら夫婦でパチンコに行っている方も知っています。本当に苦しい人にあげてほしいし、もっとよく調べてほしい。沖縄市は審査が甘いと思うし、そこまで人手がないのかなとも思います。私は年もいっているが仕事もし、税金もはらっている。働かないと食べていけないから頑張っているのに何か福祉がちがっていると思っています。

## 自由記述内容

子供がすくすくと育てる社会になってほしい。

最近では登校していない子や朝ごはんを食べてない子が増えている。

ユニセフの一人〇〇円で子供を救おう！みたいな感じで、一人で誰かの分を支援制度みたいなのを考えては？フルタイムで働いていて、子供も4人いるので、積極的な活動はできない。でも近所でおなかが空いてる子がいるなら、朝ごはんを渡してあげる事ぐらいはできる。(自分の子も必ず食べるから！)

詳しく私自身きちんと学んでいるかは十分ではないと思いますが、もっと高齢者でも分かりやすい表示が必要だと思います。これからまだまだ課題は常にでてくると思いますが、できる事は協力し助け合いができればと思っております。

過去に地域活動・婦人会活動・ボランティア…と一生懸命行動していた私でした。後期高齢者の1人となり…夫も福祉施設の世話になって思うこと考える事が沢山出来た。自分自身の事で精一杯…まず健康である事と自立を努力している。

若者にエールを送っている。

市役所へ行く際、比屋根からだ循環バスがありますが、行きは良いのですが、帰りはだいぶ大まわりして時間ももったいなく乗る気がしません。本数も少ないので、お年寄りや車のない方が利用しにくいと思います。

高原十字路から役所(ゴヤ十字路)向けの路線バスがないのはどうしてでしょうか？役所前にバス停があれば、駐車場が混んで止められないような事も少なくなると思います。年配の方にもっと利用しやすいよう比屋根から高原を通過してゴヤ十字路方面への路線バスを運行させてほしいです。

車を運転できない年老いた両親がいつも役所方面へ行く時、タクシーを利用するので、バスがあると助かると言ってます。

コロナにまけないで頑張ってください。

福祉施策の内容がよくわからない。広報誌も届かないので役所にいった際、もらっている。各家庭にもっと活動内容を知らせるため、ポスティングや新聞の折り込みチラシ(お金がかかります)等で周知する必要があるのでは…。問29で社協の事業内容を知りました。色々と活動しているのに知らないで困っている人達が多いのでは…。もっと市民に伝える工夫をしてほしい。伝わらないと始まらない!!

公園を整備したのはとても良いと思う。支援センター、児童館ともに保育園にもその情報を張り出してほしい。

自由!!

皆、自由になりたいが、なれない人が多勢いる、その人の立場、周囲の環境、人生観、罪の意識等、そういう目に見えない、人に言えない地獄からどうにか、助け出す方法はないものか。

今おもえば、私も20代の時は生活コンキョウ者だったと思います。社会には、いろんな意味(理由)で支援が受けれてない人もいますでしょう!!一方では、その支援に甘える人もいます。福祉も支援も本当に必要としている人にしてあげたいものです。

### 自由記述内容

生活に困っている方がいる家庭に市の協力をしてほしい。税金とかのめんじょを考えてほしいです。その家庭はそれで食を食べてない方もいらっしゃると思います。税金は国がさだめた法だとは思いますが、仕事したくても、今現状では仕事もなく、税金だけは必ずハガキがきます。はらえない家庭は、とくそく状が届くと心がおれるほど苦しんでいると思います。それを考えてほしいと思います。何か対策はあると思います。

私たち国民年金夫婦の年金は二人で8万ぐらいしかありません。家があるため福祉を受ける事ができません。こういう時はどうしたらいいか。1人がなくなると1人分しかないとのこと、おかしいと思います。こういう人たちが多くなると市としてもこまると思います。受けるべき人には役所の方がアドバイスして福祉を受けさせてほしいです。もっとちゃんとしらべて受けさせてほしいです。

福祉について、あまり知らないで、問50については、答え方がわかりません。沢山の方に福祉について伝える事が一番最短で、ボランティア協力者も増えるのだと思います。貴重な調査ありがとうございました。

私は、沖縄市に転居してまだ2年目で、家族に高齢者や障害者、知り合いで生活困窮者がいません。なので福祉についてあまり分かりません。沖縄市に転居するにあたり、おどろいたことは、幼稚園がないことです。内地出身で公立幼稚園が無かったので、私立で3年保育が当たり前だし週5日の完全給食。預かり保育もとても充実していて午前保育もほぼありませんでした。沖縄県は公立幼稚園があるので、私立幼稚園が少ないのは分かりますが、希望者全員が入園できるわけではありません。また公立幼稚園は地域によって3年、2年、1年保育と差があり、給食があるところとないところがあって、とても不均平だと思います。幼稚園に入れても働きたくても働けない(預かり先がないから働けない、働いていないから預かり申請できない)園以外の子育て支援はとても充実していると感じています。つどいのひろばや児童センターなどは、とてもよく利用させてもらっています。親も子ども友達ができてコミュニティの場としても良いです。トランポリン教室も最高です。

保健福祉施策はとても素晴らしいと思います。しかし、本当に困っている人達に行き届いているのでしょうか。時々、耳にする事ですが、母子家庭や父子家庭への手当、表向きは母子だけで生活、裏では元夫がいたり、私達の税金は無だに使われてないのでしょうか。手厚い福祉が離婚をして母子家庭を作る手助けになってないのでしょうか。離婚をして、福祉を受けることも生活の知恵、生きる知恵と言われればそれまでですが、本当に困っている人達に使われる税金は払うことにもいいといません。でも、世の中どこかおかしい、税金を払う人はつつましく生活をして福祉を受けの人がぜいたくな生活をするのはどういう事でしょうか。

バスの利便が悪く、病院通院にバスが使えない。病院と行政が協力して、病院通院バスが出来ないか。タクシーと行政との協力でもいいので…料金は安めで…希望する方は多いと思うのですが…

## 自由記述内容

幅広い世代に知ってもらうための取り組みを行う。小、中、高校生、地域住民に対し、授業の一環として体験する場とか、休日を利用し参加型イベントを開催など、福祉の仕事に従事されている方の資質向上、促進、研修会などするとか。従事されている方が事業所に対し相談、支援の体制に応じる窓口を設けてほしい。

そろそろ母親も60歳をむかえるため、高齢になる中でずっと仕事や子育てをしてきたので、自身の健康維持ができるかが不安になっています。運動や趣味を促しても「寝ていた方がまし」ということで動かないです。生活に苦勞しているため、なかなか遊ぶことや交流もなかったのも、そういった人とあえる施設が近くにあればとは思っています。

よくわかりません。

問44で私が言いたかった事…

生活困窮者の原因はいろいろあると思いますが、それが離婚や若者の精神的疾患であれば…それをどこかで止めなければ、負の連鎖はずっと続くのではないかと、では、どうすればよいか？を若い世代に教授する必要があるのではないかと、高校・中学での学習会や講演会など夫婦について、結婚について、愛する事とは、など…個人的に自分は愛されず成長したと感じている子供達がいるとするならば、同じような道を進まないように離婚や暴力のない家庭を築けるような教育はとても大切だと思います。それが根っこにあるから成長し、仕事ができない、やる気のない大人になってしまうのでは？結果、生活困窮者、貧困問題がおこるのではないのでしょうか？

ITを使ったリモートの相談まど口を作る。

相談しやすい方法をITで考えるのはどうか？

役所へ行った時、たらい回しにして結果「自分で何とかするか」「時間かかるが役所ですか」となる。何のための役所ですか？いそがしいのは分かりますが困っているから行っているのに何の解決にもなっていない。それでは「行ったって無駄だよな」となる。そんなことばかりでは、頼りたくても頼れない。相談に行ってる側のことも少しは考えて下さい。

住んでいる周辺が暗い。気軽に健康づくりの為に外に出て行けない。子どもと散歩も行けない。近くに公園がない。街灯もないので昼間からしか外に出歩けない。栄えている所だけ頑張るんですか？家周辺は木がたくさん生い茂っています。大雨や少しの強風で木の枝が折れて、昼間など明るい時間に歩いている老人や通学している子ども達が危ないです。自治会に加盟していないのでどこに声を上げていいか分かりません。将来の地域を守るのは今の子ども達です。

ゴミが捨てられている木の生い茂っている通路を子どもに学校まで歩いて行きなさいと言えません。地域の子は地域が育てる、時代が変わっても小さな事から福祉に全て繋がっていると思います。できる事が1つでも、少しでも協力して地域を助けたいと思わせる街づくりがこれからの沖縄市を創っていくのだと思います。

わかりにくい。はあくしにくい。

### 自由記述内容

- ①国保・後期高齢者医療保険料を下げて、誰れもが安心して医療を受けられるようにして下さい
- ②誰れもが安心して介護サービスが受けられるように特養施設の増設や介護サービス事業所に財政支援して下さい
- ③子どもたちの健やかな成長のために、こども医療費の無料化の拡大、学童保育の待機児童の解消、就学援助などの充実を図って下さい
- ④障がいのある方が当たり前に暮らせる社会のために障がい者支援の充実を図って下さい
- ⑤老後も安心して暮らせるように、年金制度の改善をして下さい（無年金者の解消など）

子育ての方法が具体的にどのようなことか理解できていない親が多いようです。例えば、小学生の児童の勉強道具であるえんぴつ、けしごむ、赤ペン、線びき、筆箱の中に入っているか、えんぴつはちゃんとけずれているか、毎日確認しているでしょうか。基本中の基本ができていない、子供への気づかいができていない、親が多い。うわばき、体育着のサイズは合っていますか？子どもの最高責任者は親です。子どもの福祉、子育ての方法がわかっていない親を支援する教室が、訓練があれば、子どもたちはいやな思いをせずに楽しい学校生活を送れると思います。

行政の方達にもう少し優しく接してほしい

地域と学校の連携がスムーズに行くように組織作りをしてほしい。地域で助け合いをしたくても民生委員や自治会との情報交換も個人情報の高いカベがあり、情報が伝わりにくい。人材集めも大変だと思うが、守秘義務を守れる信頼出来る方をリーダーとして育成してほしいです。

- ①要介護の度数（評価）が殆んどなくても高齢者（75才以上）には本人の希望する健康に必要とするものがあれば善処すること。
- ②車の免許証を返納した場合、買物、用事等の用足しのために一定の補助（特定の）行う。

現在住んでいる室川市営住宅に住みつづけたいです。ずっとずっと住みたい。

具体的なサービスを知らないなので意見・提言が書けません…仕事の内容を地域へ知ってもらう努力がされていないのが実情かと思います。

名称は知っているのもあるが、具体的な内容、活動は知らない。身近に利用している者もいないため…福祉や保健の事は必要になれば役所に相談すれば情報は得られるかなと思っていたが、このアンケート調査依り、内容が分り良かったと思っています。

問50の保健福祉施策（サービス）については、以上の私の見解に依り、充実しているかどうか良く分らない。①とっても充実していると思えるようなものであったら良いかな…と思う。広報活動が不足していると思う。より市民に広く伝わるような活動をお願いしたいと思います。

他市に比べて充実していない。ハコモノなど、財政のバランスがとれていない。本当に困っている人に届いていないことを市長は知っているのだろうか？

このぶあついアンケート用紙を封筒に入れるのが大変。もう少し考えて。

また、「ちゅいしいじい課」は意味がわからない。老人は方言使えば喜ぶと思っているのか？誰にでも伝わるように改名してほしい。

本市の保健福祉について、あまり理解していません（内容）広報などもっと注意して読むようにします。

アンケートの内容が多すぎます。

### 自由記述内容

住んで間もないので良くわかりません。ただ、住みやすい様には思います。(便利)

沖縄市からの情報をどこで得ればよいのか分かりません。新聞もとっていない家庭も多いと思います。何か市民に役立つサービスや制度があれば、市が率先して知らせるべきだと考えます。本アンケートに障害者の支援という言葉が多く見られましたが、知的障害者に伝えて生活する市民も多数います。そういった面も市が配慮して支援していくべきです。最後になりますが、私たちの住む沖縄市が益々良くなるよう、発展を願っております。

自分達の生活で、人とはかかわってなくて、福祉についてはほとんど知らせてません。知っている人は、言わないとか、あまり情ほうがないです。

タクシーチケット、病院代の補助のお願い

小生、72才 仕事が少ない、収入が少ない。行政の方々に感謝致します。コロナ禍で一生懸命頑張ってくれて

沖縄市で行なっている福祉事業をほとんど知らないことに気づきました。自分自身も知識をつけて周りにアドバイスできるようにならないと、周囲のサポートにまわれないと思うし、30歳の人々は子育て・仕事に時間をとられているので勉強できる講習会の参加も難しいと感じています。そんな生活の中でも自分の時間で少しでも沖縄市の福祉事業について知りたいと思います。また、できることは協力したいと考えます。ネットを通して、呼びかけ、活動内容の紹介など充実し、1人でも多くの沖縄市民に世代問わず普及していけたらいいなと思います。今回のアンケートでLINEがあることを知りました!さっそく登録して活用します。

コロナ禍になり、ファミリーサポートセンター(病児保育)や病児保育(ちばなクリニック)の利用が出来なくなり、とても困っています。

理由

- ①高齢出産・夫婦ともに高齢育児のため、体力がなく、子どもの看病疲れ、通院で私が体調を崩してしまう
- ②体調不良でも祖父母も高齢で病気がちのため、預けられなかったり、預けにくい。遠慮してしまう。
- ③母親が体調不良になると心にも余裕がなくなり、精神的・体力的に限界がきて、子どもにきつくあたってしまう(子も体調不良でキゲン悪いため)

支援先が見つからず、困っている親がたくさんいると思います。自分でも虐待してしまいそうで怖くなります。1・4才の男の子2人育ててますが、ぜんそく持ちで長引きます。なので預け先が必要な時があります。発熱はずっとなしです。助けてほしいです。母が元気でなければ子どもは育てられません。沖縄市は子どもが多いので困っている家庭多いと思います。早急に病児保育を検討してほしいです。お金は出しても自分の健康も大切なので、預けたいです。感染症対策、病院の証明書?など提出とか

## 自由記述内容

介護する方、される方が色々なサービスを積極的に利用できる様、意識を変えるサポートを専門的に関わられる方々へおねがいしたいです。適度のキョリ感がないと家族関係は保つのが難しいと感じます。

子育て世帯へのサポートはもっと必要だと思います。

→送迎のサービス充実（習い事、学童など）

幼少期からの学習サポートのシステムづくりがあるといいなと思います。

- ・自主学習施設の提供
- ・検定取得費の援助

アンケートの設問が理解しがたい。

市内路線バスは上等です

市内線タクシーがあってもいいかな

スーパー各各を回るタクシー

現在は自分自身健康だと思っています。歯科へ行ったり内科で血圧の薬を取って来たり、眼科へと3つの病院に通院していますが、人間ドックで紹介状が出ると掛かり付けへと年1回の人間ドック検査は安心してしています。しかし自分1人で病院通いできなくなる日が来たらどうしようと心配もしています。

いつまでも1人で自分のことが出来るといいですが、健康を大事にしたいと思っています。

返信用封筒が小さい

経済的、家庭の事情などで教育を十分に受けられない子供たちを支援できるようなシステムがあれば素晴らしい。

健康作りの講座をもっと参加しやすいように増やしてほしい。食事、生活、行動のアドバイス意見交換会を持ってほしい。

老人一人世帯のサポート

不安のまま運転している。安心して免許返納出来る様になったら良い。通院、買物、用事等、申込み性にしても良い（浦添市はそうしている）

街のマイク公報、市のお知らせが聞きづらい

中高生や大学生、働き盛りの世代など、中間層のライフステージに合った食育支援を充実させてほしい（スポーツ栄養、仕事の効率を上げるための健康講座、生活習慣病の予防等）

食生活改善推進員の活動頻度や範囲をさらに広げてほしい。（若い人向けの推進員登録の情報発信も）（食について学ぶ機会にもなり、ボランティアもできる）

“福祉”という言葉だとむつかしく思うが、1人1人みんなに関係するものだと思う。もっとみんなが身近に思えるようになるといろんな事に参加しやすくなると思う

たくさんのアンケート調査おつかれ様です。皆様、体調などお気をつけてお仕事がんばって下さい!!

## 自由記述内容

先日 TV で南城市？の取り組みで市役所内にマッサージ店舗場所を提供したり、託児所スペースを提供したり、また駐車場内にフリーマーケットの様な出店をしたり…というニュースを観ました。

コロナ禍でお店を持つ人は家賃が大変だし、駐車場の確保も大変なわけで、市役所が場所を提供してくれるのは素晴らしいアイデアだと思いました。私は朝～夕方までフルタイムで働いています。高齢者や弱者の救済ももちろん大事ですが、一生懸命に働いて税金を納めている市民にも、もっと目を向けてほしいです。公共のサービスは夕方まで働いている私達は殆ど恩恵を受けられないですから…。

大変申し訳ございません。アンケート調査に協力することができません。本人現在、県外に引っかってまして（2～3ヶ月）アンケートに協力できない事、了承下さい。宜しくお願い致します。

（家族より）社協や包括支援センター、県の自立支援や警察や市の見守り支援、自治会や地域の方々等にはお世話になっていますが、本人は認知症のためあまり覚えていないようです。また、認知症のため、アンケートの内容はあまり理解できていないようです。本人の年齢、世帯構成、自治会等は家族が回答しました。

貧困世帯で高校進学を諦める子供達が出ないよう救済して下さい。せめて高校は卒業して社会人になって欲しいと個人的には思います。希望する子供達には支援をお願いします。教育が充実すれば貧困はなくなると思います。

空き缶を拾ってる高齢者に10万円給付金を知らない方がいました。声かけしたのですが、どうにか出来ないかと残念に思います。

公園等で犬のフンをさせる人が多くいます。子供達が野球やサッカーをする場所でも目立ちます。マナーの悪い飼い主さんが増えてます。

子ども手当の充実。

現在、中学生まで子ども手当の支給を受けておりますが、高校生まで拡充を希望。高校生も何かと必要な物が多く、日々の生活でギリギリの世帯では学費や備品等の支払が厳しいため、本来学業優先すべき子どもにアルバイトをしてもらおう事になりそうです。

そのため同額又は8割でもよいので、いくらかの支援をご検討下さいませ。

1. いろいろな～支援センターがありますがいつどういう時にどう言う人がどう言う支援を受けられるのか、良くわかりません。周囲の人に聞いてもほとんどの人が「貧しい人を支援する施設」…と理解している様な感じがします。皆漠然として、はっきりとしたことはわからない人が多いと思います。

2. 民生委員、児童委員、母子保健推進員、等々も「貧しい人を支援する方々」とはわかりませんが、その人達が具体的にどんなことをしてあげているのか、良くわかりません。

3. 地域もアパートがふえ、隣近所も知らない人ばかりで、部落内での行き通う人もほとんど知らない世代になってきました。人口がふえるのは良いことですが、知らない人だけがふえていくのが残念です。

自由記述内容
初めて福祉サービスを利用する人に対し、知っている限りの専門知識、制度や（利用する側の気持ちになって）情報を全て利用する人へ教えてほしい。
情報があまりないので回答しづらかったです。 体調不良のためボランティア等参加不可です。 介護のため時間にゆとりがなく福祉の情報を得る機会が少ない。
事故後、障がい者になった方達の相談窓口、就業支援の情報サービスを充実してほしい。自立支援もしてほしいです。
人材育成も大事だと思いますが、人材発掘もやってみてはどうでしょうか？
いろいろと知らない事が多いので、もっと福祉施策について情報提供を行ってほしい。
高齢者の方々は気持はあっても身体がついてこない！ 年末の掃除等、高い所や細い所が行き届かない。介護の適応に削ぐわない方でも掃除のサービスとかあると高齢者は助かります。 安易にテレビショッピングなどで買い物をしたりした時に定期購入の意味が理解出来ず、商品は返品したのにも関わらず催促が文書や電話で来て、消費生活センター<沖縄市役所の地下1階>の相談に行きましたが、定期の縛りがありますのでと剣もほろろに言われました。親身に聞いてもらって解決方法とか相談出来るかと思いましたが、ガッカリでした。暇そうにしてて、時間を潰している様にしか感じられませんでした。親方日の丸を安泰なのでしょう。もっと熱血漢の方を人選して下さい。税金がもったいない!!
昨年からコロナ、コロナですが、生活はしないとイケないし、本当に高齢者は難しいと思います。
SNS等で情報提供、共有できるようにしてほしい。また内容も充実してほしい。
市営住宅について、高齢者・障がい者の方達が優先に入居できるよう配慮してほしい。少しずつ自立に向けて。障がいを抱える方は住居を確保するのが難しいと聞くので。高家賃を支払っていても何十年も住み続けている人もいると聞きます。
つきあいがないのでわからない。仕事にむちゅうなので他の事にかまわない。
福祉・助け合い等、大切で必要と感じているが、現実問題として自分・自分の家族の事で精一杯で支援等は厳しい様に感じる。 行政側として、もっと市民の近くに居ますよと言える様な取組みをお願いしたい。
慢性の持病があり、2割負担の医療費でも夫婦で現在年間50万の出費があります。高齢者の体操元気教室に参加するだけでも医療費が10万程軽減されています。体操以外にも栄養講座など、かりゆし園や地域の自治会事務所であつたらうれしいですね。
私は南部出身ですが、沖市は住宅だらけで、自然は少ないです。ごちゃごちゃした所で人は落ち着いて生活できません。自然と共存出来るよう、環境負荷が低減出来るよう、維持可能な社会作りに取り組んで下さい。
仕事で今はいっぱい、あまり考えていない。

## 自由記述内容

このアンケートが来るまで、沖縄市が行っている福祉活動についてほとんど何も知りませんでした。若い世代は自分には関係ない、知る必要がないと思っている人が多いと思うので、情報提供のやり方にはもう少し工夫が必要なのかなと思います。

沖縄市 HP で児童館等の情報がさがしにくいです。Google 検索しても児童館と児童センターで検索ですてくる施設が少し違ったり、沖縄市 HP 内のリンクもわかりにくかったです。できればトップページの子育てのページ内に児童館・児童センターの項目があると助かります。

特に沖縄市宮里児童センターのページはさがしにくかったです。HP では主な施設・機関の所に児童館・センターの情報がありましたが、宮里児童センターは新しい施設だからでしょうか、ページの1番下にあって見落としやすかったです。

Okiku 内でも児童クラブの情報はでてきますが、児童館・児童センター施設情報はわかりにくかったです。

サイト内に公園を探すと項目があるように児童館・児童センターを探すと言うような項目があるともっと使いやすくなると思うので、どうか検討お願い致します。

1. 各家庭に福祉施策等のシオリを配布する。
2. 身体に不自由があっても痴呆症状が無ければ介護度も低く、デイサービス等も受けられない事もある。

沖縄市は経済困窮世帯や、ひとり親世帯等、生活基盤が弱い世帯が多く、福祉に対する行政ニーズがとても高いと思うが、福祉が必要な状況に対応するだけでなく、20年・30年先を見すえて、そこに至らないようにする施策を今から打たないと、どんどん支出が大きくなるだけと感じる。孤立しがちな子育てをしっかりと社会で支えて、手厚い教育で自律を促して、沖縄市を今後支えていく子どもたちにお金を投じるという施策を大きく打ちだしてほしい。子育て支援を今だけでなく、将来への投資として捉えてほしい、と感じる。

コロナウイルスの感染拡大で経済的な格差が拡がりつつあります。人々が生活を再建できないまま危機感が長期化するおそれがあります。そのような中で高齢者の孤立死や孤独死が増加傾向にあります。誰ひとりとり残さない多様性と包括性のある共生社会が実現できる施策を立案し、地域と共に行動していただければ本望です。

提言ではなく、苦情になるでしょう。

私自身、足かけ来る3月16日には、地域の子供達を見守って32年目、いわゆる非行防止活動や高齢者宅の困り事の相談に乗ったりで、今日まで来ています。P.14に問43-1の記載にある様に高齢者宅にて食事の世話も行って来ました。

苦情と言うのは、ひきこもっている少年や少女(小六から中三)の件でこの事案でしたら、青少年センターですねとか、食事の世話をしている85才の高齢者がパチンコをやるので相談窓口に行ったらそこでもたらい廻しに合ったりでイヤ氣をしたものです。

詳しい経緯は、又の機会にします。

乱筆で申し訳ありません。

### 自由記述内容

沖縄市は子供の数が多いので、子供達がたのしく（ほうかご）活動できる様に公民かんの利用とかイベント・学校以外のかつどうの場を作りかっせいか出来たらいいなと思う。

市役所周辺の環境は充実している様に見えるが、その他周辺（泡瀬、与儀、山里、山内、南桃原、登川）については、市バスも遅く、又、バス停がわかりづらいと思われる。ライカムから山里-バスケット施設までの照明はなく、暗い。更に雑草の手入れに関しても遅く、伸びたままで治安も心配になる。市民が健康になる為の福利厚生も少なく、働きざかりの人に対するメリットも非常に少ないと思われる。北谷町はちゅら一湯、北中は EM に温泉の利用が出来るクーポン等があり、自らの健康管理に役立てているときく。沖縄市もその様な取り組みがあり、「住みやすい、住んで良かった」と思える沖縄市にしてもらいたい。80代の認知を少し患っている母は、一人で生活しています。孫の面倒も見ながら母もみていくのは大変なことです。

父母が高齢で介護を受けている状態ですが、家族で1人を担当（連絡）に充てて、別の人はその人から聞いて下さいと、介護施設や今後等の話もできませんでした。担当になった者も必ずしも内容を話す事が得意ではありません。終いには「じゃあ、あなたやって」と結局、親は担当を世話を一番よくしてくれる人と理解しています。ゴタゴタだけ残りました。担当をたてるのは問題ではないのですが、電話で説明等の問い合わせには応じてもらえはしませんか？

自身を高齢者として将来に不安を持って生活しています。情報をもっと細やかに発信して欲しいと思います。携帯とかパソコンとか老人のほとんど使えないし、取り残された感が否ません。自身も勉強不足と反省しています。

あまり身近な事ではないので関心がない。

# 資料編



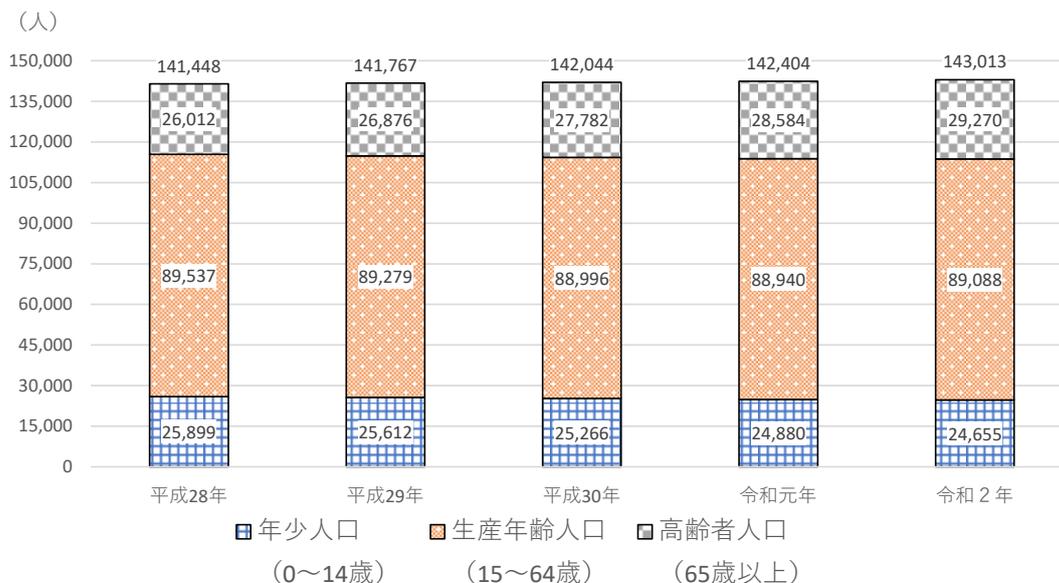
# 1. 沖縄市の地域福祉を取り巻く状況

## 1. 人口や世帯の状況

### ① 沖縄市の総人口の推移

沖縄市の総人口（住民基本台帳登録者数）は増加傾向にあり、令和2年10月1日現在で143,013人となっています。

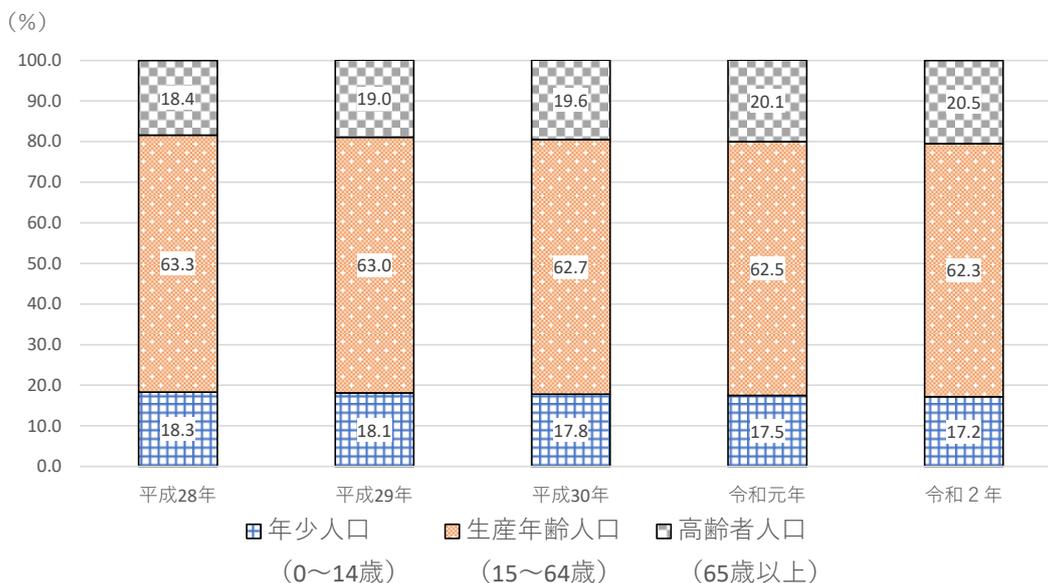
#### 【総人口の推移】



資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

沖縄市の総人口を年齢3区分別にみると、令和2年10月1日現在では年少人口が17.2%、生産年齢人口が62.3%、高齢者人口が20.5%となっています。平成28年以降、年少人口割合、生産年齢人口割合は微減傾向にあり、高齢者人口割合は微増傾向にあります。

#### 【年齢3区分別人口割合の推移】



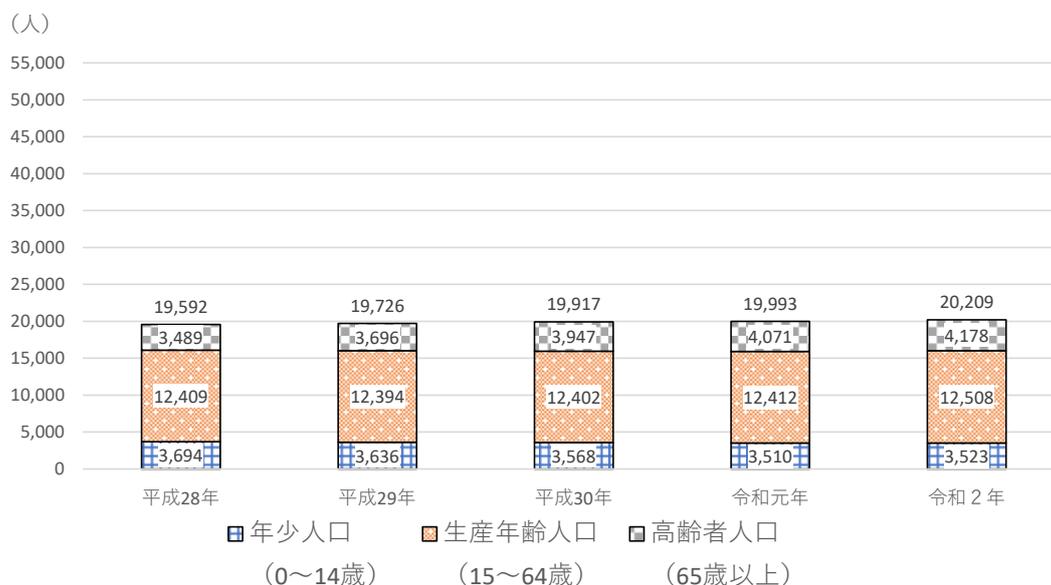
資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

## ○参考：地区別人口の推移

沖縄市の総人口（住民基本台帳登録者数）を地区別にみると、北部地区、中部地区、東部地区はおおむね増加傾向にありますが、西部地区では減少が続いています。

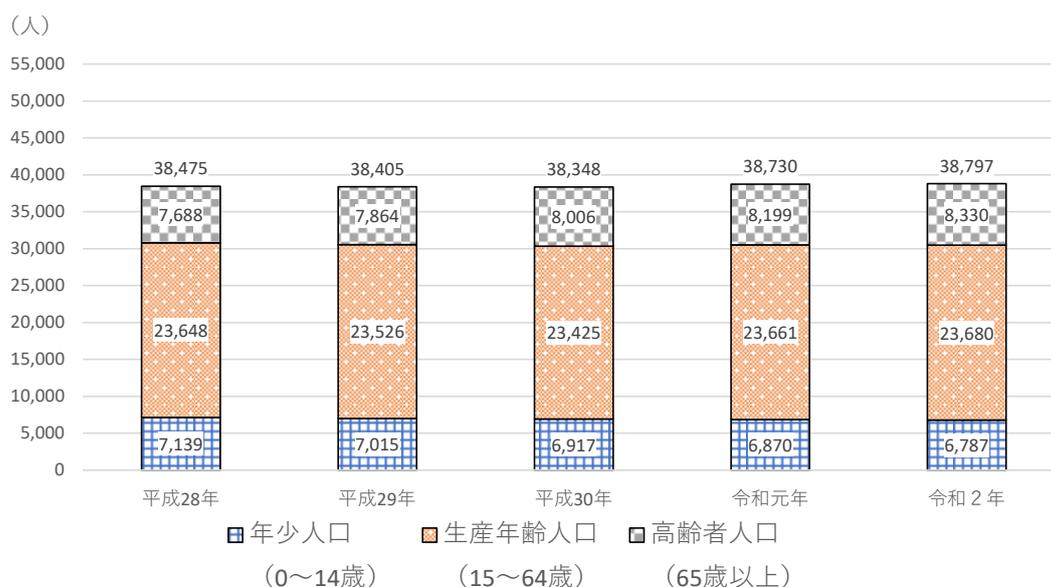
年齢3区分別にみると、全ての地区で年少人口が減少傾向にあり、特に北部地区、中部地区、西部地区では高齢者人口が年少人口を上回ってきています。

### 【北部地区人口の推移】



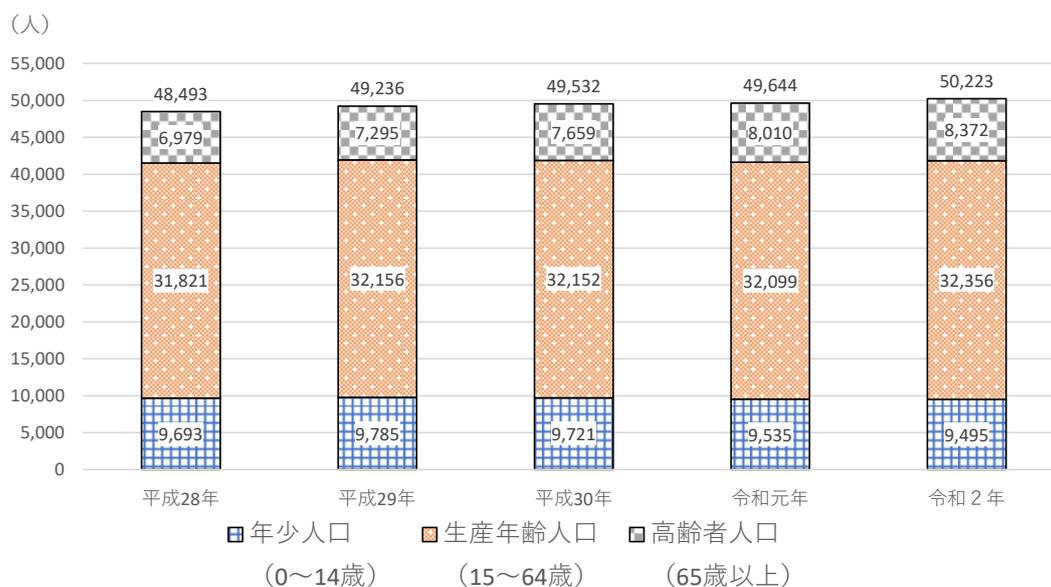
資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

### 【中部地区人口の推移】



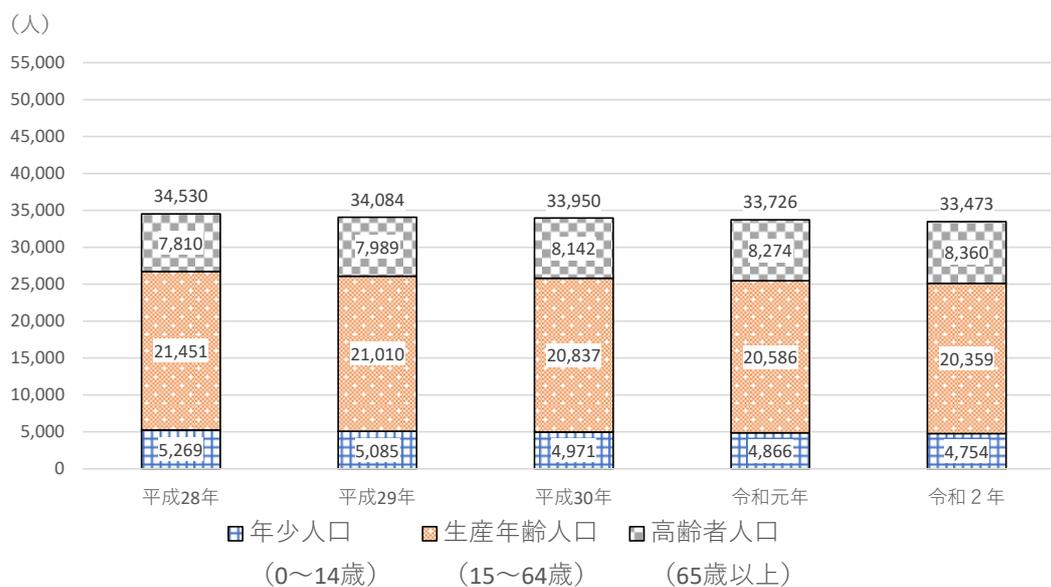
資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

## 【東部地区人口の推移】



資料：沖縄市HP「人口統計」(各年10月1日現在)

## 【西部地区人口の推移】



資料：沖縄市HP「人口統計」(各年10月1日現在)

地区名	行政区名
北部地区	池原、登川、知花、松本、明道
中部地区	美里、東、宮里、吉原、越來、城前、照屋、安慶田、室川、住吉、嘉間良
東部地区	泡瀬、泡瀬第一、泡瀬第二、泡瀬第三、古謝、東桃原、大里、高原、比屋根、与儀、海邦町
西部地区	八重島、センター、胡屋、園田、中の町、諸見里、久保田、山里、山内、南桃原

## ② 自治会加入率の推移

令和3年1月1日現在の自治会加入状況は下表のとおりで、住民登録世帯数 64,219 世帯のうち加入会員世帯数は 17,280 世帯、加入率は 26.9%となっています。

### 【自治会加入の状況】

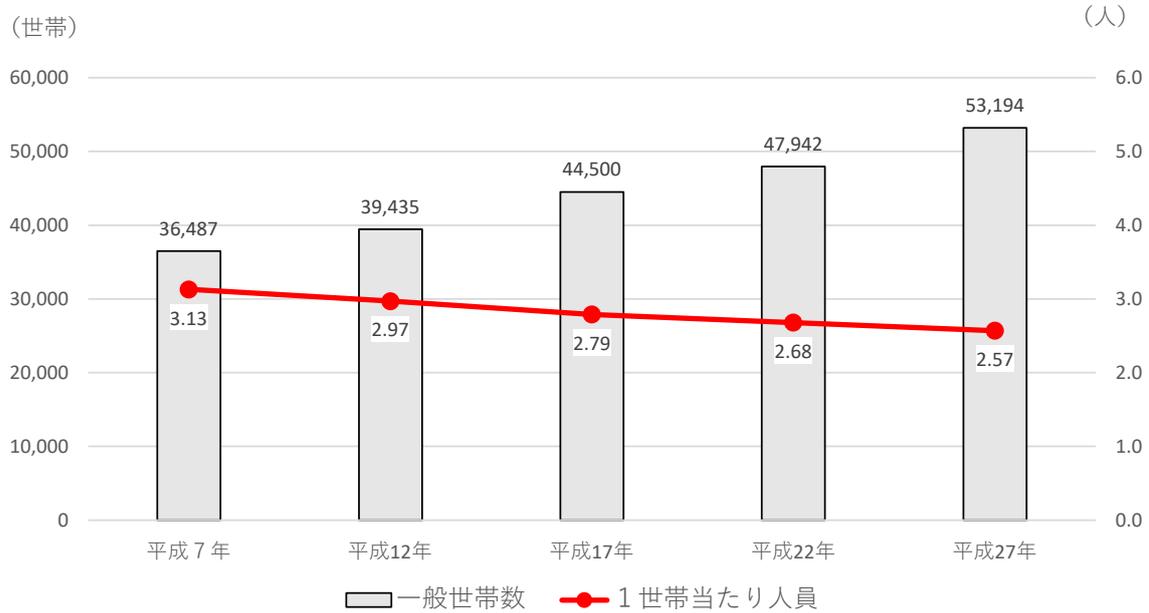
番号	自治会名	加入会員 世帯数	住民登録 世帯数	加入率
1	越来	393世帯	1,071世帯	36.7%
2	城前	170世帯	511世帯	33.3%
3	照屋	775世帯	2,338世帯	33.1%
4	安慶田	689世帯	2,357世帯	29.2%
5	室川	471世帯	1,058世帯	44.5%
6	住吉	200世帯	738世帯	27.1%
7	嘉間良	257世帯	664世帯	38.7%
8	八重島	85世帯	315世帯	27.0%
9	センター	396世帯	1,566世帯	25.3%
10	胡屋	840世帯	3,276世帯	25.6%
11	中の町	536世帯	1,941世帯	27.6%
12	園田	274世帯	640世帯	42.8%
13	諸見里	650世帯	2,293世帯	28.3%
14	山内	441世帯	1,652世帯	26.7%
15	山里	474世帯	1,200世帯	39.5%
16	久保田	345世帯	1,020世帯	33.8%
17	南桃原	523世帯	2,065世帯	25.3%
18	美里	1,262世帯	4,965世帯	25.4%
19	東	214世帯	1,038世帯	20.6%
20	宮里	779世帯	2,622世帯	29.7%
21	吉原	70世帯	208世帯	33.7%
22	松本	460世帯	1,921世帯	23.9%
23	明道	125世帯	865世帯	14.5%
24	知花	686世帯	2,469世帯	27.8%
25	登川	1,092世帯	2,444世帯	44.7%
26	池原	537世帯	1,278世帯	42.0%
27	古謝	601世帯	2,630世帯	22.9%
28	高原	663世帯	3,592世帯	18.5%
29	大里	419世帯	2,062世帯	20.3%
30	東桃原	147世帯	423世帯	34.8%
31	比屋根	440世帯	3,124世帯	14.1%
32	与儀	201世帯	1,756世帯	11.4%
33	泡瀬	844世帯	3,967世帯	21.3%
34	泡瀬第一	246世帯	1,451世帯	17.0%
35	泡瀬第二	73世帯	391世帯	18.7%
36	泡瀬第三	526世帯	1,127世帯	46.7%
37	海邦町	376世帯	1,181世帯	31.8%
合 計		<b>17,280世帯</b>	<b>64,219世帯</b>	<b>26.9%</b>

資料：令和3年1月1日現在)

### ③ 一般世帯数、世帯人員の推移

本市の一般世帯数は、平成 27 年時点で 53,194 世帯、1 世帯当たりの人員は 2.57 人となっています。平成 7 年からの推移を見ると、一般世帯数は増加傾向にあります、1 世帯当たり人員が減少傾向にあります。

#### 【一般世帯数、世帯人員の推移】



資料：総務省「国勢調査」(各年 10 月 1 日現在)

#### ④ 世帯の家族類型の動向

平成 27 年の家族類型をみると、一般世帯のうち約 7 割（67.7%）が「親族のみ世帯」となっており、60.0%が「核家族世帯」となっています。また、全体の約 3 割（30.7%）が「単独世帯」となっています。

平成 17 年からの推移をみると、「親族のみ世帯」の世帯数は増加していますが、構成比は減少しており、また、「単独世帯」が世帯数、構成比ともに増加しています。

#### 【一般世帯の家族類型別世帯数、割合の動向】

		平成17年		平成22年		平成27年		沖縄県（平成27年）	
		一般世帯数	構成比	一般世帯数	構成比	一般世帯数	構成比	一般世帯数	構成比
総数（世帯の家族類型）		44,500	100.0%	47,942	100.0%	53,194	100.0%	559,215	100.0%
A 親族のみの世帯		32,709	73.5%	33,704	70.3%	35,986	67.7%	369,332	66.0%
1 核家族世帯		28,592	64.3%	29,705	62.0%	31,897	60.0%	327,514	58.6%
	(1) 夫婦のみの世帯	5,523	12.4%	6,177	12.9%	7,299	13.7%	86,079	15.4%
	(2) 夫婦と子供から成る世帯	16,540	37.2%	16,571	34.6%	16,619	31.2%	170,639	30.5%
	(3) 男親と子供から成る世帯	923	2.1%	991	2.1%	1,164	2.2%	10,546	1.9%
	(4) 女親と子供から成る世帯	5,606	12.6%	5,966	12.4%	6,815	12.8%	60,250	10.8%
2 核家族以外の世帯		4,117	9.3%	3,999	8.3%	4,089	7.7%	41,818	7.5%
	(5) 夫婦と両親から成る世帯	84	0.2%	84	0.2%	79	0.1%	778	0.1%
	(6) 夫婦とひとり親から成る世帯	254	0.6%	282	0.6%	256	0.5%	3,226	0.6%
	(7) 夫婦、子供と両親から成る世帯	323	0.7%	247	0.5%	277	0.5%	2,954	0.5%
	(8) 夫婦、子供とひとり親から成る世帯	908	2.0%	831	1.7%	745	1.4%	7,697	1.4%
	(9) 夫婦と他の親族（親、子供を含まない）から成る世帯	160	0.4%	172	0.4%	177	0.3%	1,773	0.3%
	(10) 夫婦、子供と他の親族（親を含まない）から成る世帯	605	1.4%	587	1.2%	579	1.1%	6,193	1.1%
	(11) 夫婦、親と他の親族（子供を含まない）から成る世帯	80	0.2%	71	0.1%	70	0.1%	769	0.1%
	(12) 夫婦、子供、親と他の親族から成る世帯	280	0.6%	264	0.6%	227	0.4%	2,395	0.4%
	(13) 兄弟姉妹のみから成る世帯	396	0.9%	479	1.0%	579	1.1%	6,424	1.1%
	(14) 他に分類されない世帯	1,027	2.3%	982	2.0%	1,100	2.1%	9,609	1.7%
B 非親族を含む世帯		339	0.8%	648	1.4%	790	1.5%	7,285	1.3%
C 単独世帯		11,452	25.7%	13,583	28.3%	16,331	30.7%	180,974	32.4%
世帯の家族類型「不詳」		-	-	-	-	87	0.2%	1,624	0.3%
単身世帯	母子世帯	1,764	4.0%	1,740	3.6%	1,551	2.9%	14,439	2.6%
	父子世帯	194	0.4%	217	0.5%	150	0.3%	1,738	0.3%
高齢世帯	65歳以上親族のいる一般世帯	12,460	28.0%	13,940	29.1%	16,986	31.9%	183,202	32.8%
	高齢夫婦世帯	2,027	4.6%	2,671	5.6%	3,381	6.4%	41,009	7.3%
	高齢単身世帯	3,222	7.2%	3,927	8.2%	5,117	9.6%	51,710	9.2%

資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

※親族世帯：二人以上世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある世帯員のいる世帯。なお、その世帯に同居する非親族（住み込みの従業員、家事手伝いなど）がいる場合もここに含まれる。例えば「夫婦のみ世帯」という場合には、夫婦二人のみの世帯のほか、夫婦と住み込みの家事手伝いから成る世帯も含まれる。

※非親族世帯：二人以上の世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある者がいない世帯

※単独世帯：世帯員が一人の世帯

※母子（父子）世帯：未婚、死別又は離別の母親（男親）と、未婚の 20 歳未満の子供のみから成る一般世帯（他の世帯員がいないもの）

※高齢夫婦世帯：夫 65 歳以上、妻 60 歳以上の夫婦 1 組の一般世帯（他の世帯員がいないもの）

※高齢単身世帯：65 歳以上の者一人のみの一般世帯（他に世帯員がいないもの）

## ⑤ 住宅状況

住宅・土地統計調査における平成30年の沖縄市の住宅総数は60,480戸で、そのうち約9割(90.6%)が「居住世帯あり総数」、約1割(8.6%)が「空き家」となっています。

平成25年と比較すると、住宅総数は10.5%増加しており、「居住あり総数」が17.1%増加、「空き家」が9.3%増加となっています。また、「一時現在者のみ」が433.3%、「住宅以外の居住建物」が300.0%と、それぞれ大きく増加しています。

### 【一般世帯の家族類型別世帯数、割合の動向】

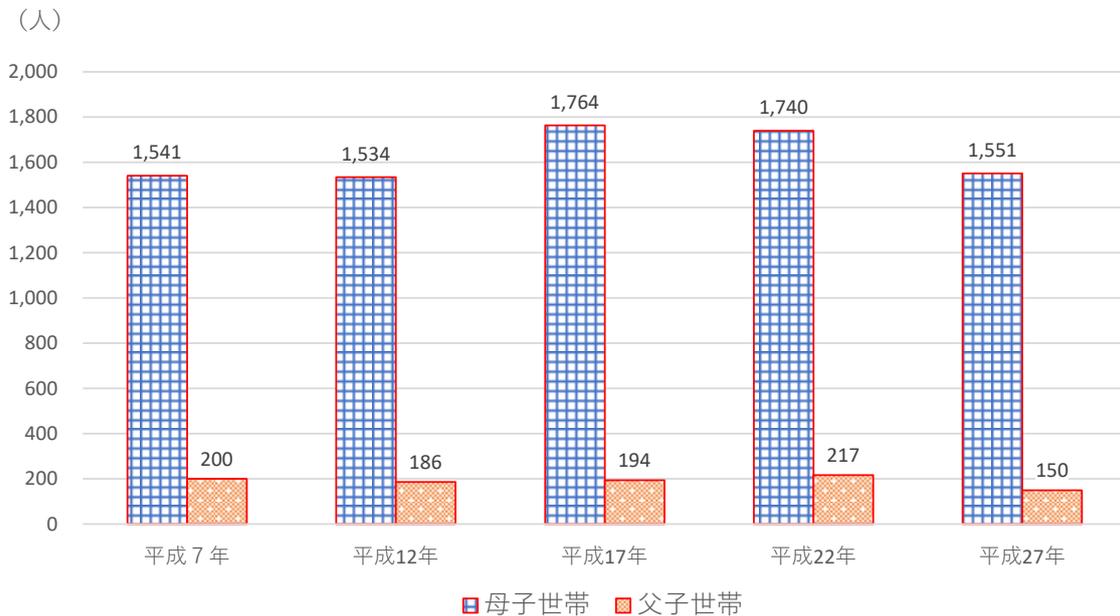
		沖縄市				沖縄県	
		平成30年	平成25年	増加数(戸)	増加率(%)	平成30年	
住 宅	住宅総数	A	60,480	54,750	5,730	10.5	652,600
	居住世帯あり総数	B	54,770	46,790	7,980	17.1	577,000
	一時現在者のみ	C	480	90	390	433.3	6,800
	空き家	D	5,190	4,750	440	9.3	67,900
	建築中	E	40	40	0	0.0	1,000
住宅以外の居住建物(戸)			120	30	90	300.0	800
世 帯	世帯総数	ア	55,060	50,080	4,980	9.9	579,800
	住宅に居住する主世帯数	イ	54,770	49,870	4,900	9.8	577,000
	同居世帯・住宅街の建物に居住する世帯	ウ	290	210	80	38.1	2,900
差	A-ア(戸)		5,420	4,670			72,800
	A-イ(戸)		5,710	4,880			75,600
比 率	一世帯当たり住宅数 A/ア(戸)		1.10	1.09			1.13
	一世帯当たり住宅数 A/イ(戸)		1.10	1.10			1.13
	空き家率 D/A×100(%)		8.58	8.68			10.40
	建築中の住宅率 E/A×100(%)		0.07	0.07			0.15

資料：「住宅・土地統計調査」(各年10月1日現在)

## ⑥ ひとり親世帯の推移

平成 27 年のひとり親世帯について、母子世帯は 1,551 世帯で、平成 22 年と比べると 189 世帯減少しています。父子世帯は 150 世帯で、平成 22 年と比べると 67 世帯減少しています。

### 【ひとり親世帯の推移】



資料：沖縄市HP「人口統計」(各年 10 月 1 日現在)

※母子世帯：未婚、死別又は離別の母親と、未婚の 20 歳未満の子供のみから成る一般世帯 (他の世帯員がないもの)

※父子世帯：未婚、死別又は離別の男親と、未婚の 20 歳未満の子供のみから成る一般世帯 (他の世帯員がないもの)

## 2. 出生、婚姻、離婚の動向

### ① 出生数と合計特殊出生率の推移

沖縄県人口動態統計によると、本市の出生数は令和元年で 1,426 人となっており、平成 30 年と比べると 198 人減少しています。

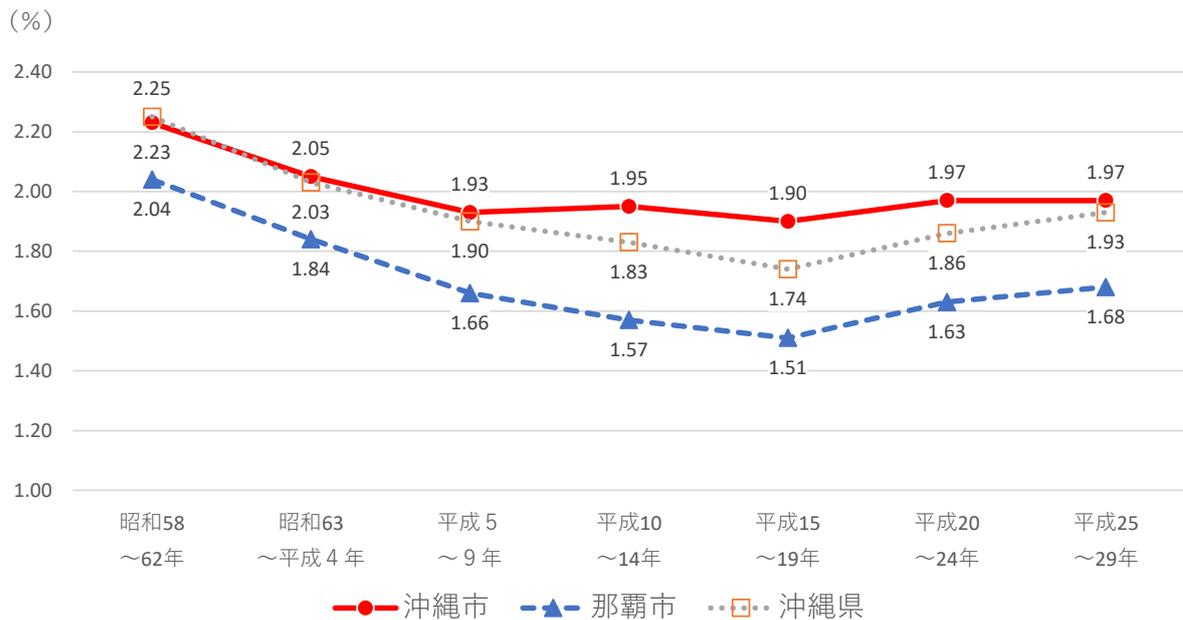
#### 【本島市部における出生数】

	沖縄県	沖縄市	宜野湾市	那覇市	浦添市	名護市	糸満市	豊見城市	うるま市	南城市
平成26年	16,373	1,629	1,236	3,306	1,400	725	762	867	1,285	379
平成27年	16,941	1,727	1,252	3,296	1,418	704	749	905	1,430	473
平成28年	16,617	1,765	1,281	3,176	1,355	713	770	829	1,337	462
平成29年	16,217	1,641	1,241	3,084	1,289	667	757	836	1,348	470
平成30年	15,732	1,624	1,157	2,916	1,245	736	733	857	1,325	470
令和元年	14,902	1,426	1,136	2,818	1,171	676	711	761	1,264	406

資料：「沖縄県人口動態統計」

人口動態保健所・市町村別統計によると、本市の1人の女性が一生に産む子どもの人数とされる合計特殊出生率は、平成 25～29 年で 1.97 となっており、沖縄県や那覇市の数値と比較すると高い傾向となっています。

#### 【合計特殊出生率の推移】



資料：厚生労働省 人口動態保健所・市町村別統計

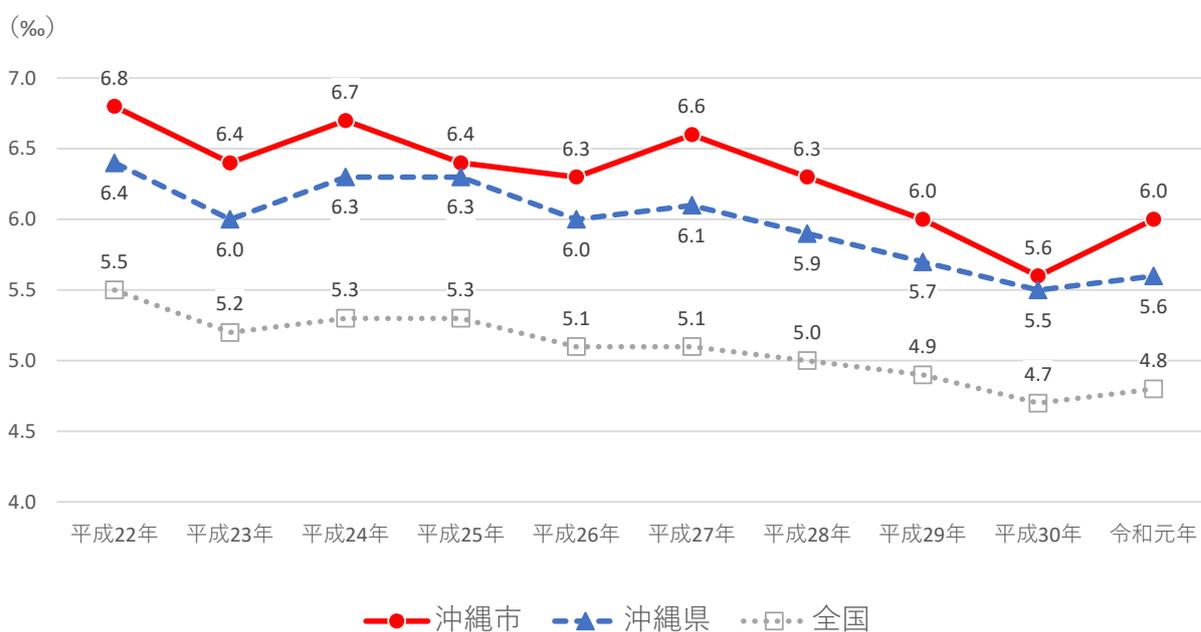
## ② 婚姻の動向

本市の婚姻率（人口千対）をみると、令和元年は6.0で、839件となっています。婚姻率の推移をみると、増減しながらも減少傾向にありましたが、平成30年から令和元年にかけて増加しています。

また、沖縄県、全国と比べると、本市の婚姻率は高い傾向にあります。

### 【婚姻率の推移】

		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
沖縄市	婚姻率	6.8	6.4	6.7	6.4	6.3	6.6	6.3	6.0	5.6	6.0
	婚姻件数	877	827	873	843	837	906	881	851	786	839
沖縄県	婚姻率	6.4	6.0	6.3	6.3	6.0	6.1	5.9	5.7	5.5	5.6
全国	婚姻率	5.5	5.2	5.3	5.3	5.1	5.1	5.0	4.9	4.7	4.8



資料：「沖縄県人口動態統計」

### ③ 離婚の動向

本市の離婚率（人口千対）をみると、令和元年は2.56で、357件となっています。離婚率の推移をみると、平成23年から平成27年にかけて減少傾向にありましたが、平成27年から平成30年にかけては、やや増加傾向がみられ、平成30年から令和元年にかけ大きく減少しています。また、沖縄県、全国と比べると、本市の離婚率は高い傾向にあります。

#### 【離婚率の推移】

		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
沖縄市	離婚率	3.00	3.13	3.00	2.96	2.78	2.69	2.92	2.74	3.06	2.56
	離婚件数	389	408	394	389	369	371	406	386	427	357
沖縄県	離婚率	2.58	2.56	2.59	2.59	2.53	2.53	2.59	2.44	2.53	2.52
全国	離婚率	1.99	1.87	1.87	1.84	1.77	1.81	1.73	1.70	1.68	1.69



資料：「沖縄県人口動態統計」

### 3. 就労の状況

#### ① 労働人口・完全失業者等の推移

平成27年の本市の労働力人口は53,861人（対総人口比38.7%）となっており、そのうち就業者は49,997人（対総人口比35.9%）、完全失業者は3,864人（対総人口比2.8%）となっています。非労働力人口は35,857人（対総人口比25.7%）となっています。

また、完全失業率（労働力人口に対する完全失業者の割合）は7.2%となっており、沖縄県の6.3%より0.9ポイント高くなっています。

#### 【労働人口・完全失業者等の推移】

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	沖縄県 (平成27年)
総人口		115,336	119,686	126,400	130,249	139,279	1,433,566
15歳以上人口		89,240	93,149	100,407	105,150	113,017	1,170,446
労働人口	労働力人口総数（人）	54,165	53,833	56,281	58,803	53,861	629,394
	対総人口比（%）	47.0%	45.0%	44.5%	45.1%	38.7%	43.9%
	対15歳以上人口比（%）	60.7%	57.8%	56.1%	55.9%	47.7%	53.8%
	就業者（人）	46,593	47,508	48,598	50,271	49,997	589,634
	対総人口比（%）	40.4%	39.7%	38.4%	38.6%	35.9%	41.1%
	対15歳以上人口比（%）	52.2%	51.0%	48.4%	47.8%	44.2%	50.4%
	完全失業者（人）	7,572	6,325	7,683	8,532	3,864	39,760
	対総人口比（%）	6.6%	5.3%	6.1%	6.6%	2.8%	2.8%
	対15歳以上人口比（%）	8.5%	6.8%	7.7%	8.1%	3.4%	3.4%
	対労働力人口比（%） (完全失業率)	14.0%	11.7%	13.7%	14.5%	7.2%	6.3%
非労働力人口（人）		34,611	37,275	38,857	38,706	35,857	398,505
対総人口比（%）		30.0%	31.1%	30.7%	29.7%	25.7%	27.8%
対15歳以上人口比（%）		38.8%	40.0%	38.7%	36.8%	31.7%	34.0%

資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

※完全失業者：収入になる仕事を少しもしなかった人のうち、仕事に就くことが可能であって、かつ、職業安定所に申し込むなどして積極的に仕事を探していた人

※非労働力人口：収入になる仕事を少しもしなかった人のうち、休業者及び完全失業者以外の人

※完全失業率（%）＝完全失業者（人） ÷ 労働力人口（人）

## ② 年齢別労働力率の推移

平成 27 年における本市の労働力率をみると、男性では 25～54 歳の各年齢階級で 90%以上と高くなっています。

一方、女性の年齢別労働力率をみると、25～29 歳の 79.5%をピークに 35～39 歳まで低下し、その後 40～44 歳で若干割合が高くなり、45 歳以降は低下しています。また、25～54 歳までは各年齢階級で 70%以上となっています。平成 22 年と比べると、全体的に女性の労働力率が高くなっています。

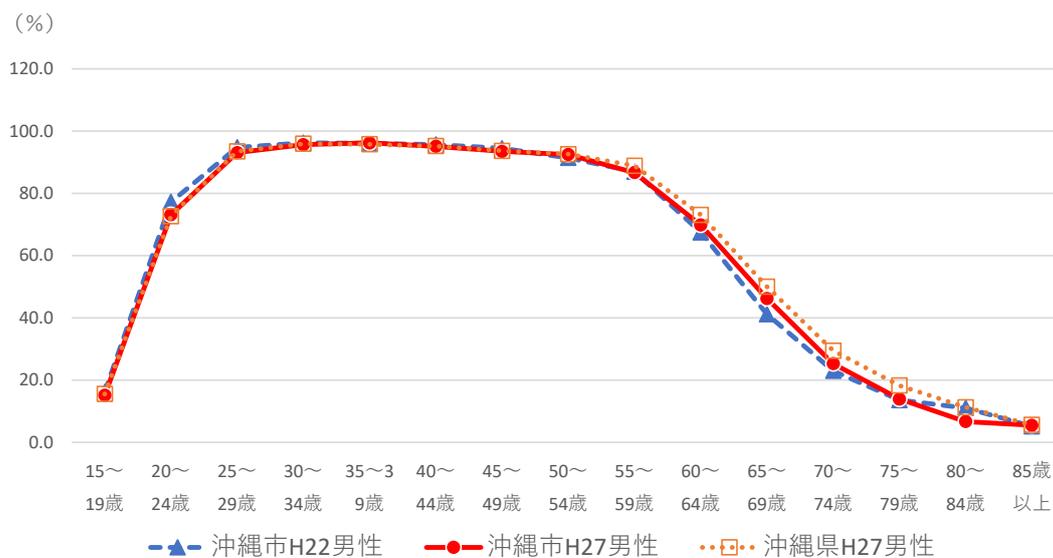
### 【年齢別労働力率の推移と比較】

	沖縄市				沖縄県	
	平成22年		平成27年		平成27年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
15～19歳	16.2	14.9	15.1	14.2	15.6	13.7
20～24歳	77.3	70.0	73.1	69.8	72.7	68.7
25～29歳	94.8	75.6	93.1	79.5	93.5	81.4
30～34歳	96.3	70.1	95.7	76.9	95.9	77.9
35～39歳	96.1	68.6	96.2	75.6	95.8	77.5
40～44歳	95.7	70.1	95.1	76.7	95.2	78.4
45～49歳	94.5	69.5	93.5	75.0	93.7	77.1
50～54歳	91.4	65.7	92.5	72.2	92.6	74.4
55～59歳	87.0	57.2	86.7	64.1	88.9	68.0
60～64歳	67.5	38.2	69.8	45.6	73.1	49.9
65～69歳	41.2	20.6	46.2	27.9	50.1	31.8
70～74歳	23.0	10.2	25.3	13.6	29.5	16.5
75～79歳	13.6	5.8	13.9	6.3	18.3	8.1
80～84歳	11.1	4.0	6.7	3.9	11.3	4.6
85歳以上	5.2	1.7	5.5	2.0	5.6	1.8

資料：沖縄市HP「人口統計」（各年 10 月 1 日現在）

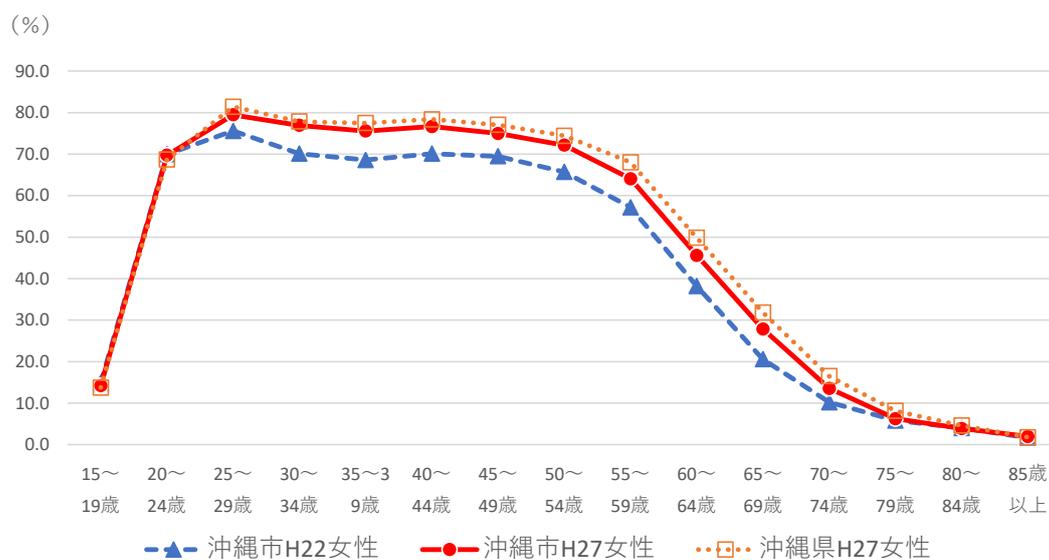
※労働力率：「15 歳以上人口」に占める「労働力の割合」＝「労働力人口」÷「15 歳以上人口」× 100

### 【年齢別労働力率の推移（男性）】



資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

### 【年齢別労働力率の推移（女性）】



資料：沖縄市HP「人口統計」（各年10月1日現在）

### ③ 産業別就業人口の推移

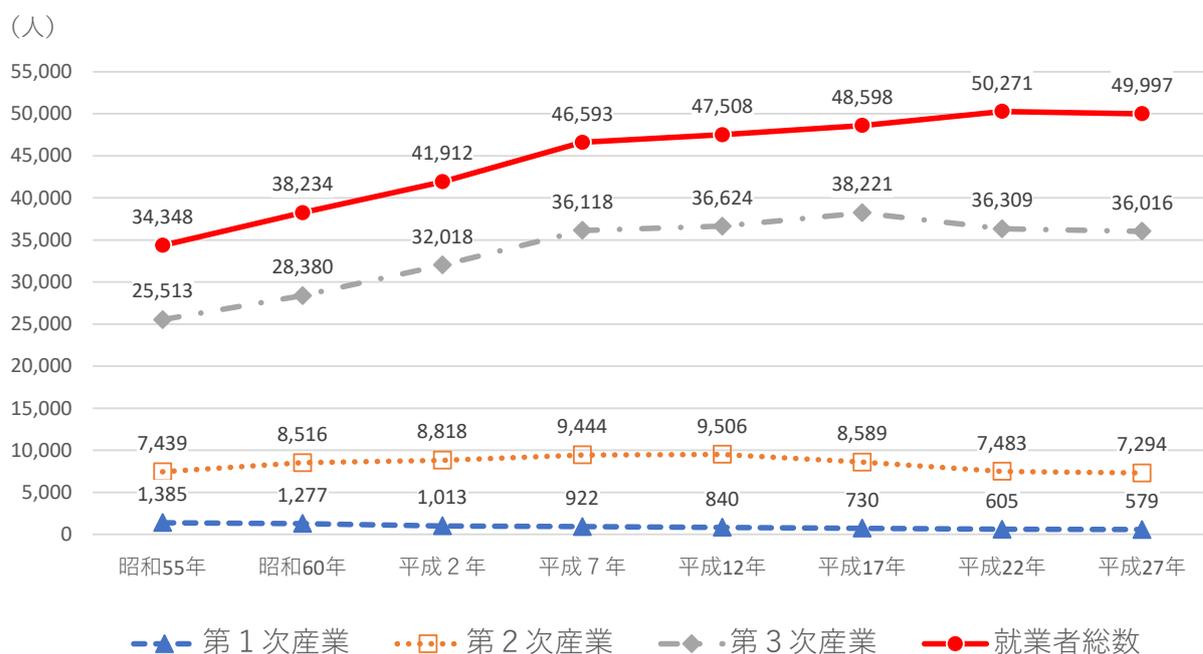
平成 27 年の本市の産業別就業人口について、就業者総数は 49,997 人で、そのうち第 1 次産業が 579 人、第 2 次産業が 7,294 人、第 3 次産業が 36,016 人となっています。昭和 55 年（1980 年）以降、平成 22 年（2010 年）にかけて就業者総数は増加傾向にありましたが、平成 22 年から平成 27 年にかけて就業者総数が減少しています。

また、第 1 次産業については、昭和 55 年以降減少が続いており、平成 22 年で昭和 55 年の半数以下となりました。平成 27 年にかけてもさらに減少しています。

第 2 次産業については、平成 12 年（2000 年）をピークに減少に転じており、平成 27 年にかけて減少傾向が続いています。

第 3 次産業については、平成 17 年（2005 年）をピークに減少に転じており、平成 27 年にかけて減少傾向が続いています。

#### 【産業別就業人口の推移（15 歳以上）】



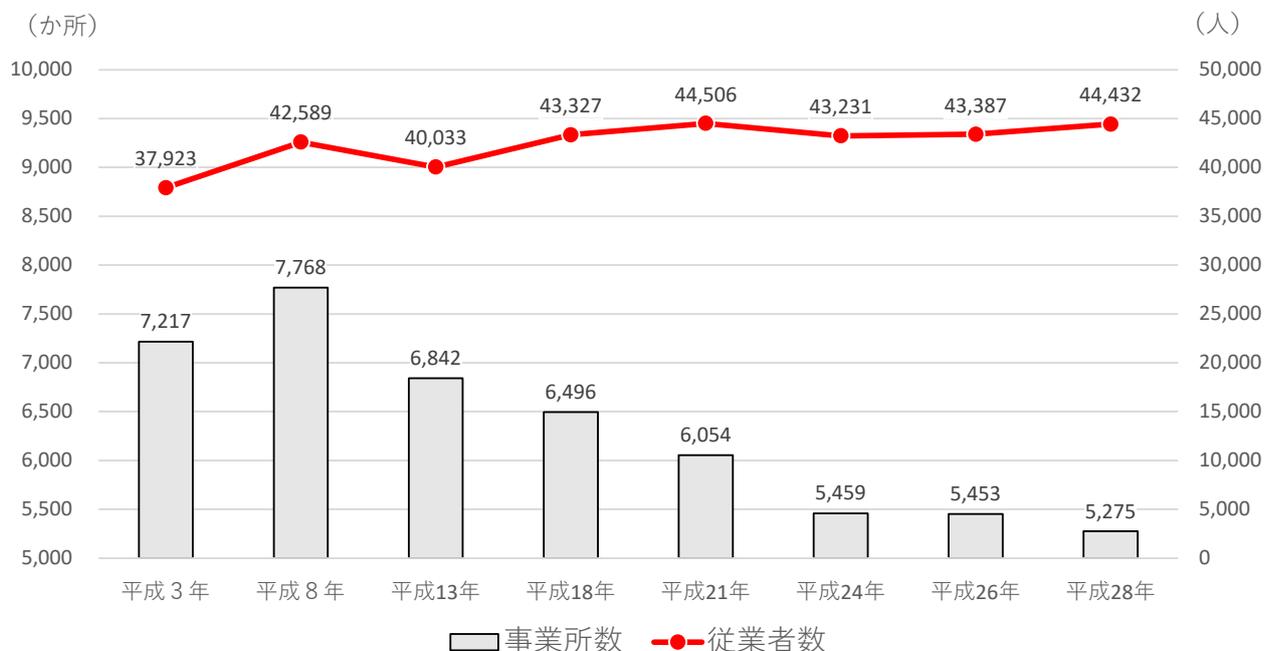
資料：総務省「国勢調査」（各年 10 月 1 日現在）

#### ④ 従業者数と事業所数の推移

事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査における、市内の事業所数の平成3年からの推移をみると、平成8年の7,768事業所をピークに減少を続け、平成28年には5,275事業所となっています。

一方、従業者数については、平成21年以降はほぼ横ばいで推移しており、平成28年には44,432人となっています。

##### 【従業者数と事業所数の推移】



資料：事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査、経済センサス活動調査  
(各調査とも民営企業のための統計を使用)



(仮称)

第6次沖縄市地域保健福祉(活動)計画に関する  
市民アンケート調査 調査結果報告書

発行年月 令和3年3月

発行 沖縄県沖縄市

編集 沖縄市健康福祉部ちゅいしいじい課

〒904-8501 沖縄県沖縄市仲宗根町26番1号

電話: 098-939-1212 (代表)